

- 第1回札幌情操教育の一環として本道図工教育の進展をはかるため
- 第2回札幌美術教育の新思潮である創造主義美術教育の諸問題について
- 第3回旭川美術教育の指導とは何か
- 第4回函館図画工作教育実践上の諸問題について
- 第5回釧路図画工作教育における学習指導上の問題点の解明
- 第6回札幌造形教育においてつくり出す力を養うにはどうしたらよいか
- 第7回室蘭のぞましい造形教育における具体的諸問題について
- 第8回小樽図画工作学習によって児童生徒の人間性がどのように培われるか
- 第9回帯広新段階における造形教育のあり方
- 第10回網走本道における造形教育の実践を通して今後のあり方を見よう

# 造形教育連盟20年

- 第11回滝川子どもたちの芸術性を育てるために私たちは何を与え何をすべきか
  - 第12回名寄子どもが生活を見つめて造形的に高まっていくために私たちはどうしたらよいか
  - 第13回余市子どもが生活を見つめて造形的に高まっていくために私たちはどうしたらよいか
  - 第14回札幌子どもの造形能力とは何か
  - 第15回稚内子どもの造形能力とは何か
  - 第16回室蘭子どもの造形能力とは何か
  - 第17回函館指導の構築を具体化する
  - 第18回苫小牧指導の構築を具体化する
  - 第19回札幌造形能力は、どのような指導によって育てられるか
  - 第20回旭川ゆたかに生きる子どもの造形能力をどう育てるか
- 昭和45年7月 ■ 北海道造形教育連盟 ■

造形教育連盟 20年

昭和45年 7月

北海道造形教育連盟





## 連盟発足20周年を祝して

北海道教育委員会 教育長

岡 村 正 吉

本年七月末、旭川市において開催される貴連盟の全道大会が、既に第二十回を数えるに至ったことを聞き、地道に確固たる業績を積みあげて来られたご苦労に対して敬意を表するものであります。

一口に二十年と申しましても、その間における社会情勢の変化やそれに伴う教育事情に  
応じて、関係者は幾度も試練に立たされましたが、その都度、各位の英知と実践力をも  
ってその解決にあたり努力してまいりました。

特に、人間形成に大きな働きをもつ情操面の教育については、常にその重要性が叫ばれ  
また、貴連盟におかれても、それにこたえて造形教育に関する地道な実践研究を推進され  
營々とその実績を示してまいりました。

時あたかも学習指導要領改訂のときにあたり、創造性豊かな、調和のとれた人間形成を  
目ざして、教育内容の改善が行なわれたことを考えると、貴連盟の実践研究の実績は高  
く評価されるところであります。

現在の社会情勢は、予測ができなかったほどの飛躍的な変化を見せておりますが、この  
変化と動揺の中にあればこそ、いっそう確固たる教育の權威が求められており、また、教  
育の役割りを厳しく問われるのであります。

しかし、これに対する回答は、あくまでも関係者による日々の地道な実践研究をもって、  
ひとつひとつを結びあい、築きあげていくところに求められるものであります。

この意味において、未来を創る子どもは、まじめに創造的な実践を展開していく教師に  
よって育てられるものと信じるのであります。

子どもが、生き生きと、しかも真剣な学習活動を展開する造形教育のいっそうの充実が  
はかられるよう、貴連盟および会員各位のご努力とご健闘に期待するとともに、いよいよ  
ご発展を遂げられるよう祈念して祝辞といたします。

## 敬祝・造形教育連盟20周年

北海教育評論社社長

石 附 忠 平



北海道造形教育連盟が誕生してから、もう二十年になるといふ声を聞いた。歲月の流れのまことに早いことを感じ、それと共に、造形教育連盟よ。ようこそ、お目出とうとの心からの感激を新にした。

戦後、教育界は、他の社会のどれよりも、明るい朗かな解放感に浸った。そして、いろんな教育界、教育者自体の発意と発想からなる、教育の実践と教育運動を生み出した。だがその中で、何と言っても特色のあるものは、造形教育の分野に立つ教育実践であつたであらう。

凡そ創造の意欲を持つと言うことは、人間とし生まれたことの最高の喜びであらう。

雪が溶けて、大地が地肌を出す。すると、子供たちはすかさず、それを堀り上げて、こねる。そして、何かしらの姿を作り上げる。眺める。人に見せ、また見る。

そして大地が乾くと、そこに、木切れ、竹切れ何でも良い。それを持ち出して、そこに頭に浮かぶいろいろな映像を描き出す。

この自然と共にあって、それと遊び、さらにそれを自分の心を通して再現する喜びは、子供らに取っての何よりの喜びであり、そしてまた、大人になつても忘れない喜びであらう。われわれは良く童心に還れというが、このことは、幼ないときのその欣喜は、人それぞれの一生涯の欣喜の泉となつていくことの證であると思う。

造形教育。戦後、このことが心ある教育者に取上げられ真剣に研究され実践されていることは、教育を考える人にとっては当然のことながら、まことに意を強くするものだ。

この教育運動こそは、全教育研究分野の底にあって、それらに人間性なるものを忘れさせない泉を提供するものだ。

造形教育連盟二十年万歳。



## 連盟20年に想う

野村英夫



戦後の混乱は日本の美術教育を一変させた。

統制もとかれて民間美術教育団体として早くから立ちあがったのが創美であった。

北海道としても自らの力によって一つ早く同志的な団体として札幌美術連盟が生れ、盛んに研究熱を上げた。道からも市からも何んの助成なしに資金を作り、こどもの道しるべとなる図工の副読本を作ることに努力をした。

それが全道的なつらなりのきっかけとなって、北海道のこどもの幸福を願って美術教育に熱意をもつ同志と手をつなぎ、大いに北海道の美術教育を推進しようと結成されたのが、現在の北海道造形教育連盟であった。

昭和二十六年十一月二十四日である。それから早や二十年の歳月は夢のように流れた。札幌を皮きりに殆んど全道各地の重要都市で年一回の大会が盛大に行われた。その中に昭和三十一年の全国大会は北海道の連盟の存在を全国に高揚した。

当時北海道の連盟の結束の偉大さを称して「北海道はとても強い研究組織ができています。本道の北海道を見なおしました。個々の研究から集団の研究へと進んでいる姿を見て、東京などは比べようありません。観光視察に網走に下りた時、網走の先生方が、連盟の腕章をつけ旗を立てて、われわれを迎え、案内してくれました。連盟の組織の力がここまで及んでいるのには驚きました。」と称賛したものであった。

全道約二千名の会員は胸に連盟のバッヂをつけて、一つの誇りをもっていたことも忘れられない。大会を年中行事の一つとして楽しみとして集って来たものであった。その頃の連盟が一入懐しく思われる。

この二十年間連盟と共に勉強した人々には今は全道的、全国的に名をなして盛大に活躍している先生方が多数いる。これは連盟の誇りであると思う。

造形連盟よ愈々結束をかため、全道造形教育発展のためがんばって下さい。

〈顧問 初代委員長〉

## 回想



新妻 清

連盟が結成されたのは昭和二十六年十一月二十四日だった。それ以前には札幌美術連盟という、小学から大学までを一貫した図画教育の振興を目指す同好者が手をつなごうというグループがあったし、終戦前から正しい図画教育が行われる様にと繁野三郎先生が全道各地の学校を行脚して授業指導を通して児童ばかりでなく先生方にも水彩画の普及を図る努力を、たった一人で十年以上も続けられたが本当に前人未踏の荒野に図画教育の踏みわけ道をつけられたのであった。

しかし、これら先人がともした図画教育への情熱は崇高ではあったが、運動としては小さくいわば一つの火種子の如きものであった。それが全道的な面へのつながりを持つために強力な発火点となったのは北海道教育評論社

が企画した北海道小学図工の学習書の編集であった。

その頃は小学中学とも各教科を推進する連盟が雨後の筈の如く誕生し、それらがやがて文部省の教科書検定に移行されて行った。造形教育連盟はまさしく生まれるべくして生まれたといつてよいと思う。この月十一月二十四日は戸外にはしんと雪の降る夕方であったが、結成式を終えて万才を唱えた葉事会館の大広間の中は暖かく、全道の教師が新しい図画工作に歩調を合わせて邁進できるといふ喜びと同志一体となって手をつないで行けるといふ大目的が最早達成されたかの様にとの人の顔も強い連帯感と満足感で一ぱいであつた。何をすることもさき立つものは資金であることは今も昔も変りはないが、連盟も商

業主義と提携して誕生はしたけれ共、初期の連盟は皆、全道と図画工作を振興させなければという強い使命感に満ち溢れていたものであつた。その初心が連盟を二十年も支えて来たのであると私は強く信じていた。

私は連盟の結成に際し発起人の一員として最初からまる十五年間お世話になった。初めは事務局長として十三年、連盟の基礎作りになつた。忙しい毎日ではあつたが、実に生き甲斐ある十三年であつた。次いで委員長として二年、教職を退くまで連盟の役員初め会員の皆さまに助けられて大任を果せていただいた。

連盟は二十年間に北海道の美術教育史上に大きな仕事を果たした。本道の児童画が漸く全国の水準並になつたのは、こども道展の力に寄る所もあるが何と云つても連盟人の連帯感に立った研さんの賜ものである。又、美術教育は画家教師の専売の如くに考えられてきた過去の誤解を正して、教師であれば誰でも可能であることを実証した造形教育大系をうち建てたのはその効績の最たるものであろう。

〈顧問・二代委員長〉

## 連盟発足の当時をしのんで



赤石武士

連盟が成人式にも当る二十周年を迎えて記念誌を発刊する」とお聞きし、心から「お目出度う。」と独言した一人です。

今、目をつむって発足当時の様子を思い出しますと、只なつかしさでいっぱいです。

終戦後の荒れ果て疲れはてた国土と人の心。「比の中からどうやって明るさと心の豊かさを取り戻そうか」と、いう私ども造形美育に携わる者の共通意識が、連盟を作る源になったと信じます。当時各地で行われる造形の要素を含む各種行事・研究会・講習会・出版事業などで顔を合せ、計画を練り、実施に移しているうち、お互がほしいに共通の目的を意識し合うようになりました。比の共通の自覚がこだわりのない話し合いとなり、自然発生的に発起人会の発足となったのでした。

今日の連盟は全道各地にほう大な会員を維持し、研究や実践の上でいづれの分野からも規制や枠付の制約を受けておりません。しかも内容においては新指導要領の改正内容に匹敵するものを既に数年前から系統表に位置づける程のレベルに達しております。

二十年前の私ども同志の人々の純粋な共通意識が少しもゆがめられず、すく／＼と発育しつつ、今日満二十才の成人式にまで発展した為であろうと存じます。ただ、私どもは此のような巾の広さと、高いレベルと、心のつながりを得た陰には、力をつくし礎となられた故人の同志があることを忘れることはできません。また、上から手を取って我々を指導下さった中央の各講師、道内の先覚者の先生方、更には側面からの支えんとして力をお貸し下さった協議団体の御好意に心から感謝の意を表するものであります。

今後、連盟は道内唯一の造形教育の組織として更に新分野を開拓し、益々発足当初の理念を具現され発展をとげられますよう祈念申し上げ祝辞といたします。〈顧問・前委員長〉

目

次

# 全道大会記録 (10回 ↓ 19回)

連盟発足二十周年を祝して	北海道教育委員会教育長	岡村正吉	(1)
敬祝・造形教育連盟二十周年	北海道教育評論社社長	石附忠平	(2)
連盟二十年に想う	初代委員長	野村英夫	(3)
回想	二代委員長	新妻清夫	(4)
連盟発足の当時をしのんで	前委員長	赤石武士	(5)
第二十回旭川記念大会を迎えて	委員	和田芳郎	(8)
造形連盟二十年概括吏	事務局長	伊東将夫	(9)

未来を目ざして発展する (講師・藤沢典明) 18 ■土器からの連想 (中村知久) 19 ■網走ならではの (佐藤秀雄) 20  
箱根大会に参加して (斎藤富男) 21

課題 (講師・植村鷹千代) 29 ■滝川大会の希い (金井委男) 26 ■集中豪雨の大騒ぎ (今八重子) 27  
連盟と私 (守野綾子) 29 ■創美のこと (長谷川伝) 32 ■雨の別府大会 (伊藤 恵) 32

検事・弁護士・裁判官 95  
第12回名寄大会 (33)

名寄大会提言・司会など (三谷哲司) 34  
第13回余市大会 (39)

寝不足の駅前宿 (40) ■新しい絵の会 (滝村虎雄) 42 ■余市の浜 (種市誠次郎) 42  
第14回札幌大会 (43)

感想 (講師・武井勝雄) ■大会の記 (高橋栄吉) 44 ■大会を終えてからの成果 (守井 孜) 45  
若い力 (中川大三) 46 ■五分前 (佐野千尋) 46 ■指導案づくりのことなど (佐藤 圭) 46  
第15回稚内大会 (49)

十五回大会に想う〈今野隆二〉50 ■弱かったグランプ50 ■裏方として〈久我 宏〉52  
 INSEAに参加して〈森川昭夫〉53 ■第17回国際美術教育東京会議に参加して〈木村晴二〉53 ■

連盟機関誌〈成田一男〉54 ■新会員からみた連盟〈香西富士夫〉54 ■  
 中文連展の様子〈新谷純輔〉54

室蘭大会記〈諏訪英雄〉56 ■いろいろ〈石塚 潔〉57 ■ビール飲み放題パーティー〈石丸雅晟〉57  
 第17回函館大会(61)

大会概要〈越田一喜〉62 ■函館大会〈加藤 彬〉62 ■悔なき大会〈古谷 格〉62  
 函館大会の夜〈佐藤吉五郎〉64 ■二十周年を祝す〈戸村キエ〉65 ■新潟大会に提言して〈ガワセウタロー〉66 63  
 第18回苫小牧大会(67)

北海道の先生方へ〈講師・森 桂二〉68 ■大会概要〈速藤末満〉68 ■苫小牧大会について〈石附省子〉70 ■  
 共通意識にたつて〈片桐 勉〉71 ■築城のこと〈船着昭弘〉72 ■運営にあたって〈池本良三〉73  
 指導の構築に関する研究物73 ■高知大会〈橋本 高〉74 73  
 第19回札幌大会(75)

熱意とチームワーク〈森 健〉79 ■三六五のマーチとともに〈山田 紀〉79 ■百花らん漫〈辻 悦平〉81 ■  
 造形大会の60年代を閉じる〈金井秀男78 ■第19回札幌大会を思う〈齋藤洪人〉78  
 全国高等学校代表者会議に出席して〈土岐禎次〉81 ■

地区近況(85)  
 桧山地区〈津村彰広〉85 ■室蘭地区〈石崎義政〉85 ■石狩地区〈三上 晤〉85 〈佐賀井勇〉86  
 札幌地区〈中村矢一〉86 ■後志地区〈鈴木喜義〉87 ■小樽地区〈樋口忠次郎〉88 ■  
 岩見沢地区〈但野栄一〉88 ■網走地区〈菅原隆治〉89 ■根室地区〈川野上彰〉89 ■  
 十勝地区〈加地保良〉90 ■帯広地区〈高橋元春〉90 ■平塚義雄〉91 89  
 釧路地区〈西 弘治〉91 ■上川地区〈大谷勝美〉92 ■旭川地区〈吉田一雄〉92 ■岩間 昇〉93 ■  
 留萌地区〈橋場昌三〉94 ■志村 猛〉94 ■稚内地区〈種田 潤〉94

役員・常任委員・地区委員一覧(96)  
 北海道造形教育連盟規約(98)  
 あとがき(99)

顧問随想

記念誌によせて 〈藤野 高常〉10  
 連盟のムード 〈桜井 忠〉11  
 匆忙二十年 〈泉 秀雄〉12  
 五十年前から 〈繁野 三郎〉13  
 タイプ 〈戸坂 太郎〉14  
 環境  
 スズランの花さく大地  
 金属工芸  
 造形連盟と私  
 〈朝倉 力男〉15  
 〈宮林 繁雄〉16  
 〈島山三代喜〉38  
 〈藤川 叢三〉74

## 第20回 旭川記念大会を迎えて

委員長 和田芳郎



昭和二十六年は敗戦の現実にさらされていた。物質的にも精神的にも枯渇しきつた私どもには、「生きる」根性で勝負のきまる毎日だった。以来二十年、連盟結成に情熱と意欲をもやした私にも、今はあわい郷愁物語りで、実感は再燃しにくいところである。この年、第一回全道図画工作研究大会が札幌で開催されたのである。連盟は当時のすさんだ、大人と子ども達を、芸術教育を通して、情操を純化しようとする指導者の団結であり、団体でもあった。

私は、伊藤恵（現、札幌市立羊丘小教頭）君と二人で、第二回全国図画工作研究大会の発表者として本道から初めて参加した。（第一回は東京でささやかなうぶ声、第二回は京都、昭和二十三年）これは、その後の北海道造形教育研究大会の運営と研究内容に非常に参考になるものがあった。末だ若く、末席にあった私どもの願望が、連盟、上層部のとりにあげるところとなって見事開花し結実しようとしていることはまちがいない。

旭川が開催地となることは昭和二十八年以来、第二回目のことである。建設途上の役員のかたがた、或は会員のかたがたも、幾多の起伏、転変があったが、その人々のご功績や協賛を心から感謝申しあげる。

今日では若い人々が、科学的に分析し、領域別に深究するようになった。理論は広く、教育学全般に、或は心理学に、又は生理学に、そして又美学の原理もふまえなければならぬ。而も単なる理屈では納得は容易でないから、実証価値は作品の成果にも影響することになった。実証された作品は、次の発展の反省資料とし、客観的原理、原則の手がかりともなり、更に、課題を生む。

私は思う。「問題解決は、教えて貰えるものでもなく、真似をするものでもない。指導者の解決への実践的意欲の連続ではあるまいか。』  
諸君のご研鑽を心から望む。

（札幌市立豊平小学校長）



# 造形連盟二十年概括史

事務局長 伊 東 将 夫

昭和二十四年四月、戦後の混乱の中に、生

命創造の表現活動をおこそうと、同志三十五

名（小学十五、中学六、高校九、大学五）が

札幌美育連盟を組織。会長、藤野高常氏、副

会長、野村英夫氏、幹事長、佐藤熊蔵氏

同年八月、全道図画工作教育講習会を、札

幌、学芸大学に開催。講師松田義之氏、西田

正秋氏、高島達四郎氏、参加者二〇〇名

昭和二十五年四月、正副会長再任、幹事長

に新妻清氏

同年八月

教諭の一、二級資格更新のため、山形寛氏

小糸源太郎氏を講師として講習会を開催。

同年十一月十三日

情報教育振興第一回全道図画工作教育研究

集會を、学芸大学札幌分校付属小学校に開催

講師、高橋正人氏、後藤福次郎氏。参加会

員三四名。

このとき、札幌美育連盟を北海道美術教育

会と改称、会長には藤野高常氏。

昭和二十六年三月、役員改選、会長、佐々

木兼次郎氏、副会長、野村英夫氏、同、寺井

信一氏。

同年六月、色彩教育講習会を札幌市中島中

学で開催、講師、日本色彩社細野尚志氏、参

加一五〇名

同年十一月二十四日 北海道図画工作連盟

大会並に創立總會を、札幌市薬事会館に開催

大学、高校はいれない形で発足した。

委員長に野村英夫氏、事務局長に新妻清氏

事業中に「北海道図工の学習」発行を決定

し、北海道教育評論社に、造本発行を依頼する

ことになった。

昭和二十七年一月 連盟機関誌第一号を発

行。

同年八月、第二回全道図画工作教育研究大

会を、札幌市曙小学校に開催（連盟としては

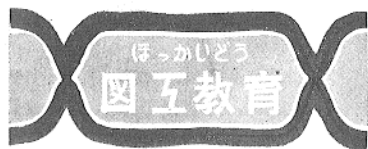
初回だが前の大会との関連で二回とする）

講師、室 靖氏、湯川尚文氏によって『創

機 関 誌  
タイトルの  
変 遷



No.13~No.28



No.12



No.1~No.11

造主義美術教育』について述べ、『創美は、その一部分を改良に利用してはならない。すべてを捨てるか、すべてを捨てるかである』と結んだ。

昭和二十八年、全道図画工作教育研究会を札幌幌東中学に開催（五月）つづいて、同年八月第三回全道図画工作教育研究大会を、旭川市日新小学校に開催。

講師、森桂一、今泉篤男、朝倉力男、手塚又四郎の四氏。

昭和三十年からの、小学校図工教科書検定制開始にともない、道内の「図工の学習」を教科書にまで引きあげて出版すべく、準備がはじまる。東京書籍株式会社に依頼することとなる。

昭和二十九年七月 第四回全道図画工作教育研究大会を函館市大森小学校に開催。講師に、北川民次氏（創美） 渡辺鶴松氏（コースオプスタター編集責任者）

昭和三十年五月、構成教育に関する研究会を、札幌市中央創成小学校に開催。講師小池藤雄氏。

同年九月、第五回全道図画工作教育研究大会を釧路市旭小学校に開催。講師、倉田三郎氏「各国美術教育の現状」岡田清氏「子ども

### 記念誌に寄せて

藤野高常

造形連盟二十年記念誌編集のお話を聞き、改めて感情を深く致します。連盟もはや二十歳の成年に成長したのであります。想えば終戦後の、物資窮乏、思想混乱の中で吾々お互いは教育の復興にどんなに苦勞したものか、初め札幌を中心とした図工研究会について、西創成小学校等で市内有志の先生方で幾度か語り合ったことなど思い出されます。それが皆様の二十年間のご努力の結果今日全道的教育活動となり、否全国的にも稀なる有力なる研究団体にまで成長発展した事実は寔に慶祝に堪えません。将来を担う青少年の為に、その創造性と自主性とを陶冶する重大なる使命を持つ造形連盟は、この機会に更に一段と自覚を深め、本道教育の進展をめざして精進したいものと考えます。皆様のご健闘を祈って止みません。

〈顧問〉

# HOKKAIDO 造形教育



No.29←No.33



## HOKKAIDO 造形教育

No. 34

の絵と工作をどう考えどう伸ばすか」

昭和三十一年八月七、八、九の三日間、二月四日以来毎週毎月の準備によって、第六回全道図画工作教育研究大会及第九回全国大会を、札幌スポーツセンター他三会場に開催。

講師、今泉篤男、勝見勝、井出則雄の三氏  
主題の「造形教育において、つくり出す力を養うにはどうしたらよいか」について、各々の立場から美育思潮を論じ合った。

参加者一、三〇〇名。

昭和三十三年、一月全国大会の全処理を終る。同年九月、室蘭市常盤小学校に、全道図画工作教育研究大会「のぞましい造形教育における具体的諸問題について」を開催。

講師、熊本高工氏「抽象的表現と新しい造形教育」

同年十二月、中学図工危機突破として、いわゆる「三三問題」が現場人の関心事となった。

昭和三十三年四月、連盟バッジができる。

同年、全国高校美術教育連盟に加入、(これよりさき、全国大会のときから高校が本連盟に加入)。

同年七月、第八回全道図画工作教育研究大会を小樽市富岡小学校に開催。

### 連盟のムード

桜井 忠

造形連盟には、ほかの教科の連盟とはちがったムードがある。

そのムードは、なんとも朗らかであり、そこには青空のような伸びやかさがあって、私は好きである。

そして、このムードは、初代委員長の野村英夫君の至芸である「百面相」に由来しているのではないかと、私はひそかに感じているのである。

彼の「百面相」は、時にはゴリラであり、ノートルグムのせむし男であり、急変してホッキ貝となる。それはリアルであって、かつロマンである。具象であって、かつ抽象である。それは活人画であり、平面であって、かつ立体である。そしてそこにはユーモアがあつて、かつ悲哀がある。

この連盟の人たちは、いつもこの野村君の至芸によって、みんなは笑い、かつ人生を感じてきたのであつた。

造形連盟二十年!!万歳!!

〈顧問〉

テーマ「図面工作学習によって、児童生徒の人間性がどのように培われるか」

講師、森桂一氏

本年度より年度末に地区委員総会ならびに研究発表会を開催することになる。

同年十月、小学校学習指導要領が改訂されて、図面工作科は新段階をむかえた。

昭和三十四年三月、三十三年度地区委員総

会並第一回研究発表会開催

連盟は、「北海道造形教育連盟」と改称

同年八月、第九回全道造形教育研究大会を

帯広市帯広小学校に開催。講師に松原郁二、

公楽源一郎、坪内千秋の三氏。

同年十月、創美道大会を札幌岡山ハウスに

開催。

同年十月、指導要領の改訂新段階に対処の

ードは一段と盛りあがる………夢は大きく羽ばたく。

一九七〇年の旭川大会、当市研究部の成果を全道の皆様に御批判を頂く日がきました。更に今大会は連盟の成人したお祝いでもあります。子どもの造形と共に歩いてきた連盟の歴史は貴重であり、戦後の復興期にあらゆる主義主張をのみほして、この広い厳しい風土の中で、北海道の造形教育のセンターとしての役割を果たしてきました。本当に有難いことです。

こうした匆忙の中で会員もそれぞれの情熱を傾けてすすく育ち、今や、開花が期待されます。さあ後に続く皆様すばらしい花を、らんまんと。  
〈顧問・旭川・旭小〉

## 匆忙二十年

泉 秀 雄

花火があがる、会員の着飾ったパレードが通る。会場には二十回大会の大アーチが皆様を歓迎する。第一回から二十回までの都市の旗がひらめく、代表が功労章をつけて右ステージに来賓は左ステージに顔をそろえる。式典の幕はきられ、開会の宣言、ファンファーレが鳴る。天井のくす玉がわらわらと花吹雪と幸運のカードが会場一ぱいに舞う。子どもたちがつくる造形の発表でム

ため、小学校図工カリキュラム自主編成、研究協議会を札幌市北九条小に開く。

昭和三十五年三月、三十四年度地区委員総

会並に第二回研究発表会をアカシヤ荘に開催

同年四月、中学校指導書編集と、二二三運

動の協議。全国中学校図画工作連盟に加入に

決定。

同年七月、全道造形教育大会を網走市網走小学校に開催。本連盟結成十年記念大会。講師、藤沢典明氏「デザインについて」

記念誌「造形教育の十年」を発売。

また同年十二月、札幌市では、「札幌市小学校造形展第一回を大丸ギャラリーに発表。」

研究は、実証性を重視する方向をとりつつあった。

昭和三十六年三月、定期委員総会、研究発表会を札幌市民会館に開催。

同年七月、第十一回全道造形教育研究大会を、集中豪雨の中、滝川市滝川第一小学校に開催

パネルディスカッションを最初にくみ入れたが、好評で、以後の大会には、しばしば取り

いれられるようになった。

小、中、大学の実践者、父母代表など、それぞれの立場で、美術教育について論議をたかかわせ、大会全体のオリエンテーションの

## 五十年前から

繁野二郎

私共は五十年前に「図画教育」という新語を誇らしげに口にした。図画によって人間教育をしようという意気こみを表現したかった。

そして四十五年前に「札幌市小学校教育研究会図画科研究部」なるものが、全市十二小学校二十四名の部員で組織された。私  
のいた北九条小学校の中田直義校長が、最

役を果たさせるものであった。

講師、植村鷹千代氏

昭和三十七年三月 定期委員総会研究発表

会を、札幌アカシヤ荘に開催。中学校美術の

二・三問題などについて確認。

中学校の教科課程案が、三十三年以来の研究の総まとめとして機関誌にのる。

同年七月 第十二回全道造形教育研究大会を、名寄市南小学校に開催。

テーマ「子どもが生活を見つめて、造形的にたかまっていくなために、われわれはどのよ

初の部長の任についた。それからの各校は、全職員が図画教育に熱をあげるようにと、

輪番で研究授業や、研究発表会を催し、北九条小学校では、よく全校図画の授業を公開

した。その結果昭和二年には他の教科に先じて、市の名によって「図画教育の理論と

実際」を刊行して各校に配り、更に全国著名の指導者にも贈り、私が出張して種々教

えを受けたことがあった。

これは、僅かに一市の昔語りに過ぎないが今日は道の組織にまで発展して既に二十年、その成果は実に偉大なものになっている。

〈顧問〉

うにしたらよいか

講師 西光寺 亨氏「デザイン教育の問題

点」

同年九月「小学校図工教科課程」連盟案が、機関誌二十五号付録として発表される。

これは、三十三年の指導要領改訂後間もなく発表された、高橋栄吉氏「カリキュラム構

成の基底」、伊藤忠氏「新指導要領にみる図画工作科の系統」（機関誌十二号）連盟編「北

海道小学校図画工作科年次指導計画試案（機関誌十五号）のあとをうけた、一連の研究成

果で、後の系統表、体系表などにつながるものである。

同年十月 北海道造形教育センター誕生。

昭和三十八年三月 地区委員総会、研究発表会開催。

同年七月、第十三回全道造形教育研究大会を、余市町黒川小学校に開催。

テーマ「子どもが生活を見つめて、造形的にたかまっていくなために、われわれはどのよ

うにしたらよいか」

講師、井出則夫氏「子どもの生活と造形教育の体系化」

連盟本部研究部によって「小中高、学習内容の系統表」を発表。

昭和三十九年一月「イーゼルペイント」として、子どもたちに親しまれ、連盟の賛助会員としても陰に陽に支援を惜まなかった絵具

会社が閉鎖となる。

同年三月、地区委員総会で、新委員長に、新妻清氏就任。野村委員長は現職を去って、顧問となった。

同年七月 第十四回全道造形教育研究大会・第九回造形センター全国大会を、札幌市北

九条小学校に開催。

連盟本部研究部編「造形能力体系表」を発

## タイプ

戸坂太郎

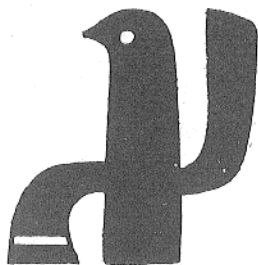
美術教師にも色々のタイプがある。私は若い頃はともかく後半は絵を描かない美術教師で通って来たようで、あまりほめられたことでないと思っている。職場の仕事に執意があつてしかも時にふれ見ごたえのある自作を見せてくれる人が本ものであるか。制作意欲の極めて旺盛な先生が繁雑な分掌事務に堪えかね、十箇年の職場を捨て、上京したのを知っているが、まことに良心

的な態度と思う。私の場合は自分の才能の限界を悟つたということもあつて前者の反対の立場をとつたわけなきけないことである。

新しい中学校の指導要領には、描くことと作ることの喜びを味わせるとある。もつともなことで、密度の細い指導をするためには教師自身もこの境地を一応味つておくことが必要で、特に小学校の場合先生方同志お互いの劣等感を捨てて写生会を持つたり、粘土いじりを楽しんだりする試みは、ほんとうに研修効果のあがる行事だと思つ。

〈顧問〉

No.35→現在



表した。

参会者には、川村浩章、林健三、佐藤諒、大和屋蔵、米倉正弘、藤沢典明、また講師には、武井勝雄氏「子どもの造形能力の発達について」があり、全国的な大会にふさわしいものであった。

また、その際札幌市の研究「紙のつみあげについて」が発表された。

昭和四十年三月、地区委員総会を札幌市北師会館に開催

同年七月、第十五回全道造形教育研究大会を、稚内市南小学校に開催。

テーマ「子どもの造形能力とは何か」教材の面からのたしかめ」

講師、藤川基氏、「生活の中の彫刻」

同年八月二日―八日第十七回国際美術教育

東京大会。北海道からの参加、新妻委員長、

木村晴一、笹野尚明、金井秀男、側瀬宇太郎

森川昭夫、中村矢一の各氏

昭和四十一年三月、地区委員総会を北師会

館に開催。新委員長に赤石武士氏、新妻氏は

現職を去つて顧問となる。

研究主題を「子どもの造形能力とは何か」

指導の構築を通して――

全体的に研究は、理論の段階から実践の段階に入り、とくに実践結果の作品ももちよりによる討議が多くなっていたが、どのようにして、その作品がうみ出されたのか、どのような指導が、その作品にかかわったのかはあまり明確にされないでいた。「指導の構築」は、そういう意味でまことに重要であった。

しかも、それは昭和三十三年の新指導要領に端を発した一連の研究の総括ともいえるものであった。

とくに、つきつぎと発表になった、諸表は



いずれも討議に討議をかきねてつくったにも拘わらず、わかりにくいという悪評ばかりが耳に入っていたから、今度は、その表が指導の具体面にどう生かされるのかを、わかりやすく文章や写真で発表したいと願ったわけであつた。

同年七月、第十六回全道造形教育研究大会を室蘭市武揚小学校に開催。

講師、上条雄也氏、「造形能力の意味」

昭和四十二年五月、地区代表委員会、全道

造形教育研究大会を、札幌東小学校と、アカシヤ荘で行う。

ここで指導の構築がどのように行なわれたか「指導の構築」は何をいつているのか？などについて話し合われた。

同年八月、第十七回全道造形教育研究大会

を函館市青柳小学校に開催。

連盟編「指導の構築第一集」一〇〇頁を発売

表——指導の構築を具体化する——新しい教材と新しい授業づくり——

## 環 境

朝 倉 力 男

窓下の僅かな地面に蒲公英を植え、開花時の美しさを夢にえがきながら、よく肥えて生きのいいのを選んで、大きな風呂敷に二包みもとってきて、丁寧に土を掘り起して植えた。

毎朝水をかけて元気に育つことを祈った。ところが根がついたのは二三本であつた。今度は種子を蒔いたが結果は思わしくない。蒲公英なら何処にでも簡単に育つてくれ

るものだと考えたのがしろうとの浅ましきで、生育するには環境というものが大切であることを忘れていた。

教育という仕事は育てはくくむことである以上環境の大切であることを忘れてはならない。どんな立派な理論も指導法も環境の如何によつては、児童の心となり身となつて育たない。

人格の完成を目標としている美術教育に於ては、美を探ることによつて、立派に生育していける適切な環境に置いてやることを考えなければならぬ。

〔顧問〕

講師 上昭二氏「コンピュータ時代における美術教育」

昭和四十三年七月、第十八回全道造形教育研究大会を苫小牧市東小学校に開催、二日目地区委員総会を開いた。

テーマは、昨年に引きつづき、

指導の構築を具体化する——教材の新しいとらえ方——

講師は、道内に何度か見えた森柱一氏で、演題は「造形教育における構造と課程」であつた。

「指導の構築第二集」一〇〇頁を発売  
小学校学習指導要領改訂される。

札幌市に近いこともあって、苫小牧市へは大会前にも数回おとすれ、「指導の構築」について話し合った。「構築」ということばが難しい感じを与えるということであつた。

昭和四十四年三月、地区代表者会議を北師会館に開催。新委員長に和田芳郎氏が就任、赤石氏は現職を去り顧問となる。

同年八月、第十九回全道造形教育研究大会を、新装なった札幌市中央小学校に開催。

「指導の構築」について、具体的な研究発表、授業をもちよつて、ここに指導の構築に關するしめくくりをすることになつた。

連盟編「指導の構築三集」には、今やその意味がある程度地方の人々にもわかっていただけた段階として、半分を地区の人々の研究発表のスペースにとり、必要な諸表とともに掲載、頁数二〇〇。

昭和四十五年二月、地区代表委員会を札幌北師会館に開催。

## スズランの花咲く大地

宮林 繁雄

何年も前にトラピスチヌの丘から移植したスズランが庭の片隅に、例年にない酷しい風雪を越えて今年は格別多数の香くわしい花房をつけて咲誇った。人はときに殺物のできない土地を不毛の地と呼んでいるが、そのような所にスズランはよく育つということを目にし不思議に思ったものだ。植物学者によれば全道いたる所にその群落をみるということである。

思えば造形連盟発足の第一歩は、そのよゆうな大地にあの一振りの鍬を入れた開拓のフィクションと重って眼前に彷彿するもの

同年七月、第二十回全道造形教育研究大会を旭川市北星中学校に開催予定。

主題「ゆたかに生きる子ども造形能力をどう育てるか」

来年度に、小学校は新指導要領実施を控え、新しい主題はどのように展開されるであろう。ちなみに本部研究部会は、各領域別、学年別

がある。その初心は全道の隅々まで、肥えた土壌と、よき種子と、豊かな実りとをねがい、そうして、R・アルンハイムの言葉を借りていうならば恰も△子どもが形と色で実験をはじめるとき、かれらは体験した事物をあたえられた媒体の中にどうやって表現したらよいか、そのやり方を発明する仕事に直面したことであろう。もとより美術教育そのものには「想像」の根基があるが、あれから各地の大会二十年の歩みはまた想像的努力の積重ねということができよう。

わたくしの連盟のみなさんとの出あいは、二七年第二回札幌大会にはじまり、新思潮や美術教育の諸問題を掲げた年である。一年おいて第四回の函館大会では企画運営に加わり、はじめて主催することの貴重な体験を得た。

に、「ねらい」「視点」「技法」「能力」などについて整理し、わかりやすい表づくりに努力している。

連盟発足から十年までは連盟十年史による。十年以降は橋本富先生の資料提供による。

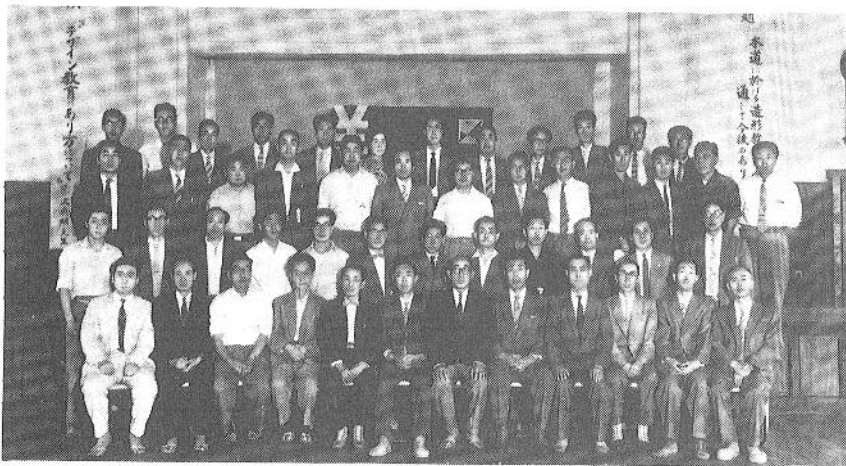
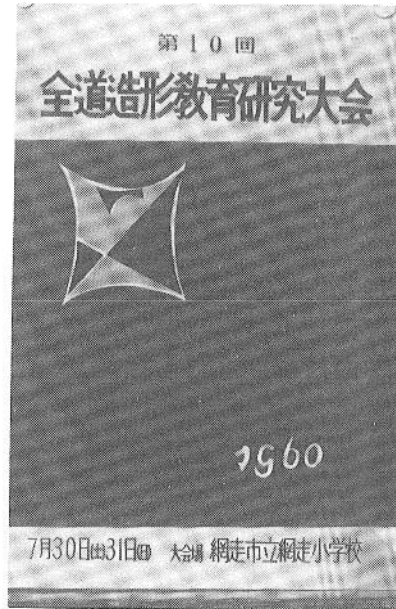
当時は「何か新しいもの」をとの考えに傾いていたように記憶する。これがために古いものを無視したりあるいは事実をまげて把握するというおそれがなかったとはいえない。やはり真の想像の動機は、アルンハイムのいう「内界および外界について自然にいだく独創的な見方からはじまって、真実をゆがめるよりは、真実を確認する」態度に発する表現に求めねばなるまい。そして次代に対応するより高度な美術教育の映像化が期待されるものと信じる。

いま六十余種の花咲き初むという大地の果ての報を聞くにつけ、それぞれの土壌にふさわしく咲誇った各大会での感慨が胸裏を去来し懐旧の情切なるものがある。

〈顧問・函館教大〉

全道大会記録(10回・19回)

第10回 網走市  
会場校 網走小学校  
昭和35年7月30・31日





## 未来を目ざして発展する

講師 藤 沢 典 明

私が北海道造形教育連盟の招きを受けて、網走小学校の大会場を訪れたのは、今から十年前、昭和三十五年七月二十日 あった。

三三年版の指導要領が実施される前年であり、また全道大会も十周年という記念すべき第十回大会であったから、全道からの参加者も多く、講堂に溢れる会員を前にした講演は、「デザイン教育のあり方と指導の系統」であったと記憶している。

当時の連盟委員長は、野村英夫先生で、前日、千歳飛行場まで出迎へいただき、札幌まで車を飛ばし、そのピアホールで一

息ついたときのサッポロビールのおいしかったことは今でも忘れられず、そしてその足で網走まで汽車にのり、着いてからの、オホーツク海の魚をねたにしたにぎり鮭のあのうまかったことも、それ以上に忘れることができない。

七月というのに、海面にはまだ流氷がたむろしていて、澄んだ空と、さわやかな風は、さい涯ての国まで来たという感慨に、ひとしおふけることができた次第であった。

六つの公開授業と八つの分科会、また翌日の学校種別の四つの分科会、それらを通して

私は北海道の造形教育の実践のたしかなと研究の深さ、そして、それぞれの地域に根をおろした北海道造形教育のすばらしさを身をもって体得し感動した。

その当時の連盟の役員、授業者、司会者提案者たち、その人たちは全く戦後の北海道教育を推進してきた人たちであつたらうし、そして更にこの二十周年まで、あらゆる困難と斗ってきた人たちであつたらう今日、もはや世代は変わり、多くの新人も輩出したことと思うが、これからも北海道の教育、殊に造形教育が、創立当初の精神を忘れず、健全に生き、動き、未来を目ざして発展することを疑わない。心から二十周年を祝福申上げる次第である。

⇨ 光大教授

### 研究主題

本道における造形教育の実践を通して、今後のあり方を見出そう。

連盟が発足してから十年の歳月がたちました。

この間、連盟は地道な教壇の実践を通し

て、本道の造形教育のあるべき姿を求めて努力してまいりました。その成果は、本道造形教育の堅実な発展を促して来たことを自他共に認めるところであります。

たまたま教育課程の改訂問題を契機に造形教育本来の姿を確認する必要が生じ、第八回

以来問題の解明に努力してまいりました。人間形成のための造形教育、さらに造形教育の面する諸種の問題をとりあげて研究してまいりましたが、改訂指導要領実施期を前にして、これらの問題を綜合定着する

必要に迫られたので、本主題を設定し、そ

の目的を達しようとするものであります。  
昭和三十三年指導要領が改訂となるや、  
第九回帯広大会は、

「新段階における造形教育のあり方をテーマに打出したが、網走大会もまたそのあとをうけ、翌三十六年の『指導要領実施』

にむかつて研究をすゝめていった。

講師には、当時東京都、今川小学校教諭の藤沢典明氏を依頼、新指導要領にはじめて、でたカタカナ領域「デザイン」について、

「デザイン教育のあり方について」をとり上げることにした。要旨はつぎの通り、

## 土器からの連想

### 中 村 知 久

近時埴輪や弥生式の土器などのプリミティブな美しさが、日本の原始美術として大きな位置を示めてきた。北の涯の網走もモロロ人やアイヌなどの遺跡の多いところで、壺などにしても他と異った形式のものも多く発掘されている。生活に密着したものの美しさが身近かな風物であったオホーツクの波濤を抽象化して厚衣に土器に神器にするし、壺の形態と相俟って私達に接している様な心の共感を覚えさせる。

あらゆる場合に通ずると思うが生活と遊離した美術というものはないと思う。これは役に立つものをつくるということではなく、

喜びであれ、悩みであれ、それらを引くくめて思想といってもよいが、それが表現され人の共感を呼ぶことと考えたい。

学校の図画工作も人間形成を目ざす美術教育であると考えれば、何時までも色遊びに放置しておくことや、大人の感覚だけの指導やオートマチックな方法のみのおしつけなどをしてやしないかと、心配である。

オホーツク文化圏など言われても、私には考え方でも、実際でもその遺物に恥しにくらいの不明のことが多い。幸い今年は第十回の記念大会を開催することになったので、全道の同志諸賢の研究で当地方を啓蒙していただけるよう希望している。又原始の遺物や北方的風土が諸賢の美術的感興を起すすがともなればと希望している。

(網走・西小学校)

○新指導要領(小・中)のデザインの考え方

○デザイン教育の系統性

○デザイン学習の指導の要点

○作品の見方について

1 基礎学習 造形教育の基礎として――造形あそび、自由な構成、構成練習

美的秩序へのみち――視覚言語(色・形・

材質など) 造形文法合理的秩序へのみち――

材料、機能、構造練習 機能性

①形体練習

A、平面

(イ)点・線・形

自然観察から表現へ

人工的な形の観察から表現へ

偶然的な形の発見とその発展

(ロ)平面構成

シンメトリー

バランス

リズム

プロポーション

ハーモニー

フォトグラム

明暗構成

フォトモンタージュ

カラージュ

B、立体

(イ)面・線・マッス

自然観察から表現へ

人工的な形の観察から表現へ

偶然的な形の発見とその発展

(ロ)立体構成

レリーフ

面の立体構成

線の立体構成 空間構成

マッスの立体構成

②色彩練習

A 色彩の秩序

B 色彩の性質

C 色彩の調和と機能

D 色彩の心理とその応用

③材料練習

A 地肌

視覚的地肌 } コラーージュ

触觉的地肌 } フロタージュ

B 材質 紙・布・セロファン

皮・木・石・土・金属・合成材料その他

④表示練習

フリーハンドスケッチ

(構想表示)

### 網走ならではの

佐藤 秀雄

少し思い上って——大会を引き受けたことを今更悔い乍らも又網走ならではの大会として全道の諸兄によるこんで頂く為の一つとして計画した国定公園の写生大会

美しいものによるこびを感じることも大なる会員各位に網走大会のすべてのマイナすをこれでプラスに置きかえる自信をもつて、PRする。

計画は二日目の午後オホーツク海を眼下に見下す公園のチャシでギリヤーク、オロツコのシャーマンの踊りを公開し直ちにバスで約三十分砂丘の海岸を原生花園に向う。花の絨氈に埋まって極めて牧歌的な景観の中で創作する(約三十分) 浜なすの香は三

十女のそれとか、思う限りむきほって頂くつもり——

更にバスで天都山へ。海拔二百余米前方に遠く知床の連峰がすみ後に網走湖能取湖が足下に広がる景観は将に絶妙、緑をおびたオホーツクの水は静かにうねり、夕陽に映える網走湖の輝きは夢の様にやわらかい。ここで創作意欲を盛り上げて大いに作品をものにする (約四十分)

ここから降りて刑務所前を通りモヨロ貝塚に出、先住民族の遺跡に郷土の歴史をさぐり、漁港網走の活気を味わって解散。阿寒、知床の観光写生大会については紙面の都合でここに紹介し得ないのは残念。しかしあまりにも有名なこの観光の紹介はむしろ駄足であろう。大いに御期待を乞う次第。(網走 第二中)

⑧鑑賞批判 新旧の手工芸品・一品製作・

手工生産品・量産品建築

2デザイン実習

⑥機能練習(自然・人工)

形と機能・色と機能・構造と機能

⑦加工練習

A 生活を中心として

B 生産を中心として



公開学習

<30日 8:30~9:30>

幼稚園へねんどであそぼう	網走・幼稚園	・松野敏子
小一年へこどものおしる	網走・中央小	・三浦巖
小一・二年へ水族館を作ろう	網走・平和小(複式)	・谷口寿美子
小四年へおめんづくり	網走・西小	・須貝喜久晴
小六年へ未来の網走	網走小	・武田俊夫
中一年へ数物のデザイン	網走・第二中	・堀北淑子

着るデザイン

—服飾その他

使うデザイン

—日用品・家庭機械器具  
交通機関

住むデザイン

—住宅・公共建築・産業建  
築・造園・都市計画・交

通標識・公衆便所・ポス  
トなど

見るデザイン

—印刷・展示・ポスター・  
包装・レイアウトなど

箱根大会に参加して

斎藤 富 男

「歓迎第十三回全国図画工作教育大会」。  
当時のスライドを引き出して写してみたら、  
会場小湧園ホテルの前の立看板に、こんな  
字がか、れていた。  
東京で所用があつて同行の皆さんに別れ  
一人でのつた小田原からの登山電車が途中  
でバックしたのに驚いてとび下りたが、そ  
のあとの乗り物がなく、車をひろつて会場  
についた。要項にあつた温泉小学校などは

なく不安な思いをしたが、会場が温泉ホ  
テルを三日間借り切つてと知り、翌年の全  
道大会責任者としての緊張感がいつべんで  
ふきとび、発想の自由さに眼を開かれた思  
いをしたことを思い出す。全体集會に北海  
道より「全国造形教育研究大会」と大会名  
変更の提案が出され、満場一致で採択、又  
夜にはサッポロビールの樽詰めを並べての  
記念パーティーが夜おそくまで北海道を話題  
とする声に湧いていたことが私の心を大き  
くゆさぶつた事が忘れられない。

〈夕張郡・長沼第五小〉

分科会第1日目<1:30-4:30>

分科会	テ	ー	マ
第一分科会	豊かな心象表現をさせるための絵の指導はどうか。	札幌中央 創成小学校 札幌北九条小学校	和田芳郎 高橋栄吉
第二分科会	豊かな心象表現をさせるための版画の指導はどうか。	遠軽遠軽中学校 苫小牧緑小学校	木村晴一 遠藤末満
第三分科会	豊かな心象表現をさせるために、粘土や彫塑はどうか。	芦別芦別中学校 室蘭鶴ヶ崎小学校	本田哲也 諏訪英雄
第四分科会	豊かな適応表現をさせるためのデザインの指導はどうか。	札幌西小学校 赤平茂尻中学校	伊藤将夫 斉藤富男
第五分科会	豊かな適応表現をさせるための工作の指導はどうか。	札幌山鼻小学校 北海道学芸大学 付属札幌中学校	砂金隆 三谷哲司
第六分科会	望ましい造形感覚を育てるにはどうか。	釧路指導主事 札幌八条中学校	小山田武 佐藤哲夫
第七分科会	鑑賞指導や評価はどのようにしているか。	亀田亀田小学校 函館松風小学校	滝村虎雄 越田一喜
第八分科会	父母とともに造形教育を話し合おう。	札幌東中学校 札幌桑園小学校	土門孝 荒木アイ
分科会	司	会	者
	テ	ー	マ
	網走呼人中学校	横田敬介	
	置戸置戸小学校	吉田義晴	
	留辺蘂留辺蘂 小学校	林進	
	網走卯原内小学校	豊島務	
	美幌美幌中学校	河瀬涉	
	斜里斜里中学校	横田勇吉	
	遠軽遠軽小学校	井上裕光	
	網走西小学校	芳賀四郎	

分科会第2回目< 8 : 30-10 : 00 >

第四部会	第三部会	第二部会			第一部会	部会		
あり方を検討し、今後の発展策を講じよう。 教育課程の改訂に対する芸術科（美術科）の	討し、具体的な実践の方法を見出そう。 教育課程自主編成のための当面の諸問題を検	考えてみよう 域の実態に即して			造形教育を前進するための教育課程の自主編成はどうか、地	かんになるか 《幼児部会》 どうすれば幼児の造形活動がさ	テ ー マ	
		《工業地域地区の問題点》	《農漁業地区の問題点》	《都市地区の問題点》				
札幌西高等学校 高橋良助	札幌東高等学校 伊藤正	美瑛美瑛中学校 三上亨	岩見沢東光中学校 但野栄一	夕張夕張第一小学校 高橋彦七	遠軽東社名測小学校 古賀武治	小樽長橋小学校 樋口忠次郎	余市沢町小学校 高野年男	司 会 者
網走向陽高等学校 山田信夫	網走第一中学校 浅野道弘	小 学 校 空知住友奈井江 中坪市郎	小 学 校 札幌琴似小学校 齊藤一雄	小 学 校 小清水小清水 高橋忠昭	帯広帯広小学校 平塚義雄	網走指導主事 長縄武	網走愛香幼稚園 江口博	テ ー マ 提 案 者



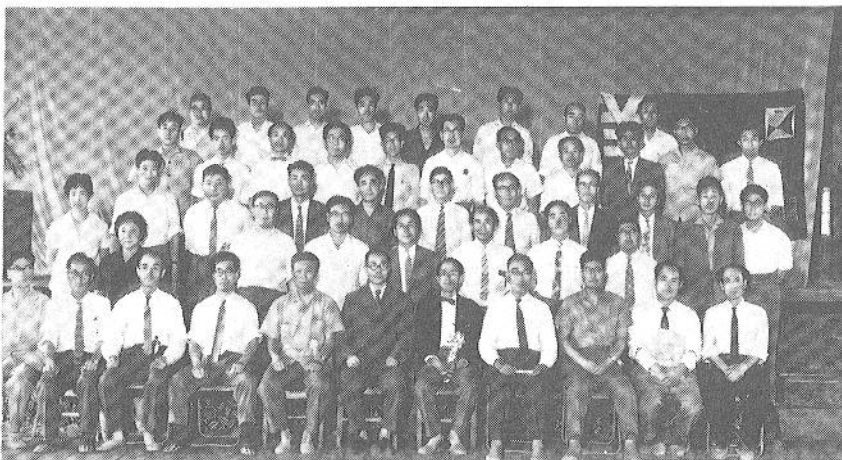
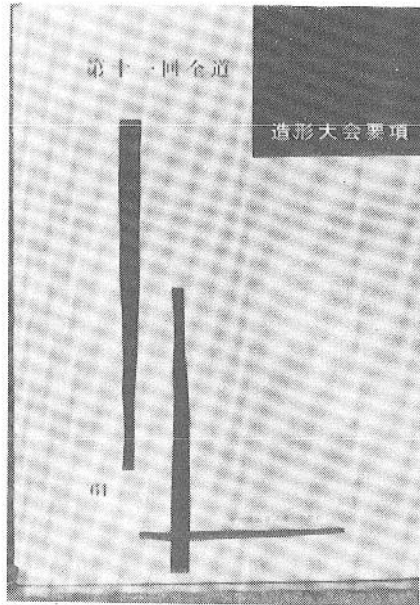
網走大会  
スナップ

複式1・2年  
水ぞくかんを  
つくろう

小1  
こどもの  
おしろ

6年  
未来の網走  
をつくる

第11回 滝川市  
会場校 滝川第一小学校  
昭和36年 7月28・29日



## 研究主題

子どもたちの芸術性を育てるために、私たちは、何をあたえ、何をしなくてはならないか。

## 研究主題設定の理由

昭和三十六年度は、小学校に於て新指導要領の初年度にあたり、中高校は実施準備時期に当たっている。私たちは、これら造形教育の一転機に際し数年前より改めて造形教育で何をなすべきかの問題について、理論的にも究明を行い造形教育の機能を望ましい人間形成の上から新たな視点をもって眺める眼を養ってきた。

その探究の方向として子どもたちの望ましい人間像の中に芸術性をより高く植えこんで行かなければならないと確信するに至った。科学性や道徳性は時代の要請として何人もがさず捉えるだろうが、子どもの人格の中に芸術性を高めるといふ願いはその重要度に

比し、余りに弱々しいのではあるまいか、私たちは今こそ、声を大にして、子どもの心の中に芸術的なものの見方感じ方の芽が、科学的、道徳のそれと共に大らかに伸びることを期待していきたい。

この願いは、単に造形教育のみが達成できる仕事ではなく、あらゆる他の分野の総合の中にこそ、問題解決の道標があるのであるが、私たちは造形教育と共に他の教育面よりの掘りおこしを期待して、あえて、この主題を設定したのである。

## 滝川大会の希い

金井秀男

子どもたちの心を  
すこやかにのばしたい。  
子どもたちの 心の中に  
豊かな夢を あたえたい。  
子どもたちが  
どんな時にでも  
無限の可能性を秘めた  
子どもの力を信じ  
子どもとの  
心のふれあいの中で  
きびしさと 深さと  
誠実さとを求め  
こまやかな心の 響きを  
心にうけて  
力強く 生きる歌を  
うたいあげる  
そんな子どもに  
なってもらいたい。

こんな希いをこめて 第11回の大会は出  
発したのでした。  
あくまでも子どもたちの心の中を大事にとら



大会日程

		8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9
28日(金)	受付	公開授業(特設)	開会式とオリエンテーション	パネルディスカッション	昼食	レクリエーション	分科会(発表討議)	懇親会	懇談会	宿舎別					
29日(土)	受付	部会(小中教育課程)	講演	昼食	レクリエーション	記念撮影	閉会式	大会感想発表	大会感想発表	散	解				

集中豪雨の大騒ぎ

今 八重子

十四・五日の集中豪雨のため各駅で決壊箇所、前日電話で問い合わせた時、大会は定時とのこと。発表者の武川先生も居ることであるし、何とか時間に間に合うよう、歩く所は徒歩で、川を泳いでも……と、高野・三浦の両先生と一行四人は兎も角車中の人となった。不安と期待と責任と義務を積んで列車は走った……………〈中略〉……………

兎も角、改築中にある第一小学校が、ただでさえも大変なのに、デザインや版画展、外国、全国、全道という風に心にくいばかりの行きとどいた展覧会を開いて居たのには頭の下がる思いでした。

四時間半も遠まわりし、思いがけなく旅費がかさんでも、やっぱり来てよかった、行ってよかった。ただ、これからの授業にこの感激の幾分のいくつ表現されるかという課題を持って帰ったわけです。

〈金市沢町小〉

え発展する事を 大会の指標としたのでした。

なんといつても大会は、第一に、研究の申味が大事です。それだけに、私たちは一年の子備研究期間を経て、学習題材や学習方法を発見したのでした。

まったく平凡で、まったくすばらしくてまったく感動する学習は、できないものかと、ある時は欲張って考えたこともありましたが。

日常学習の実践の公開は、フタンの本当の姿をみせる事なんだという、ごく平凡なことがらを、いままら大会を通して、知らされたのでありました。

全ての造形活動の分野に亘って特設された学習は、ひとり、ひとりの教師の自信の上に築きあげられたのであります。

自分を裸にするということが、どんなに大事なことなのか、又それが、個々の心をどんなにか太らすことができるのかを教えてくださいましたのも大会でありました。

〈元・滝川第一小〉

## 公開学習一覽表

1961・7・28 A・M 8・45-9・45 新校舎1・2・3階

学校種別	学年	学習題	授業者
幼稚園	1年 保育	造形遊び フィンガー ペインティグ	滝川市滝川幼稚園 教諭 渡辺 マス子
小	1年	造形遊び フロッタージュ	滝川市立滝川第一小学校 教諭 藤原 明
	2年	集団製作 外国の童話を絵に する	滝川市立滝川第一小学校 教諭 中島 幸男
	3年	描画 ぼくの願いごと	滝川市立滝川第一小学校 教諭 金井 秀男
学 校	4年	紙彫刻 王様	滝川市立滝川第一小学校 教諭 中村 多恵子
	4年	版画 日本民話の版画集 をつくる	滝川市立滝川西小学校 教諭 石原 等
	5年	粘土 昆虫	滝川市立滝川第二小学校 教諭 中村 重信
	5年	立体構成 オブジェ 魚	滝川市立滝川第一小学校 教諭 中山 知
	6年	色紙立体構成 林	滝川市立滝川第三小学校 教諭 山尾 進
	6年	デザイン 役にたつものの レイアウト	滝川市立滝川第一小学校 教諭 青山 清輝
中 学 校	1年	デザイン 飾るデザイン	滝川市立江陵中学校 教諭 東 志 隆
	2年	彫 塑 (人工石をつかっ て) 新しい彩	滝川市立滝川東栄中学校 教諭 白鳥 友二郎
	2年	金 工 (スチールをつか って) 塊	滝川市立明苑中学校 教諭 渡部 昭吾
	3年	立体構成 (集団製作) 標識塔	滝川市立江陵中学校 教諭 高田 幸三

### パネルデスカッション提言者

伊藤 恵氏 (札幌・附属小)  
佐藤 哲 夫氏 (札幌・八条中)  
酒井 明氏 (札幌・幌西小)  
上条 雄也氏 (旭川・学大)  
水谷 五 一氏

〈中空知連合PTA会長〉

### パネルデスカッションの中から

。子どもは体全体で生活している。

子どもは体全体で認識し表現する。その表現を円満に育てるところに図工の果たす役割がある。

。図工の研究は図工科の先生だけの研究会であつたり大会であつてはならない、日本人全部が失いつつある自主的・創造的なものをとりもどさなければならぬ。

。真の芸術性というものは、子供の実際生活に役立つもの、他教科を通して教科のものと根底にあるものように思う。

。教師がみてすばらしい線であつても子供はそれに思つていない場合が多い、そういう過発的なものは発展性がない。

。子供の表現は芸術にあこがれているのではなく生活に役立つもの、生活の感動を表現しようとしている。科学性、文化性、非芸術性をふくんでいることを考えておかなければならない。

## 課題

講師 植村 鷹千代

一九七〇年代は、日本の社会、文化の歴史にとつて、新しい課題と対決を迫られる激動の時代である、との予見と自覚はすでに各方面で指摘されています。その対決の結果を飛躍と前進にするか、停滞と、後退にするかは、これからのわれわれの意識と努力にかかってくることに相違ありません。そういう重大な時期に、北海道造形教育連盟が二十周年記念の年を迎えられることは、偶然ながら意義ぶかいことだと存じます。なぜなら、造形教育の領域においても新しい課題との対決を要求されるときに、二十年の成果と業績を回顧し再検討することのできるのは幸運といつていいとおもえるからであります。

私は第一一回滝川大会の際に連盟の諸兄とお会いし、北海道造形教育界の真摯な情熱と姿勢に接して感動したことをいまだ思い出しています。その後、すでに十年の歳月が

経過したことになりましたが、回想しますと私がお訪ねした頃は、造形教育の歴史において一つの飛躍と高揚の時代でもあったとおもいます。

しかし、十年後の今日は、造形教育の理念と方法の領域も複雑な課題を抱えており、過去の成果の上に新しい前進を決意し、そのプログラムについて検討すべきときの際に際しているようにおもえます。六〇年代の日本社会は、世界の他の国々と同様に、あるいはそれ以上に、進歩と繁栄を記録したと報告されていますが、その繁栄の裏面で、価値の尺度を混乱に陥し入れた速度も未曾有であったようにおもえます。価値の体系はすべて安定を失なっております。それが七〇年代が体系再発見と確立の課題を日程に上げてきた原因であるとも考えられます。この時にあたつて二〇周年を迎えられる連盟にたいして、心からお祝いを申し上げますとともに、新しい前進のために一層のご精進をお祈りします。

〈美術教育評論家〉

## 連盟と私

守野 綾子

今春「きくし」に勤務した幼稚園の教え子先生と「きくしの二〇年のあゆみ」をまとめるために古い資料をひろげていました。次々と袋から造形教育関係の研究物や受賞の記録が出て懐しく絵の具だらけの若い私の姿に大笑いしている時に北海道造形教育連盟二〇周年記念誌原稿依頼の手紙が届きました。

第八回の小樽大会に初めて参加した時に廊下に貼られた「きくし」の作品をこらんなった先生方が「こんな子どもが描くわけがない、これは先生が描かせた絵だ」と話されるのを後側で聞いた私は第十一回滝川大会の発表の時、この絵の良い点、描いた子の生活、幼児画の特徴として見るべき点と一枚一枚メモしてぬたくりも合わせて教室中貼りめぐらし「幼児画は生活綴方と同じです。このまじい絵を描く子には……」と夢中になつて喋つたことを覚えています。美しさ・楽しさが感じられ自分が考えて創造する子になつてほしいと今でも願ひ続けております。

〈旭川市・きくし幼稚園〉

講師・司会者・提言者・発表者・記録者一覧

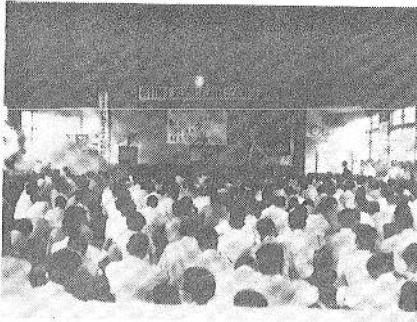
講師

美術評論家

植村 鷹千代氏

小学校			幼稚園	しい会員	父母と新しい会員	部門
6	5	4	3	2	1	番号
彫	共同製作	描	幼稚園	新しい会員	父	分科会
塑		画			母	
技術的な段階の踏え方を考えるようにしているか	共同製作の学習手順や教育効果を作品を通して考えてみよう	発想をゆたかにし表現内容に高めるための指導はどのようになっているか	個性を大切にしながら意欲的な子どもを育てるため、幼児の造形活動をどうあたらえたらよいか	子どもの造形作品を通して造形教育の理解を求め造形教育のはたす役割をとらえよう	子どもの成長を子どもの造形作品を通してくみとれる両親になるにはどうしたらよいか	テ ー マ
函館市沙見中 占谷 格	室蘭市鶴ヶ崎小 諏訪 英雄	札幌市桑園小 荒木 アイ	釧路市指導主事 小山田 武	苫小牧市緑小 遠藤 末滴	亀田郡亀田小 滝村 虎雄	司 会 者
栗山町栗山小 松永 吉満	奈井江町 住友奈井江小 山下 孝	上砂川町東小 側瀬宇太郎	滝川市幼稚園 研究部	本部 研究部	札幌市琴似小 橋本 富	提 言 者
芦別市緑ヶ丘小 谷村 宏己	砂川市豊沼小 土把 昭雄 室蘭市日新小 赤司 賢二	留萌市留萌小 中野 昭雄 奈井江町三井奈井江小 後藤 朝夫	旭川市きくし幼 守野 綾子		滝川市PTA 三浦 ヨシ	発 表 者
福深 嘉考 (江部乙北辰小) 木村 力也(歌志内小)	大島 茂 (両電漕之津小) 堀 博邦 (住友奈井江小)	笠原一(上砂川東小) 内山悠紀夫(滝川三小)	角谷民子(滝川三小) 石田佳代子(川上小中)	松田美智雄(滝川西小)	渋谷 信雄(滝川西小) 酒井 信雄(滝川西小)	記 録 者

高等学校	中学校				小学校			
	14	13	12	11	10	9	8	7
高校	彫 塑	技 術	デ ザ イ ン	描 画	工 作	版 画	デ ザ イ ン	
	高校の美術教育振興のための活動をどう押しすすめるべきか	構想にもとずいた立体制作の中でイメージを定着させ高めるにはどうしているか	生活においての技術をどのよう <sup>に</sup> 考え指導しているか	形や色を通してデザインとしての基本的トレーニングはどうしているか新しい指導方法を紹介しあおう	思春期の子ども <sup>の</sup> 思考感情をできるだけ素直に表現させるための制作経験をどうあたえているか	子どものアイデアを大切にするとともに系統的な基本的技術の修得をどうしているか話し合う	版をつかっ <sup>て</sup> の造形 <sup>の</sup> の意匠を考えその発展と方法についてどのようにしているか話し合う	子どもの本来の姿としてのデザインはどんなものか究明した仕事を紹介しあおう
札幌市東高 伊藤 正	芦別市芦別中 本田 哲也	学芸大学 附属札幌中 三谷 哲司	名寄市智恵文中 伊賀 明	紋別郡遠軽中 木村 晴一	札幌市山鼻小 砂金 隆	札幌市中央創成小 和田 芳郎	小樽市長橋小 樋口忠次郎	
本部 ↑ ↓ 高校研究部	歌志内市歌志内中 森谷 一	秩父別町秩父別中 堀 忠男	栗山町継立中 周田 定吉	赤平市赤平中 金深 敏	沼田町共成小 渡辺 信一	砂川市豊野小 一戸 信雄	沼田町共成小 山本 栄蔵	
	芦別市芦別中 鳥垣 純男	赤平市茂尻中 網走市第一中 浅野 道弘	月形町月形中 山下 泰宏 苫小牧市弥生中 片桐 勉	上砂川町第二中 和田 竜郎	新十津川町吉野小 信太 七郎	歌志内市文珠小 田島 修	歌志内市中央小 佐々木謙一 余市町沢町小 武川 康彦	
友保 勝治 (赤平茂尻小) 西深 秀男 (滝川三小)	木地 輝雄 (上芦別中) 渡辺 晋一 (江陵中)	外崎 弘 (赤平中) 木村 四郎 (江部乙北辰中)	茂木 幸正 (歌志内神威小) 川越 康男 (奈井江中)	市川 貞 銚井 直作 (上砂川一中) (砂川中)	水間 偉行 (上富徳富小) 中山 尚博 (新十津川小)	渡瀬 幸平 (砂川小) 東藤 正幸 (浦臼晩生内小)	橋本 晃美 (芦別小) 早川達也 (浦臼鶴沼小)	



## 創美のこと

長谷川 伝

連盟が第二回大会で「創美とはなにか」をテーマとして、湯川尚文、室靖両氏を招いた。当時の教育では全国二千万人の子どもが不幸を見ると訴えた久保貞次郎氏を中心に、教師自身の人間開放をスローガンとした運動であったので、この大会は連盟の体質改善に大きく影響を与えたものである。

子どもの絵を読みとる仕事を大切にすることは、子どもの心を知り子どもの心をいきいきとした自己主張へ導くために、その心理を確実に押え、確かな手だてで指導するためにある。それは教師の豊かな心と深い理解力が子どもの真の姿を認めることができるからである。他を認める力を磨こうとする運動から、それぞれの思想を基盤とする実践者が果立っていったが創美は今後も心のふるさととしての大きな存在になろう。他を責めず、自己を開拓する心が創美の心であるとすれば、いつまでもこの素朴な心を大切にしていきたい。

〈札幌・本郷小〉

## 雨の別府大会

伊藤 恵

札幌を南へ二千三百キロ、当時の名事務局長新妻先生のおともで、九州は別府に着く、十一月十五日夜であった。

「生き生きとした生活をつくる……」というテーマに、うきうきと大会に望んだが、大会は、初めから終りまで雨。サービス最悪の宿の印象とともにガツカリ。

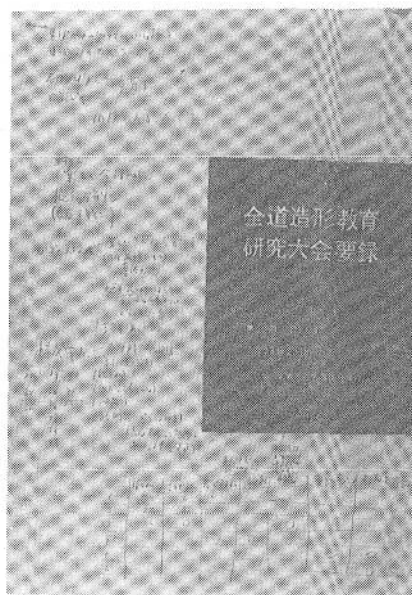
わたしは「材料の重点化を主張する」という発表のために、写真や、スライド、スクリーンから、幻灯機まで持ちこんだ。だが、前段発表者の無謀な長講のしわよせで、「発表の見合わせ」を要請される始末。昼食後、まさきき部会場に発表準備。司会者の顔をみるなり発表を強行。参会の紳士は、いたくあきれていたようである。

全体会議では、前年来の北海道提案が通って、「全国造形教育連盟」の呼称が本決まり。新妻先生の功績である。

十一月十八日、別府に濃い青空が甦えつて大会は終った。

〈札幌・羊丘小〉

第12回 名寄市  
会場校 名寄南小学校  
昭和37年 7月28・29日



## 大会主題

「子どもが生活をみつめて、造形的にたかまうて行くために、われわれは、どのようにしたらよいか」

## 主題の解説（設定の理由）

滝川大会（昭和三十六年）では造形学習の教科性の追求から、教科の本質であろうと思われる、芸術性について問題を提起致しました。結果の反省としましては大方の先生方が芸術性の再確認をされた点に一応の成果があったものと思われませんが、その本質の追求や日頃の実践との関連や掘り下げについては、なお研究の余地があったように思われます。

当年（昭和三十七年度）は、これらの未解決な点をふまえ乍ら、図工教育の現況を洞察して表記の主題を設定致しました。

- 主題は三つの要素から成立っています。即ち
- 一、生活をみつめること
  - 二、造形的にたかまうていくこと（造形感覚、技術、理解、表現等）
  - 三、これに対応する指導者側の立場

## 名寄大会提言・司会など

三谷 哲 司

参加者八〇〇名を突破という速報、二号の知らせ、天候はよし、大会の運営は円滑と申し分のない条件で中学校部会の提言をした。

2・1・1と大へんな制限をうけて、再度美術教育の重要性を確認する意味から、テーマ、教育の全体構造の中で美術科の位置づけについて……

調和のある人間形成は、精神的なもの根源である感情を培うことにあり、感情は、

意志や知性の根にあるものである。主体的（内面性への深まり）ないとなみがあつて創造性も育成される。この仕事は美術科でおうべきでないかと私は提言した。

北見市の永地先生は、美術と科学の立場から述べ、車の両輪の関係にあると提言した。

司会に諏訪英雄先生、吉田徳夫先生がなされたが大きな問題を視点をきめて討議を深められたこと。小学校では内容の系統性と発達段階が論じられ、中学校は、教科論になつたのも時の問題をとらえているように思う。

〈札幌・附属中〉

## 講演要旨

デザイン教育の問題点 〈西光寺 亨氏〉

はじめに、民間団体と現場、展覧会と現場指導要領と現場について、それぞれ問題点を指摘。とくにデザインについては、それがおとなにする教育と同じ形であたえられてはならないことを指摘。

実践例についてスライドを交えて発表した。

一、飾るのは、どんな気持ちで飾るのか  
美しい魚を神さまになつたつもりでつくってみよう。

低・美しいものは花と考へ、魚の腹に花をつけた。

中・やや固まって、どくどくしい色をぬってよろこんだ。

高・ますます固く、魚の概念にとらわれる。



	8.30	9.20	9.40	10.10	11.50	1.00	4.00	5.00
28日	受付	授業公開	開式 オリエンテーション	パネル ディスカッション	昼食 レクレーション	分科会		希望 バナー
29日	受付	部会	講演	昼食	児童画 コンクール	部会 報告	閉会式	

### パネルディスカッション

	10.00	11.50	12.50	2.00	3.00
子どもが生活をみつめて、造形的にたかまわっていくためには、われわれはどのようにしたらよいか	司会者 遠藤未満 <苫小牧・東小>	提言者 田中和子 <名寄市> 母親の立場から 上条雄也 <旭川・学芸大> 美術教育の立場から 松本謙太郎 <上川・指導主事> 教育局の立場から 湊勲 <札幌・小学校> 現場教育の立場から 金井秀男 <滝川・道連盟> " " 前川辰治 <名寄・作文教育> "			

二、構成能力はどのようにして発展していくだろうか。

へマッチの棒で、自分で美しいと思うものを組み立ててごらん

セメダインと画用紙を渡したら、次のようなタイプがあらわれた。

- 1、美しくくみ合わせようとする。
- 2、絵をかくようにかく。
- 3、くり返しならならる。
- 4、左右相称にならる。
- 5、放射線状にならる。
- 6、リズム的に表現する。
- 7、画面を考えて空間を構成する。

三、立体構成の発達は、どう発展したか。

〔画用紙をまるくして、筒をつくり、美しい形をつくってみなさい。〕

はさみ・のり・画用紙・

- 1・顔 一ばん多く四〇%
- 2、動物
- 3、建物
- 4、乗物

抽象的なもの皆無、高等年にもなかった

四、箱による空間構成の発展

へマッチの空箱で、美しい組みあわせをみなさい

低・積み木がわり

中・テレビ塔、馬など、具体的、

高・建物、放射的なものが多い、抽象的なものはなかった。

五、構造的なものの発展

〔段ボール板をつかって、できるだけ高くたててごらん〕

一年、四〇―五〇cm  
二年、四五―五〇  
三年、六〇―七〇  
四年、七〇―八〇  
五年、七―八〇  
六年、一〇〇―一二〇

六、機能的な能力をしらべる

へキャラメル十コあけるが、片手にもって帰るんならみんなあげよう。画用紙と、のり、はさみで、片手で持てるようにつくってごらん。〕

低・大きいいれもの、皿など、大きくてもこぼれる。

中・四角い形、製図し、ふたをつけ、飾ろうとした。

高・できるだけ紙を節約し、丈夫にした

おとなの模倣でないデザインは、このように生まれるものである。

授業公開 <第1日8.30-9.20>

描 画	幼 稚 園	父 母 一 般	分 科 会	テ ー マ	司 会 者	
内容の乏しく生活に結びつかないような絵をかく子どもの指導方はどうしたらよいか話し合いましたよう。	遊びの中の造形活動をいかにとりあげ、どう指導したらよいかを話し合いましたよう	作ったり猫いたりすることが人間の成長にどう影響するか話し合いましたよう			札幌・曙小 長谷川伝 釧路・城山小 植草義二 札幌・桑園小 荒木アイ 室蘭・常盤小 石丸雅晟	名寄市・吉田チヨ子
					札幌・北九条 高橋栄吉 網走・西小 中村知久	上川・中富良野小 小笠原正嗣

中 二	中 一	複 二・四	小 六	小 六	小 五	小 三	小 二	幼	学 年	学 習 題 材	授 業 者
共同製作 働く人	デザイン表紙	工作 こまあそび	機構玩具 あきかんでつくる。	彫塑 いろいろな生き物を作ろう	立体構成 建物	共同製作 町をつくろう	もようあみ	想画 みんなでかこう			白井法子 <名寄大谷幼稚園> 山田昭二 <名寄西小学校> 村山佳成 <名寄南小学校> 河合正仁 <名寄小学校> 高橋正雄 <名寄東小学校> 厚良三 <名寄小学校> 山本輝信 <名寄弥生小学校> 小林正勝 <名寄中学校> 服部幸男 <名寄東中学校>

分科会 <第1日>

高 校	中			小			校 影 塑 版 画	分 科 会
	立 体 表 現 (彫 塑 材 料 経 験 を 含 む)	テ ザ イ ン	描 画 (版 画 を 含 む)	評 価	工 作	テ ザ イ ン		
芸術科の編成について話し合います。	立体表現の性格を明かにし表現力をたかめるための指導の具体例について話し合います。	デザイン学習の問題点と指導の系統性について話し合います。	思春期の生徒の作品と、表現活動における問題点を話し合います。	望ましい評価はどのようにあったらよいでしょう。	地域にあるいろいろな素材を生かした指導経験について話し合います。	生活を深めるためのデザイン学習を子どもの発達に応じてどう指導したらよいか話し合います。	彫塑、版画の性格を明かにし、表現力をたかめるための指導の具体例について話し合います。	テ ー マ
札幌・月寒高校 中村矢一	札幌・一条中 土門 孝 根室・根室中 岩田勇治	上川・鷹栖一中 三上 亨 稚内・南中 今野隆二	遠軽・遠軽中 木村晴一 旭川・北都中 金子武志	渡島・亀田小 滝村虎雄 空知・西長沼小 森 松治	留萌・潮静小 志村 猛 上砂川・東小 側瀬宇太郎	室蘭・市教委 石崎義政 夕張・第一小 高橋彦七	函館千代田小 越田一喜 札幌・琴似小 橋本 富	司 会 者
	名寄・名寄中 本間 篤	旭川・常盤中 萩原常良	上川・比布中 浅野富士男	札幌・大通小 種市誠次郎	旭川・東五条小 松坂清市 上川・占冠中央小 橋 宏	札幌・苗穂小 笹原 亮 上川・当麻北星小 鮫島 恒	稚内・稚内小 久我 宏 上川・近文第二小 金子 誠	

部会〈第2日〉

金属工芸

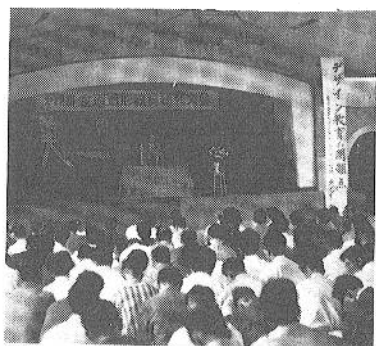
島山 二代喜

芸術としてのクラフトアートのなかにあって金属のしめる立場はきわめて広く、金属という素材を生かして、いかに美しく現代生活の中に取り入れていくべきかは、二十世紀の大きな課題であろう。人間が自分たちの生活をより楽しいもの、合理的なものにしようと努力するのは昔も今も変りない。これは歴史

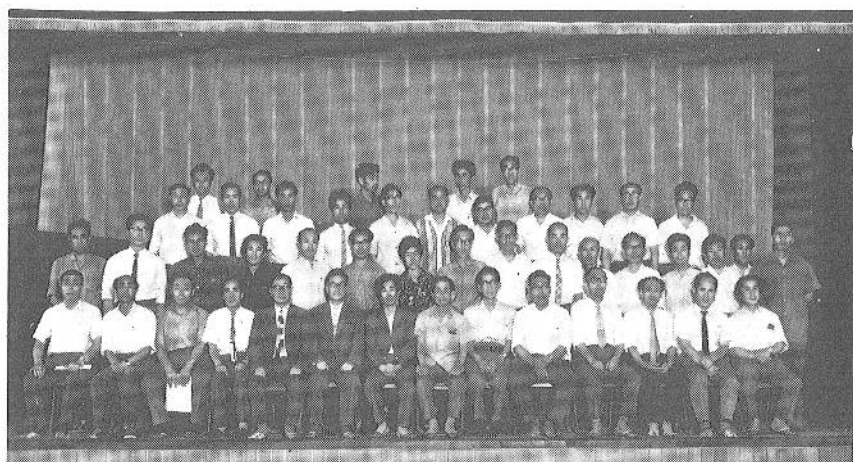
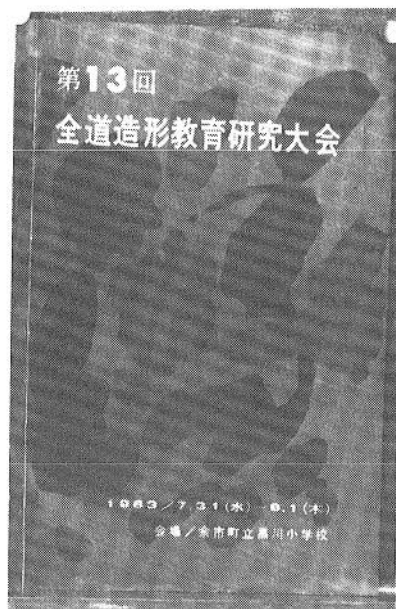
のなかに次々と新しい解決の道を開いて今日にいたった姿をみることが出来る。それは物質と精神の両面についてもいえることであるが、両者が分かれて存在するものではなく、互に関係しあって人間生活は発達してきている。金属という素材も人間とともに強く生きている。金属を解明し、金属を愛し、自己の芸術表現をする造形は大きな文化遺産である。美術教育の中に児童、生徒の心身の発達に応じ、適した金属素材をえらび創造表現することが強調されてきつつあることは喜ばしい動向であろう。

〈顧問・道教育大〉

部内	テ	マ	司会	研究	提案
幼稚園一般	作ったり描いたりすることが子どもの成長にどのように影響するか話し合いました。		札幌・琴似小 斎藤一男		
小学校	指導内容の系統性と、発達段階をいかにとらえたらいいか話し合いました。		札幌・幌西小 伊東将夫 上川・咲来小 広畑一雄	上砂川小 一戸信雄	
中学校	教育の全体構造の中で、美術科の位置について話し合いました。		室蘭・鶴崎中 諏訪英雄 宗谷・浜屯別中 吉田徳夫	北見・南中 永地恒夫 札幌・付属中 三谷哲司	
高校	芸術課の編成について話し合いました。		札幌・月寒高 中村矢一		



第13回 余市町  
会場校 余市町黒川小学校  
昭和38年7月31日  
8月1日



## 研究主題

- 子どもが生活をもつめて造形的にかまっていたために吾々ほどのようにならよいか。
- 幼、小、中、高のつながりに立ち学習内容の系統づけをしよう。
- デザイン、工作領域のたちおくれについて考えよう。
- 子どもの生活と造形活動のつながりを作品を通して考えよう。

## 設定の理由

- 生きた造形力から高い造形能力へ。
- 子どもの生活に密着した学習から強い生活力へ。
- 研究到達点的性格の深化を更に実証から造形教育構造の再編成へ。
- 造形教育の地域性、特殊性から。

## 大会の概要

町教委の主催で地元の教師集団が一丸となつて六二年から計画し、研究実践を迫めていたものであるが、高野年男（当時沢町小）の努力と美術教師の創造的運営がみごとに結晶しよくやれたものと、改めて教師集団の結果に敬意を表する。

余市といえばニッカーというイメージの町で特に地域性に根ざす造形活動の成果を示し参会者一同に、地域の個性と造形能力の客観性を主張した。また原子力産業革命に伴う人間疎外と、教育内容の教材化に対する対策や、二十一世紀への生活力の素地形成に必要な教材構造の系統化、造形能力の可能性と指導の視点について、二日間猛烈な討論を展開したものである。

講師井手則夫氏による「子どもの生活と造形教育の体系化」についての講演は、氏が主張する、生産と関連のある造形教育について述べられ、生産的思考を具体化するための、体系化が、子どもの生活の中に能力として定着するためにはいかに迫られなければならないかをうったえた。

連盟かかって才二回大会に創美とはなにかを考え、更にこの年新しい絵の会を考える機会を作ったことも意義深いことであつた。

地元の誇るニッカーウイスキーが、オンザロックで出されたパーティーは、明るすぎてどうも調子が出なかつたが、ウイスキーの強烈な威力が短時間で爆発し、日の没する前に会員一同沈没することになったのも愉快な思出の一つであつた。

とにかく、余市町という環境と教育界の構成で、全道大会を運営し得たことは、町を挙げての協力和教師諸君の創意と団結のためものであつたといえよう。

## 寝不足の駅前宿

ウイスキーパーティーで急に酔い、そして勢いにまかせて二次、三次の会を楽しんで芸術家が、夜中までお経をあげたり、進軍ラッパを響かせたりで、深夜に眠りウトウトしたころ朝市の人々の売り買いの声で睡りを破られ、重い頭をフラフラさせて外に出て見るとまだ外はうす暗い駅前広場の魚臭い空気を思い出した。

## パネルディスカッション

A 小、中、高の一貫性に立つ、造形認識の発達、教材構造の発展系列を指導体験から考察する。

B 造形教育構造の再編成と系統性の性格を明確にする。

C 系統性を確立するためと手続きの具体策を樹てる。

D 現代に於ける造形文化の生活構造と造形教育の使命を相関的に究明する。

司会 伊東 将夫 (札幌市桑園小)  
 提言 正木 正 (後志野塚小)

長谷川 伝 (札幌市曙小)  
 吉田 徳夫 (宗谷浜屯別中)  
 中村 矢一 (札幌市月寒高)

## 分科会

1. 造形能力を高めるための用具、材料について話し合います。
2. 鑑賞、評価の在り方や方法について話し合います。
3. 子どもの作品を通して問題を究明しよう。
4. 幼、小、中、高のつながりの上に立って話し合います。
5. 造形活動を進める上に施設設備の問題を話し合います。
6. 現場で作られた教科課程の問題点を話し合います。

特 殊	単 複	高 ア ザ イ ン	中 ア ザ イ ン	中 彫 塑	中 版 画	中 描 画	小 工 作	小 ア ザ イ ン	小 彫 塑	小 版 画	小 描 画	幼 稚 園	父 母	部 問
齊木 呆一 (札幌啓明中)	石崎 義政 (室蘭市教委) 橋本 富 (札幌琴似小)	小山田 武 (釧路柏木小) 寺井 孜 (札幌北高)	中村 矢一 (札幌月寒高) 土岐 禎次 (札幌中島中)	泉 秀雄 (旭川神威中) 三谷 哲司 (札幌付属中)	三上 亭 (上川鷹栖一中) 太田 達雄 (札幌北辰中)	木村 晴一 (網走遠軽中) 中川 清 (札幌一条中)	富樫 貢平 (札幌東栄中) 高橋 彦七 (夕張福住小)	伊藤 恵 (学大付札幌小) 中川 大三 (札幌東北小)	滝村 虎雄 (函館船見中) 笹原 亮 (札幌苗穂小)	側瀬守太郎 (上砂川東小) 神田 耕治 (名寄南小)	志村 猛 (留萌潮静小) 越田 一喜 (函館千代田小)	寺館 国治 (三笠市森別中) 荒木 アイ (札幌桑園小)	一橋 精 (後志岩田西小) 服部 英夫 (後志米岸小)	司 会 者
伊藤 潤楽 (余市沢町小)	初山 武 (後志比羅夫小)	寺井 孜	中村 矢一	尾川 和彦 (後志蘭越中)	吉田 広任 (札幌陵北中)	諏訪 英雄 (室蘭鶴ヶ崎中)	岩内 広次 (後志原歌中) 柴田 義美 (後志双葉中)	砂金 隆 (札幌山鼻小)	長谷川 伝 (札幌曙小) 小松崎 勇三 (後志赤井川小)	資藤 一雄 (札幌琴似小)	大森 亮三 (後志然別小)	武川 康彦 (後志余市沢町小)	荒木 アイ	坂本 シズ (後志銀山中P) 提 言 者

特設公開授業

学年	題材 (領域)	授業者
小一	かたち ならべ(テ) はたらく人 (描)	三浦宗 (余市沢町小) 寺沢一郎 (余市沢町小) 砂川時夫 (余市大川小)
小二	海水浴 (共)	高橋繁治 (余市黒川小)
小三	もよう つくり(テ)	今八重子 (余市黒川小)
小四	町の人の くらし(版)	吉田敏之 (余市黒川小)
小五	トドーム ボール(工)	松浦孝子 (余市豊丘小)
小一二	うみの中(共)	芳賀豊 (余市大川小)
小特殊	水族館を見学 したこと(描)	板垣玲子 (余市旭中)
中一	素描	小泉哲 (余市西中)
中二	状さし (テ)	岡田州弘 (余市東中)
中三	リング(テ)	

新しい絵の会

滝村 虎雄

絵の会の主張は何か、よく聞かれる。当初創美と比較して主張が提示されたことがある。まだまとまったものは出されていない。それだけ底深い研究と謙虚さがうかがわれる。絵の会のみ力は、教科性の確立をめざして、実践交流の研究のきびしさにある。実践を通して系統を探求しようという姿勢である。わずけや固定プランを作ろうとしない。連盟の大会で分科会討議の中では、最近絵の会らしい発言が多くみられるようになった。創美ともセンターともちがった特色をもつ絵の会の特色と主張は、若い、意欲的な北海道の教師達に共感され多くの仲間ができた。指導の必要性、教えることの必要性、認識芸術認識、表現と認識の問題、描写と表現の問題、再現と形成の問題、内面性と造形性の統一の問題、造形的課題をもつ題材の構造化と系統的指導案、絵の会は、教科の本質を究明しながら内容と方法の探求を試みている。

(山越・長方部小)

余市の浜

種 市 誠次郎

「やあ、しばらくでした。」と声をかけ合う連盟の大会で、互いに造形教育の道を歩んでいる数多くの先輩や仲間と合える楽しみは、なんとも言えない。余市の大会といえば、浜の夕べを思い出す。実践研究の花開き、和の集団が、ひとときを魂のふれ合いにさそい込むのである。この年は念願の能力表や体系表を苦心してまとめ上げた喜びは、余市の浜で爆発した。べんてるの井上支所長や渡辺さんが、浜にテントを張って、大会の夜を各地の先生と交歓しようと、腕によりをかけた豚骨料理やパーベキューなどを用意して待っていた。学校のバザーから買ったという、昔の蓄音機で古レコードをジャンジャン鳴らし、最高の賑いを呈した。続々集まる人影、大声を上げ肩を組み合い時のたつのを忘れた。その結末の程はよくわからないが……

〈札幌・大通小〉



第14回 札幌市

会場校 北九条小学校

昭和39年 8月2,3,4日



## 研究主題

- 子どもの造形能力とは何か。  
発達段階に立つ学習内容のたしかめ。  
たてよこの関連を考えた学習内容を検討することの中で子どもの造形能力を究明する。
- 子どものデザインとは何か。  
デザイン教育の理念を明らかにし、実際指導の方向を子どもの造形能力研究の角度から明確にする。
- 1 「子どもの」という打ち出しは、おとなの造形感覚と子どものそれとは他の分野で考えられないほどの違いがあり、それが漠然としているところに本質を誤り、研究の進展をばむ要素が含まれていると思われるのでここに焦点をおいたものである。
- 2 連盟の研究推進過程でここ数年教科課程改訂に伴う造形教育の本質、指導理念の探求を焦点としてきたが、38年度「縦の系統」の検討から必然的に実際指導面からの具体的研究の段階にあると思われる。
- 3 この主題は明らかに実際指導方向の基盤にかかわるものであるとともに造形教育の本質把握を深める位置になる。
- 4 全道会員の共通理念を強化する意味で現在最も必要な点であると判断した。

## 才14回北海道造形教育連盟札幌大会

## 才9回全国造形教育センター北海道大会

## 並北海道造形センター創立研究大会の記

高橋 栄 吉

昭和39年8月2・3・4日、会場は札幌市北九条小学校である。鉄筋三階の校舎は札幌市では曙小学校についてのモダン校舎であった。

当時は、北九条の職員で連盟常任委員の佐々木理温さん、佐藤圭さん、成田一男さんと私とが、創造教育九ヶ年研究に熱を入れていた最中である。赤石武士さんは連盟局長として東小学校長でおられ、東京からは今のセンター一流陣の岡田清一さん、藤沢典明さん、川村浩章さんや、千秋、林健三、真鍋一男、西光寺亭、佐藤諒、小関和雄、高山正喜久、武井勝雄の諸先生の錚々たるセンター幹部二十数人が演壇に勢揃いして、討議は追熟化した、すべてみんな自弁の腰弁当参加であった。

学大の寺井信一教授は、主体性のある独立造形センターの発会を期して自ら委員長となり情熱を傾けて盛大な発会式を朱塗りの重ね大長の幕内弁当も、桜井忠先生や鈴木工具店社長さんらの来賓をお迎えし、藤野高常先生から、センターの未来と北海道美術教育の発展を期待する力強いご激励のことばは忘れられはいい。

満堂一千名ちがいが会員の参加と、夜の屋上からの夜景に、北大の黒々としたエルムの森を眺め、幌部のネオンのまたたきを目にし、サッポロビールの樽出しの冷涼さは、屋上のへりを軽技婦さんながらにわたり歩く、背筋の泡と相まって、幹事の感懐はまさに北海道造形教育のたのもしさを、腹の底から味わたったのである。

(札幌藻岩小)

## 感想



武井勝雄

私をご招待を受けて第十四回の大会に出席してから、今回でも二十回目を迎えることになったとの事で、先ずお祝詞を申し上げます。あの時は造形教育センターとの合同主催ということだったので、ご招待がなくても私はセンターの一メンバーとしても出席するつもりであつたわけでした。

戦前に「構成教育」の普及啓発に片棒をかついだ関係上、道内には私を知つておられる先生方が多く、その方々も既に校長教頭、指導主事、その他地方の指導的地位についておられ、その方々にお会いできた事も喜びの一つでありました。また上京されて活躍されて東京で知り合つた有能な道出身の先生も少くありませんでした。

道の中心都の札幌が示しているように、

北海道は文化的に近代的、進歩的な面が多いので、私のような老華が、お若い先生方にどんな話をしたらよいかと、そちらに伺ふ前まではちよつと氣をもんだわけでした。

その時の内容はもうよく覚えておりませんが、何でも少し間口を抜けすぎて、あれもこれもと欲ぼつて、正面切つた講演となりユーモアにも欠けて、さぞ諸君には聞きにくかつたろうと思出しでも冷汗を感じます。

この十四回大会には東京その他の地界の参加者もあつて、かなり熱い討議もあり、道内の錚々たる研究家の面目もよく現われ、この方が私には勉強になりました。

私は現職を去つても造形教育にまだ未練があるので、学習の原理を追究したいと思ひ、その後はマックフェの「美術教育の基礎」を榎谷氏と訳出し、現在はローグ・ケロッグの「幼児画の分析」と取り組んでいます。この方は幼児のなぐりがき百万枚を二十年間も研究したというアメリカの夫で、これは私の最近の驚歎であり、新しい発見で、多少なりともこの紹介が役に立つことを望んでいます。(大倉謙樹)

## 大会を終えてからの成果

寺井 孜

才四回大会の時はまだ札幌北高に在職中でしたが生徒を引卒して北九条小学校の一室で公開授業を行ない何とか終了し後日学校で授業中引卒していった生徒の中から、大会当日公開授業終了後会場の廊下に種々の作品、研究物、或は資料等が掲示されていてそれら大半は小中学生のものが多かったが自分達が見ても、おもしろいもの、なるほどなあーと考えさせられるもの、ともかくアイデアが豊富だなあと自分達も小中学生時代には、ああだったのかなあと、過去を考えてみると何だか今の自分達にはだんだんとそのような能力と云うか、気持と云うか縮少してきているようだと思ふと私に感想とも反省とも云える事を云つた生徒がおりました。

私はこの生徒の言葉を聞かされて内心ハツとしました。高校教育に於て特に大学受験生の多い学校では、より芸術教育の充実と、教師の姿勢も一段と前進的に！

札幌・南校

## 若い力

中川 大三

齢五十六才。教員生活のゴールデンも間もないというのに、何一つとして満足な仕事をなし得ないでいる私ながら、連盟とのつながりだけは、才一回大会の研究者の列に加えていただき、才二回大会の会場曙小学校の一職員であったということに始まって、以来二十年間その仲間の一人として過させていただけに、縁浅からずというものがあるわけです。

連盟が目指す造形教育の進展は、大会開催の都度提示されて来た研究テーマ、並びに志向される仮説に挑戦する。若いエネルギー豊富な教師群によるアタックによって、着々成就されつつあることは、連盟二十年の歴史がよく物語ってくれ、今後五〇年、百年の歴史を飾るものは、可能性を信じつつ限りない前進を続けるわれ等の仲間達の意欲そのものではないでしょうか。

〈若い力〉これはいつも私の心の片隅から呼びかけてくることばです。

〔札幌・羊丘小学校長〕

## 五分前 佐野千尋

大会で公開授業をやれといわれたのは、現指導主事で当時札幌教研美術部長をなさっていた中川先生からで、私はその頃新設間もない日章中学におりました。中川さん独特のやりわり戦術でついにひきまけるはめになり、同僚の森先生（現中島中）に知恵をかしていただき、新婚早々の新妻にケケレイされ、暑さに負けず、ない頭をしほりました。

さて、大会当日は快晴微風、まさにグッドコンディションです。ところが玄関に出て待っていてもなかなか生徒が来ない。「始業五分前」、いささかあわてましたが、なんと生徒は裏口から入り教室で待っていました。授業は「白と黒による平面構成」というかたいものではないはお色気のないものでした。その後三年ほど千歳中学で石狩の仲間に入っていました。が、「佐野さんのあの時の授業見たよ」と何人かにいわれ、赤面しながらも以外なところに自分を知ってくれている人がいて、たいへん心強い思いをしました。

〔札幌中央中学校〕

## 指導案つくりのことなど

佐藤 圭

大会で授業をサービスするしきたりは、いつからのことなのか、ぼくもこの大会では授業者の一人であった。

何人かの授業案について、責任をもつことになって、ぼくの担当は同じ六年の担任仲間であった長谷川正君（現新琴似小）の機能構造と、坂本晃一君（現南小）の視覚伝達、ぼくは構想画であった。

長谷川君は社会科、坂本君は国語のベテランであったから専門外の図工を公開することになっても、いたってノンビリかまえていたし、ぼくもノンビリせざるを得ないのであった。愈々提出日という日、三人いつしよに当直室でそれぞれ書きあげて、その夜の連盟研究部の検閲にのぞんだのであったが、手八丁口八丁の面々から一言もクレームをつけられなかったと、両君は心からよろこんでくれたし、ぼくもなんとなく責任の一部を果たしたような気がしたものである。

〔札幌・東札幌小〕

パネルデスカッション

主題 子どもの造形能力をどう捉え、どのように伸ばしたらよいか。

司会 札幌市立月寒中学校 佐藤 哲夫

提言

造形教育センター 川村 浩章

同 函館市立船見中学校 滝村 健三

追分町立追分小学校 池本 良三

札幌市立東小学校 金井 秀男

分科会

No.	分科会	主 題	司 会 者	提 言 者
10	彫塑第二	形能力をたしかめよう。 彫塑指導の系統性をおさえ、子どもの造 形能力をたしかめよう。 版画指導の系統性をおさえ、子どもの造 形能力をたしかめよう。 版画指導の系統性をおさえ、子どもの造 形能力をたしかめよう。 彫塑指導の系統性をおさえ、子どもの造 形能力をたしかめよう。 彫塑指導の系統性をおさえ、子どもの造 形能力をたしかめよう。	森村 三郎 (歌志内中)	吉田 広仕 (札幌陵北中)
9	彫塑第一		成田 秀男 (札幌豊平小)	齊木 杲一 (札幌啓明中)
8	版画第二		新谷 純輔 (札幌琴似中)	笹原 亮 (札幌苗穂小)
7	版画第一		越田 一喜 (函館千代田小)	橋本 富 (札幌山鼻小)
6	描画第六		木村 晴一 (滝川第三中)	
5	描画第五		土岐 植次 (札幌中島小)	金井 秀男 (札幌東小)
4	描画第四		斎藤 洪人 (札幌東中)	佐藤 圭 (札幌北九条小)
3	描画第三		遠藤 未滴 (苫小牧東小)	中川 大三 (札幌東北小)
2	描画第二		後藤 庸也 (札幌琴似小)	側瀬 宇太郎 (札幌月寒小)
1	描画第一		諏訪 英雄 (室蘭鶴崎中)	太田 達雄 (札幌陵陽中)
			三上 悦平 (札幌西創成小)	富樫 貢平 (札幌東栄中)
			吉田 義晴 (置戸小)	種市 謙次郎 (札幌笈寒小)

部 会 学校種別部会・総合部会

第 1 日

第 2 日

デザイン部会

№	部 会	主 題	司 会 者	提 言 者
1	幼児父母 中学校	幼児の造形活動の現状をみつめて、その進め方を考えよう。 美術の現状と対策（二・二・二・問題の究明）	小山田 武（釧路柏木小） 荒木 アイ（札幌桑園小） 佐藤 哲夫（札幌月寒小） 但野 栄一（岩見沢東光中） 中村 矢一（札幌月寒高） 高橋 良助（札幌西高） 石川 ハル（札幌豊水小） 花田 吉朗（札幌一条中） 高野 年男（余市沢町小） 中村 知久（網走西小） 高橋 栄吉（札幌北九条小） 遠藤 久富（三笠中央中） 橋本 亨（札幌山鼻小） 三上 亨（鷹栖第一中）	中居千枝子 （札幌こひつじ幼稚園） 中川 清（札幌一条中） 寺井 夜（札幌北高） 野本 醇（札幌桑園小） 蝦名 亮二（札幌小野幌小）
2	中学校	高校造形教育の現状とその対策		
3	高校	高校造形教育の現状とその対策		
4	特殊教育	特殊教育における造形教育をどうすすめてらよいか。 小規模学校における造形教育の問題と打開策		
5	単 複			
6	総合(A)	分科会のまとめ		
7	総合(B)	デザイン部会のまとめ		

主 題	司 会 者	提 言 者	発 表
札幌市立一条小学校 札幌市立東園小学校 造形教育センター	土門 孝 伊藤 恵 坪内 千種	①基礎デザイン 造形教育センター 佐藤 諒 ②機能デザイン 同 大和屋 巖 ③視覚デザイン 同 米倉 正弘 ④装 飾 同 藤沢 典明 ⑤子どもデザイン 同 林 健造	北海道学芸大学札幌分校 森川 照夫 札幌市立北九条小学校 佐々木理温

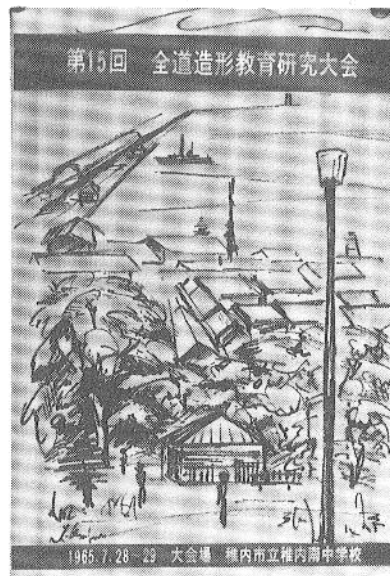
第3日 講演 子どもの造形能力の発達について

美術教育評論家 武井勝雄

第15回 稚内市

会場校・稚内南小学校

昭和40年7月。28。29日



## 研究主題

子どもの造形能力とは何か。

—教材の面からのたしかめ—

## 設定の理由

昨年一応「造形能力体系表」を発表したが、あくまで仮説の段階にある。

本年は体系表の裏づけ研究の場として、子どもの造形能力開発の場は具体的指導にある。これは教材の設定そのものに造形能力の伸張、開発の期待がなければならぬ。

日頃、教材の精選、指導内容の吟味などきめ細かに能力の開発を行った子どもの作品を通して実証したい。

この研究は第二次連盟のカリキュラムの伏線となるものである。

## 十五回大会に想う

今 野 隆 二

連盟二十周年の記念行事の一つとして記念誌の発行は誠に意義深く、その記念誌の一頁に十五回大会の想い出を掲載できることを何よりの光栄と深く感謝いたします。この一文を今は亡き木下三良先生（当時稚内小学校長市教育研究会長）の御霊前に捧げます。当時の稚内市は政治、経済、教育、文化の各方面にわたり種々な問題が山積し、特に庁舎の建築と駅舎の改修、駅前広場の問題等、市としては苦難の年であった。更に全道大会等の企画はこれまで一度もなく、その運営、研究推進受入れ、資金等、又、規模に於いても大変なものであった。私がこの話を木下校長先生に依頼した時、先生はこれら種々な悪条件下にあって笑顔をもって快よく承諾して頂き、早速市長交渉をもって頂いた。市教育委員会や市長交渉に於いて大変な苦労があったのではないかと思います。数日後、唯一回の交渉で市長が全面的にこの大会を応援するとの快諾を得たことを聞き、異例のことだと聞かさ

れた。更に稚内市の教育の進展と図工教育を特に期待しての快諾であろうと話されていた。初めての全道大会をこの稚内市で開かれるのだという感謝は誠に大きかった。この大会を契機として市や管内の図工、美術教育が底辺を拡げ恵まれないへき地の子どもたちの豊かな心情が育っていくことを心から願った。木下校長先生の暖かいおもいやりに支えられてこの大会が盛会に終わったことを私は終生の喜びとしております。更にこの大会に限りない御支援を頂いた連盟の方々、特に新妻先生、伊東先生、伊藤恵先生、森川先生、荒木先生に感謝いたします。不思議なことに、稚内大会のへき地校の授業公開に、私が紹介した東浦小に現在私が校長として第一歩を歩み始めましたが、これも十五回大会の従縁と日夜がんばっております。〈稚内・東浦小〉

**弱かったダンブ**

二十九回大会が終って軌動車に乗った。むし暑くて、参加者が満員の急行が、ガクンときた。

「どうした」「早く走れ」など事情のよくわからぬ芸術家達、伊藤恵さんのダジャレが皆を笑せているとき、「ダンブとぶっかったんだとさ」。あの頃のダンブは弱くてよかった。



## 分科会

### 主 題

各領域（描画・版画・工作・デザイン・鑑賞）指導の系統性をおさえ、  
教材の面から子どもの造形能力についてたしかめよう。

工 作	版 画	描 画 (3)	描 画 (2)	描 画 (1)	分 科 会
三谷哲司(札幌附属中)	佐藤光吉(礼文船泊小) 橋本富(札幌山鼻小)	三国谷美名雄(稚内声間中) 斉藤富雄(赤平茂尻小)	一の戸信雄(滝川研究所) 遠藤末満(苫小牧東小) 側瀬宇太郎(札幌月寒小)	浜実(尾白内小)	司 会 者
太田覚(名寄南小)	森川昭夫(札幌附属小) 酒井盛行(当別中)	久我宏(稚内小) 上野義之(日高高静小)	東志隆(芦別中) 池本良三(追分小) 小崎信夫(登別幌別小)	成瀬登(帯広柏小) 石丸雅晃(室蘭東園小) 浜実(尾白内小)	提 言 者
鑑 賞	デザイン 3	デザイン 2	デザイン 1	彫 塑	分 科 会
吉田広仕(札幌陵北中)	酒井郁夫(宗谷指導主事) 志村猛(古丹別小)	土門孝(札幌一条中) 滝村虎雄(函館船見中)	長谷川伝(札幌曙小) 納谷秀夫(稚内指導主事) 神田耕治(上川一の橋小)	小笠原仁(利尻泊中) 本田哲也(夕張大小)	司 会 者
伊藤善彬(稚内中)	船着昭弘(苫小牧東小) 橋場昌之(留萌小)	金井秀男(札幌東小) 田辺康夫(函館鷺石中)	黒沢正元(温根温小) 浅野道弘(網走第二中)	南巖衛(南幌中) 島垣純男(由仁中)	提 言 者

公開授業

学年	領域	題材	授業者
幼稚園	工 作	さかなつり	須藤 礼子 高山 祐子
小 1	工 作	つるすかざり	渡辺 紀子(稚内鈴蘭幼)
小 2	彫 塑	ねんどのどうぶつ	加藤 広志(稚内南小)
小 2	デザイン	ならべもよう	大谷 伸也(稚内北小)
小 4	デザイン	わたしたちの町	川原 一成(稚内東小)
小 5	彫 塑	楽しい顔	関 忠夫(稚内北小)
小 6	工 作	丈夫なくみたて	松川 仁(稚内小)
中 2	描 画	ガラス絵	藤井 常雄(稚内南小)
中 3	彫 塑	野外彫刻(共同)	金丸 雄司(稚内中)
高 校	デザイン	表紙のデザイン	木立 博康(稚内南中)
小 4 5 6	彫 塑	トーテムポール	中村 昭夫(稚内高)
特殊 工 作	彫 塑	一輪ざしづくり	阿部 正(東浦小)
盲 校	彫 塑	ねんどでつくる	野田 誠(稚内小)
			山田 光幸(稚内宣)

パネルディスカッション

主 題

子どもの造形能力をどう捉え、どのように伸ばしたらよいか。

。造形教育を通して子どもにどんな能力をつけるか。

。造形能力を伸ばすために、われわれはどうしたらよいか。

。造形能力と効果的な教材題材の選択設定をどうとらえたらよいか。

。造形学習における造形能力の焦点化をどうとらえたらよいか。

司 会

齊 木 果 一(札幌伏見中)  
吉 田 徳 夫(浜頓別中)

提 言

種 市 誠次郎(札幌発寒小)  
諏 訪 英 雄(室蘭成徳中)  
伊 賀 明(名寄南小)

清 水 久(稚内市)

裏方として

久 我 宏

造形教育研究大会というに必ず、最果の稚内から数名のグループで出かけ、各地大会の雰囲気在大いに味わってきたのですが、稚

内で十五回大会が開催された年は、楽しみにしていた大会が一回抜けたような気がしたものです。大会開催が決定してからは各地区の会員の協力や、地元的全教師の絶大な協力のもとにすすめられ稚内市の園工、美術教育にとって大きな役割を果たしてくれました。大会開催の二年前に開催について、藤井常雄氏と、教育長に話をもちかけた際、稚内でその

ように大きな大会を開くといっても、それだけ大勢の人員を宿泊させる宿屋はいったい、どうするのか、民宿でも頼むのか、などと叱責めいた言葉をいただき四苦八苦した当時のことが、今ではなつかしく思い出されます。この造形大会が今後も全道の各地に大きく根をはり、益々発展されんことを祈り、ペンを置きます。

稚内・東浦小

## INSEAに参加して

森川 昭夫

高橋研究部長が参加出来なくなっておかげで、あきらめていた国際美術教育東京会議に出席できて感謝感激。

世界から来た美術教育者のオリンピックについて」新妻、金井、側瀬氏が発表するのである八月二日から五日間、二つの会場の各部屋で研究発表が一せいに始まる。その中を大学の講議をかけずり回る要領でむさぼり聞いて歩く。北海道の発表は、図工科指導の科学化ということで感銘を与える。

英仏独語の単位をこましかけてとった者には言葉は全くわからない。でも通訳が話す前にその情熱はずしんと胸に伝わってくる。

野郎。世界には俺と同じことに一生懸命な奴がこんなにいるのかと、安心もした。

美しいやんちゃ娘達のボディガードを私に頼んだ伊藤貞子さんの最後の旅行であった。

帰ってから、金井氏が過労のため、銀座のデパートで倒れたという話を聞いてびっくりもした。

〈札幌本町小〉



INSEA 風景

## 第17回国際美術教育東京会議に参加して、

木村 晴一

国際会議への参加に力を下さった方々に心から感謝いたします。原稿を書くため、昭和40年8月2日～9日の国際会議のテーマ、「科学と美術教育」私が発表した論文「日本の近代化に影響をあたえる美術教育」、研究資料、会議記録などをしらべているうちに、当時、すでに心配されていた事が今日、現実になりました。その公害ぶりがニュースされている。私は論文に、日常的な現象にただ合わせているような教育活動があるならば、まことに残念である。教師の願いととして、美術教育が、やがて次の時代の開始者になろうとする中学生に対し、創造に耐え、創造的に実現する。精神的、文化的自覚への達成をどうみているか、美術による教育が、人間の生命を失った者に、生命の源泉の回復を得ることができるといふ願ひ、そこから新しい美術による教育への創造を、当時、遠軽中学校の生徒と共に実践研究していた。今もこの研究は継続先生方からの御指導、御助言を願っています。

〈北見・東陵中〉

## 連盟機関誌

成田 一男

文章を書くということは、私にとっては実にたいへんな苦痛な仕事です。その自分が書けない苦痛な文章を、全道の造形教育の仲間のみなさんから、機関誌の原稿を集めて編集の仕事をしているのが私なのです。ですから愉快でくすぐったい気持ち、世の中は皮肉にできています。

ところが、その皮肉な編集の仕事がおもしろくて夜を徹して楽しんでできるのです。その時ぐらい連盟の仲間意識を強く感じることはありません。

しかし何時も予定の発行期日を遅くしてしまふのは一人私が楽しみ過ぎるだけでなく、ご依頼原稿の到着にも原因があるようです。

連盟の組織もなおいっそう強化され、末端の会員の声を編集できますことを、今後の編集部への願いとしております。

〈札幌・白石小〉

機関誌のタイトルの変遷が一四ページからなっています。

## 新会員からみた連盟

香西 富士夫

鑑賞の時間（先生ノ美しさの価値は時代が移り変わっても変わらないものなんですか）私は《ウーム》と考え込む。どの程度の答を要求しているのかなあと考えると同時に、こんどの連盟の集まりの時に、話題に出してみようと考え。きっと様々な意見が聞けて結局、芭蕉の考えあたりに落ち着くかな……などと考える。

この様に並段の授業で心に止った事や困難を感じた事をまとめて、連盟の集まりの場所で先生達に話しかけて見るのが癖になった。

私と同じ中学教師に限らず小学校、高校の先生方がおられるので異なった視点からの意見がきけてためになる。

連盟の先生方はとも角よく勉強している。

そして感覚でなしに理論として体系的におさえられている。ともすると印象・感想論で判断してしまう傾向のある私には羨しい限り、これからも美術一般について先輩の知識を大いに吸収しようと考えている。〈札幌北辰中〉

## 中文連展の様子

新谷 純輔

毎年、①デパートで開催されている札幌市中学校文化連盟美術書道展は、年を追うことに盛大になってくる。

20年近くも続けてきたこの会の変遷の足取りは、昭和37年度指導要領改訂にともなう222獲得運動にタイアップした中学校美術教育の紹介（授業作品を中心に）。造形連盟及び札幌研中部の研究内容を組み入れたテーマ設定による作品展示と実質的な伸展をみせている。しかし一方、会場折衝、搬入搬出、経費などの諸問題をかかえて苦労はたえない。

最近、中体連とともに中文連の体質改善は叫ばれているものの、子供達の作品展示による、われわれの美術教育の対社会的意志表示は今後も欠かせない。

われわれがこの会をより発展させようと努力することは、より優れた作品を発表することと主眼があるのではなく、より充実した美術教育を推し進めるためのものである。

〈札幌発寒中〉

第16回 室蘭市  
会場校 室蘭武揚小学校  
昭和41年 7月27・28日



## 研究主題

造形学習が多岐にわたり焦点が埋没し惰性になりがちなものを指導の構築を通じて鋭く造形能力の培養を図り、造形教育の焦点化と系統的発展性をねらいとして、いかなる指導法によって学習活動が組み立てられるか、教材のあり方、学習過程に於ける(展開)指導の構築として研究する。

## 室蘭大会記

諏訪 英雄

つい先日のことのように思われますが、もう四年前のことになってしまいました。四年の春の地区委員会で気易くお受けしてきましたが、いざ具体的に組み組んでみますと、いろいろ難問があったように思います。当時は「指導の構築」の全盛期だったので、テーマに対する論議が相当ありました。何となくわかるようで、それでいていろいろな方のお話をお聞きすると千差万別でピンボケの焦点に合わせるような割切れない気持ちで終始したように思います。この点については、いまだにはっきりしていません。しかし指導の構築と

はよい言葉だと思っています。計画では前年度に授業者を決めて、予備授業くらいはやってみたいと考えていましたが、来年度の担当学年がはっきりせずこれも実施に踏みきれませんでした。何人かの校長さんに授業者の受持ち学年をお願いに歩いたりしましたが、今考えると冷汗の思いがします。

大会場の学校は、室蘭を代表して、造形大会にふさわしい学校として、武場小学校を選びました。湾曲した校舎の造形性からも、展望の上からも考慮したつもりですが印象に残って居られましょか。

かたいことばかりでなく大会は年一回の同志の顔合わせ、友情を暖め合う場とも考え、観光や、パーティーも計画しました。大黒島行きは雨でも風でも取りやめなければならなかったのですが皆さんの精進がみのつてあのような晴天に恵まれたものと嬉しく思っています。

ともあれ二ヶ年間にわたって研究討議、大会運営、会場作成を通して部員一同が仕事によって理解し合えたことは室蘭にとつて最大の収穫だったと思います。それだけにさわやかなすがすがしい印象が残っていることをしあわせに思っています。最後に当地区の研究

にご協力くださいました滝村先生、遠藤先生、伊東先生に感謝致しましてその責を果したいと存じます。

### 講演要旨

## 造形能力の意味

上 糸 雄 也

造形能力について考える場合、それは少なくとも次のような二つの角度からとらえられることが必要であろう。

第一は、造形能力ということばの中に含まれる能力の内容がなんであるか、ということ。第二は、造形能力が造形学習の中でどのような意味をもつか、ということ。

造形能力が造形実践の能力を含むことは自明の理である。造形実践の能力は、造形手段—造形技術—に関する能力で、実材を組立てる能力である。実材が組立てられれば造形実践は可能であるから、それだけで造形能力は充足されると言えないことはない。

しかし、造形実践は実材を組立てることだけで終始するのではなく、実材が持つ感覚的なものを同時に組立てることが要求される。

また、実材から離れてもつばら感覺的なものの組立てに終始する表現も、造形実践にはある。そうした感覺的なものを組立てる能力は、空間意識の発達の度合いに左右される。

実材を組立てるには、何を形づくるかという目的が明確でなければならぬ。同様に、感覺的なものを組立てるには何を表現するかが明らかでなければならぬ。そうした造形目的を確立するもの、その目的に向かって行動を統御するもの、それは精神内容とそれに基づく精神活動である。

従つて精神内容と、造形表現に当たつての精神活動とは、造形の最も大切な基本的要件だと考えられるが、それは造形能力に含めな

いで考えるのが正しいのであろう。  
しかし実材や感覺的なものを組立てる能力と、精神内容やそれにかかわる精神活動とは、互いに深い関連をもつていて、創造性の育成を最終目標とする造形学習の中で、造形能力が果たす役割も大きいものがあると考えられる。その場合、それがどのような場、どのようなように働くかはつきりさせることが大切になる。

〈北海道教育大旭川分校

## いろいろ

石塚 潔

「暮れなすむ武揚小（会場校）のなだらかな坂道を下りながら、大きな仕事を成し終えた安心感と充実感を満喫したのは、私だけでなく諏訪・石丸両氏も同様であつたろう」。

これは当時室蘭教研の会報に載せた拙文の冒頭である。室蘭大会での苦勞は、こうした充実感を考えると、全く霧散してしまつて、想い出すことができない。勿論、大会の成功は造形部の仲間たち全員の努力の結果であつて、当時の古いノートを見ると、研究担当の中坪氏をはじめ、一人何役かで進めた仲間たちの仕事がいろいろと想い出される。連盟から提起された「指導の構築」をめぐつて、本部からの伊東先生方をはじめ、滝村先生にまで手数をわずらわした。これらの事前研究は、その後の研究にどれほど役立ったことか。  
大会初の「フレッシュマン部会」も好評だったが、大会成功の秘密は、部員個々のアイデアを生かし、仲間としての人間的な結びつきにあつたと自負している。

会室蘭水元小学校

## ビール飲み放題パーティー

石丸 雅晟

大会で最も心配された天候が、当地は誠に珍しい程の快晴に恵まれ、第一日の日程を終え、全員揃つて、中央埠頭より遊覧船にて大小船泊の向をぬつて、大黒島燈台に上陸、内浦湾を一望し、遠く駒ヶ岳、洋蹄、昭和山等の光景を満喫し、夕陽の映える静かな港を背にしながら、準備整つた駅前産業会館会場に全員勢揃い。趣向こらした本市造形部員の全員ハッピー姿でのビールのサーブ、会場割れんばかりのエレキ演奏、一人三ばいの定量はるかオーバーの飲み放題、全道各地から集つた同志のお祭り。やがて宴も最高潮に達し、あわ踊りならぬエレキに合わせた俄か造形踊りの一戦、余りの賑かさに町行く人も立ち止まり、青い眼の外国船員もついふらふら舞込む有様。いつしか夜の帳りもすっかりおり、乾杯の音頭と共に、ある人は宿舍へ、ある人は、夜の港町のネオン街へとそれぞれ消えて行きました。

会室蘭東園小学校

公開学習一覧

学 年	領 域	題 材	授 業 者
幼稚園	描 画	色ぬりあそび	室蘭清泉幼稚園 大須田 恵美子 藤 井 幸 子
幼稚園	粘 土	粘土であそぼう	室蘭めばえ幼稚園 本 間 紀 子
小 1	デザイン	ふしぎなかたちのく に	室蘭市立東園小 成 重 恒 夫
小 2	デザイン	めずらしい鳥をつく ろう	室蘭市立武揚小 佐々木 博
小 3	描 画	港で見てきたことを	室蘭市立常盤小 片 平 浩 史
小 5	描 画	物語の絵をかこう	室蘭市立常盤小 杉 山 久 子
小 5	描 画	左手をかこう	室蘭市立日新小 赤 司 賢 二
小 6	彫 塑	学校生活を浮き彫り にしよう	室蘭市立武揚小 中 村 民 夫
中 1	デザイン	学校生活に関するポ スター	室蘭市立東中 石 川 孝 一
中 2	彫 塑	友達顔を造ろう	室蘭市立向陽中 高 橋 昭五郎
中 2	描 画	過去と未来 (私は魔法使い)	室蘭市立港北中 金 子 照 代
中 2	デザイン	ポスターをデザイン しよう	室蘭市立北辰中 青 野 昌 勝
中 3	彫 塑	不思議な魚を作ろう (レリーフ石膏形取 り)	室蘭市立蘭東中 伊 藤 晋
中 3	描 画	工場を主とした風景 をかこう	室蘭市立成徳中 武 田 貢
特	描 画	お話の絵をかこう	室蘭市立武揚小 高 木 勲
高 クラブ		デザインのための鉛 筆デッサン	道立室蘭栄高 渡 辺 真 利



分科会

「こどもの造形とは何か、(指導の構築はどうあるべきか)」「何を」「どのように指導したか」「あなたは……」

小学校	分科会	司会者	種市誠次郎・札幌発寒小	提言者	佐藤 圭・札幌東札幌小
低学年A	高橋 元春・帯広稲田小	清水 健・石狩鉄北小	高学年A	橋本 富・札幌山鼻小	池本 良三・胆振追分小
B	辻 悦平・札幌大通小	松島 輝男・札幌幌西小 桜井 旬・室蘭大沢小	B	山本慶一郎・札幌二条小	側瀬宇太郎・札幌月寒小
C	今野 正治・旭川中央小	椿 弘司・歌志内文珠小	C	泉 秀雄・旭川朝日小	五福 興三・中富良野小
小学校	長井 孝二・札幌北小	佐々木理温・札幌元町小	中川 大三・札幌月寒東小	伊藤 恵・札幌東園小	
中学校A	志津 照男・岩内東小	高間 政子・網走網走小	遠藤 満男・苫小牧東小	江津 明・室蘭天沢小	
小学校	長谷川 伝・札幌中の島小	金井 秀男・札幌東小	中川 清・札幌平岸中	千葉 光男・札幌陵北中	
中学校A	西 弘治・釧路旭小	山口 武・余市沢町小	中學校A	木村 晴一・北見東陵中	佐久間恭子・室蘭成徳中
B	成田 一男・札幌豊平小	佐藤吉五郎・札幌幌南小	B	齊木 梶一・札幌伏見中	吉田 広任・札幌陵北中
C	伊藤 鉄男・札幌月寒東小	高橋 隆司・室蘭朝陽小	C	大友 一夫・沼の端中	森田 喜昇・旭川北都中
	越田 一喜・函館千代田小	遠藤 久男・札幌美香保小		三谷 哲司・札幌付属中	香西富士夫・札幌北栄中
	信水 昭三・函館巴小			高山三郎太・網走二中	

—オリエンテーション—

指導の構築とは何か

<p>司会者 札幌発寒小学校 種 市 誠次郎</p>	<p>提言者 札幌元町小学校・佐々木 理 温 札幌月寒小学校・側 瀬 宇太郎 札幌 東小学校・金井井 秀 男 札幌陵北中学校・吉 田 広 仕 札幌月寒 高 校・中 村 矢 一</p>
------------------------------------	---

— 部 会 —

部 門	司 会 者	提 言 者
幼稚園一般	荒木 アイ 札幌こども美育研 穴倉 寿満子 札幌いずみ幼	前田ひろみ 札幌本郷幼 山本知恵子 室蘭富士鉄こぼと幼
特 殊	野本 醇 札幌東橋小 花田 吉郎 札幌一条中	佐々木 寛 室蘭港南中
高 校	土岐 慎次 札幌北高	中村 矢一 札幌月寒高

—フレッシュマン部会— (初心者)

<p>司会者 A大 類 敏 憲・室蘭高砂小 B青 野 一 郎・室蘭鶴ヶ崎中 C古 川 義 裕・室蘭武揚小</p>	<p>助言者 野 村 英 夫・札幌 顧 問 滝 村 虎 雄・函館 松 川 中 小山 田 武 鋼・札幌 柏 木 小 新 伊 妻 清 夫・札幌 石 山 小 伊 石 東 将 義 政 郎 室 蘭 教 委 和 高 一 橋 芳 栄 札 室 札 札 札 札 札 戸 橋 栄 信 空 知 研 究 所</p>
--	---

一九六六・七・二七(水) 晴れ

松 島 輝 男

爽やかな港の朝風を楽しみつつ丘に登り、  
武揚小学校に着く。大きくユニークなテーマ  
塔をみつつ参会者にもなれ、大会場に入る。

正面、壇上いっぱいには輝くばかりの金屏風  
かともみえるすばらしいパネル。日本古来の  
紋章をあしらいつつも、モダンな美しさに  
うたれる。さながら、全道各地より馳せ参じ  
た全員の面々の、背にかがける旗差物の並ぶ  
が如く、梅鉢、四ツ菱、二ツ巴等々……。  
向う二日間のサムライ共が、技を磨き、研鑽  
の力を競う場にふさわしいアイデア。地元、  
室蘭の意気こみもあらわれ、深く感銘する。  
そのねらいの如く、熱のこもった一日を終  
え、測量山より、街の灯の、炉の火の、ダイ  
ナミックな夜景美を満喫する。

港点描

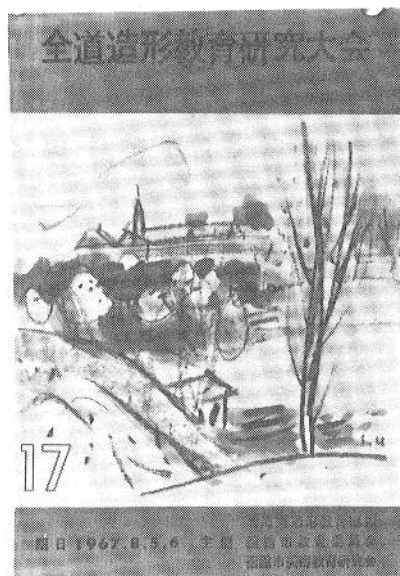
炎昼の 阜頭の亀裂は 地の怒り

浮標陸に 干されて水の欲しい夏

チップ積む 車の触手 炎天にも確か

札幌白楊小

第17回 函館市  
会場校 青柳小学校  
昭和42年8月5・6日



## 一 研究 主題

「指導の構築を具体化する」

。新しい教材と新しい授業づくり

。何を学ばせるか

。どのような教材を選定して

。どのような授業を組み立てるか。

## 二 大会 概要

越田 一喜

昭和四十二年八月五日、夜空を彩る港祭りの花火大会を青柳小の屋上でピールをくみかわしながら話し合った皆様を偲びつつ。

室蘭大会の後をうけ「指導の構築の具体化」

―新しい教材と新しい授業づくり―連盟研究部長の高橋さんからは、これまでの研究が、「つながり」と「必然性」が理解され、現場

の指導実践に役立つよう具体化しなければとハッパをかけられ、責任の重大さだけを痛感

何を学ばせるために、どのような教材を選び、どう授業を組み立てるかで、小中高、特

殊計二十の授業を、それぞれの授業者の学校におじゃまし授業を見ては討議する連日、その結果はともかく、このことによって今まで

先輩に育てられて来た函館の仲間の百五十名

は、計画、研究等のすべてを全員で行なうことよって皆様に喜んでいただき、何かを持ち帰っていただきたいという気持が一つになつて、それが成し得ることであり、これからもそうありたいものであることを学んだようである。

(函館金堀小)

## 函館大会

加藤 彬

函館にとつては、二回目の大会、あれから十三年もたつているのだから、もうそろそろ大会をもつてきたら、ということ、ちょうど西谷会長もこの年一年で引退ということもあり、連盟にお願いした結果、候補地の予定変更などもあり、幸に開催できた。

函館のサークルは、すでに確固たる基盤と組織が出来あがっている、前回のようないわゆるあわただしい感じ等一切なく、当初から計画的な進め方で、越田一喜を中核とする面々の活躍は全くすばらしいものであった。

「指導の構築」二年目の大会であったので構築問題の解明からとりかかつたと思う。あの段階では、まだ全道的に多少の抵抗があり函館でもいろんな問題点がたくさん出てきた

ので、連盟本部から委員長をはじめ、高橋来吉研究部長などにおいて願つて、いろいろと話し合いをもつた。高橋先生の、例のファイトのある、口角泡をとばす如き解明には、今でも鮮明に頭に残っている。

授業者にもこと欠かぬ位の陣容であつたがテーマやサブが、どのように授業の中に焦点化されるかが、研究部の焦点となつた。

函館で、この種の大会をもつて困惑するのは会場難である。結局、会長の学校にお願いしたのであるが、歴史的な青柳の校舎は、相当古くなつてゐるし、暗かつたので、来会者にはあまり好感をもつていただくことは、できなかつたと思う。

上講師のコンピュータの話、あれから僅か三年たつた今日、思い当る節々が浮び上つてくるのは、小生一人だけではないと思う。屋上でのビャーガーデン。人手不足でセルフサービスといった形になつたが、ちょうど港まつりの花火がボンボンと上つた頃、最高調、いや飲んだは、飲んだは、ビャ樽のころがった数を見て、札幌直営の人と係で後始末にてんでこ舞をさせられたのも楽しい思い出であつた。

(榎法華小)

### 三 講演と講師

#### 演題

「コンピュータピア時代における美術教育」

#### 講師

千葉大学講師 上 昭二

分科会・司会者・提言者

総合助言者

北海道教育大学助教授

宮林繁雄氏

#### 内容

社会、経済の変化に対応して教育の変化を三つの柱から問題提起された。

・経済機構とデザイン教育

・オートメ時代の美術教育

・視覚を生物学的に心理学的に見て

### 悔なき大会

「函館の青柳町こそ悲しけれ……」と啄木が詠いし、青柳小学校を会場に、四十二年八月、快晴熱気の中で、函館開催二度目の第十七回大会が行なわれました。幼稚園から高校特殊教育部門を含め、二十学級の公開授業、十四にわたる分科会、これらは、「指導の構築を具体化する」の研究主題を基調とし、函館、渡島サークルの特色を生かし、多くの先生方が、それぞれのパートで全力を傾注した一年でありました。

講師の上昭二先生、総合助言の宮林繁雄先生をはじめ、運営にあたった連盟、地方の方々の協力により、「悔なき大会」であったと考えます。

真夏、ときあたかも花火大会の真つ最中、屋上でかわした「生ビール」の味は、友と語り、旅情を慰め、成果の喜びを分かち合うにふさわしいムードであったと思います。

連盟の発展を祈念しつつ、回想の「こまといたします。

(釧路教育局)

No.	分科会	司会者	提言者
1	幼児	戸村キエ(函館幼稚園)	斉藤幸子(函館・函館幼)
2	小1年	大橋三雄(函館・巴小) 成田一男(札幌・豊平小) 長谷川伝(札幌中の島小)	種市誠次郎(札幌・菟寒小) 松島輝夫(札幌・幌西小) 石丸雅冒(室蘭・東園小)
3	小2年	谷口幸一(函館・大森小) 辻悦平(札幌・大通小)	信永昭三(函館・巴小) 佐々木理温(札幌・元町小)
4	小3年	乳井邦衛(渡島・白尻中) 砂金隆(札幌・藻岩小)	側瀬宇太郎(札幌・東小) 松原望(函館・付属小) 吉田義晴(北見・開盛小)

分科会・司会者・提言者

No.	分科会	司会者	提言者
5	小 四年	清野満敏(渡島大中山小) 橋本富(札幌・山鼻小)	金井秀男(札幌・東小) 佐藤吉五郎(札幌・幌南小) 小岩俊(苫小牧大成小)
6	小 五年	木村良(渡島・森小) 中川大三(札幌月寒東小) 津村彰広(松山・栄浜小)	森川昭夫(札幌・付属小) 中川真一郎(松山・乙部小) 菅原寿(栗山日の出小)
7	小 六年	古川良吉(渡島野田追小) 伊東将夫(札幌・石山小)	遠藤久男(札幌美香保小) 佐藤圭(札幌東札幌小)
8	中 一年	中村光蔵(函館・旭中) 三谷哲司(札幌・付属中)	千葉光男(札幌・陵北中)
9	中 二年	三箇三郎(函館・大川中) 森健(札幌・日章中)	木村訓丈(函館・深堀中) 齊木杲一(札幌・伏見中)
10	中 三年	漆崎繁雄(函館・中央中) 太田達雄(札幌・陵陽中)	吉田広作(札幌・陵北中) 畑中義和(渡島・森中)

函館大会の夜

函館大会の夜はむし暑く自然人々の足は外をむいた。夜の町の祭りの開幕とあつて例の有名な夜景をみようとして地方からの人も多く大会参加の顔もあちらこちらに流れていた。私も友人とあかりを求めて夜の人の流れにまぎれ込んだものだ。寿司屋ののれんを分けて夏いかのさしみを皿一杯に盛り上げ腹に流し込んでいと大会に参加しこの町を舞台に語り合った二日間の経過が一つ一つ有意義に思起されたんのできた幸せをしみじみ味わわせてくれた。

多くの芸術家を生みこの町特有の語調の人の住むこの町の装いがこの人達に「情」というかたちで親しさを味わせてくれるように思えとても私自身をすなおにしてくれたように感じとられたものだ。分科会での話し合いや、業の中で子どもたちが作られたものでなく生の感情がただよっていたのはこうして生きている人達の自然の力であり強みであるように思つてならなかった。

佐藤 吉五郎

(札幌幌南小学校)

15	14	13	12	11
フレッシユマン C	フレッシユマン B	フレッシユマン A	特 殊	高 校
滝村虎雄(渡島・汐首小)	加藤 彬(函館・港中)	乙部幸吉(函館・金堀小)	蝦名啓史(函館・港中)	伊達幸太郎(函館・西高) 中村矢一(札幌・月寒高) 渡辺宏(小樽・工業高) 寺井孜(札幌・南高) 土岐禎次(札幌・北高)
和田芳郎(札幌・月寒小) 諏訪英雄(室蘭・成徳小) 村三郎(小樽・手宮小) 日野栄之助(函館・松風小)	新妻 清(連盟・顧問) 小山田 武(釧路・柏木小) 今野隆二(稚内・南中) 田中俊也(日高指導主事)	野村英夫(連盟・顧問) 木村晴一(北見・東陵中) 金子幸正(函館・愛宕中) 秋山修世(道・指導主事)	久美屋 竜二(札幌・東橋小)	梅谷利治(函館・東高) 高井澄夫(帯広・柏葉高) 河副穆敬(芦別・芦別高) 高橋棋六(札幌・開成高)

## 二十周年を祝す

戸村 キエ

是非残しておきたいエピソードの持ち合せがないので二十周年を迎えた幼稚園部会を祝し、感想の一端を申し上げさせて戴きます。

終戦後のゴタゴタ期に造形教育の全道的な研究会をスタートさせた諸先輩に心より敬意を捧げます。その当時この研究会の中で育てられた幼児は青年期を迎え人間性豊かな活動を続けていることでしょう。幼児期の情操教育のより豊かさが人間性の豊かさに通ずることを大脳生理学の立場から申されており二十周年を迎えた幼稚園の絵画製作の領域もいよいよ専門的な分野に立って造形教育に通ずる論理を北海道より創造しようではありませんか。誰よりも幸するのは幼児でしょう。幼児の絵は生活しているからです。この絵を通して教師は幼児の心を覗くことができるからです。この事が義務教育にない幼稚園教育の獨自性の發揮につながるようになるでしょう。幼稚園部会の発展を心よりねがう者です

(函館幼稚園)

学 年	領 域	題 材	授 業 者	学 年	領 域	題 材	授 業 者
幼稚園	工 作	港まつりのかざり舞台	函館・函館幼 岡田 恵子	小 5	描 画	わたしの町の建物	函館・弥生小 佐野 忠男
幼稚園	描 画	魚のようちえんをつくりましょう。	函館・幼稚園 斉藤 幸子	小 6	版 画	港まつり	函館・金堀小 千葉 利子
小 1	描 画	のってみたいのりもの	函館・駒場小 柴田 雅史	中 1	彫 塑	鳥のレリーフ (石膏どり)	函館・新川中 高野 政忠
小 1	描 画	わたしはタイ	函館・柏野小 寺山 秀弥	中 1	デザイン	立体を作る	函館・大川中 越田 喜忠
小 2	彫 塑	動 物	函館・常盤小 藤井 昭大	中 2	絵 画	太陽と人と樹	函館・的場中 長政 裕
小 2	デザイン	すきなもよう	函館・東川小 九十 勝子	中 2	絵 画	造船所で見たこと	函館・港中 村山 義幸
小 3	デザイン	すてきなおかし	函館・常盤小 長谷川 由美子	中 2	デザイン	飾りものを作ろう	函館・松川中 進土 継昭
小 3	デザイン	虫のくに	函館・湯川小 井沼 聖子	中 3	デザイン	統計図 (校内事故防止のための)	函館・五稜中 安井 孝
小 4	工 作	画用紙を使って	函館・大森小 八木橋 哲郎	高 校	絵 画		函館・大谷高校 外山 欽平
小 4	デザイン	楽しいコップを作ろう	函館・港小 本川 陽子	特 殊	デザイン	自然のもよう	函館・青柳小 工藤 トシ

## 新潟大会に提言して

ガワセウタロー

「本当に北海道はいいなあ」胸いっぱい吸いこむ充実感は、北海道をはなれて、ひしひしと感ずる仲間の結集された実践力と論理の確かさでした。

20年間の先輩から受けつぎ組織だてられ、風土に根ざした造形教育の研究実践は二千五百の新潟大会に発表する私達に、ゆるぎない筋金を築いていたのです。指導の構築・能力体系と系統表、そして「見ることをとおして」子どもの能力の定着と発展、独創力の開発を進める提言は、子どもの作品の水準も高く発表に生甲斐を感じたのです。新潟付属小の「心象表現の系統化」全体発表と比較しても内容の分化小・中・高の系統と実践のたしかめは他に類をみないものでした。

和田委員長、越田、池本、船着、金井氏をはじめ本道の猛者連が駐せ参じ私を支えてくれ夜は待遇悪い宿にアッコウで快気炎をあげ、終夜委員長のエネルギーにへき易したことも楽しい思い出でした。

(札幌平岸小)



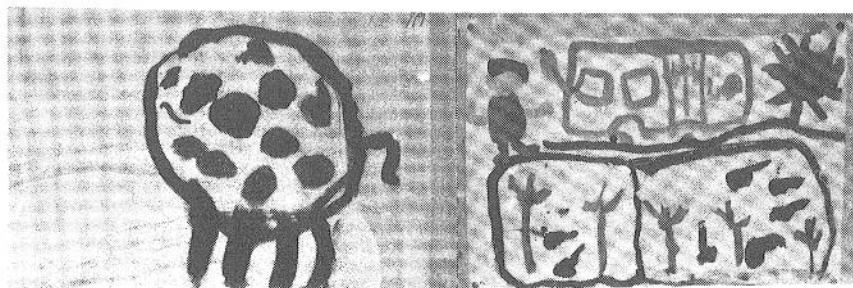
第18回 苫小牧市  
会場校 苫小牧東小学校  
昭和43年 7月30・31日



全道造形教育研究大会

**18**

期日 1968. 7. 30~31  
会場 苫小牧市立苫小牧東小学校  
主催 北海道造形教育連盟  
苫小牧市教育委員会  
苫小牧市造形教育研究会



## 一 研究 主題

「指導の構築を具体化する」

—教材の新しいとらえかた—

昨年度にひきつづき指導の構築を目ざすのであるが、この大会においては特に、指導の実際において共通の基盤に立つていくつかの要件を抜き出しきびしく検討されなければならぬと考え、表記の主題を設定した。

## 二 大会 概要

遠 藤 末 満

苦小牧大会が成功だったとしたら、その理由はこれこれだ。

指導の構築がうち出されて、その解釈論で人まちまち、地区まちまち、大会でまちまちじゃあ、混乱をきたすばかりなので主催地区のわれわれが一応共通理解を持ち、参加した人たちにも、苦小牧大会で何をやろうとするかの意図がはっきり解るような方策を取ろうということになって事前に次のようなことをした。

(1) 本部とは密接なつながりを持つよう。  
イ 交流の会を二回持った。

一度は札幌から四、五名来てもらい、次は苦小牧から七、八名出向いてここで構築論について意見交換をした。

交換というよりは、意見のたたかいはしたことだ。(こういう会は何べん開いても楽しくていいよ。)

ロ 分科会の司会者には必ず札幌と苦小牧のものが入り、指導の構築に一貫したものを持つように配慮したこと。

これは各地区委員を除くということではなくこの大会ではこの方法が適当と考えた。

(2) 地区全員が共通理解を持つよう。

二日一泊研修を開いたこと。

大会のメンバー全員集合して、徹底討論をした。主なことは、指導の構築—教材の構造化—教材群の組立などであった。

こま切れて、何回も集まるのでなく、一べんに効果をあげる方法をとったことだ。

(七万円かかった値うちはあるたなあり)

(3) くだらないと思うことは一切止めた。たとえば観光とか、宿泊あつせんとか。

(4) 講師にいいひとを見つけてよう。  
二年がかりで見つけました。  
以上。ざっと。

へ苦小牧・美園小

## 北海道の先生方へ

講師 森 桂 一

連盟が二十周年記念誌をお出しになるということ、私にとっても感無量であります。一昨年の苦小牧大会を最後に、私は十回近く北海道へおじゃましました。歴代の幹部方また各地の先生方に、非常なご好誼をうけました。

ことは泉先生のところで大会がもたれるので、何とかしておじやましたいと考えていましたが、三年契約の最後の年で、七月いっぱいカナダ、トロント美術大学の招聘講師をつとめねばなりません。八月は欧州で作画に没頭したい計画です。

昨夏ニューヨークの国際会議で、美術教育への科学的接近」という講演を最後に、一応現職を離れましたので、ことしロンドンでの会議は遠慮しようと考えています。

省れば、四十二年間の美術教育と画壇生活を何とか一身のうちには調和させたいとつとめて来ましたが、一篇の終

### 三 講師、司会者、提言者

。講演「造形教育における構造と過程」

千葉大学教授 森 桂一氏

。パネルデスカッション

〔司会〕伊東 将夫（札幌平岸小）

池本 良三（苫小牧東小）

〔提言〕荒木 アイ（児童画研究所）

辻 悦平（札幌大通小）

遠藤 久男（札幌美香保小）

種市誠次郎（札幌寒小）

成田 一男（札幌豊平小）

佐藤 圭（札幌東札幌小）

松島 輝男（札幌西小）

佐々木理温（札幌元町小）

側瀬宇太郎（札幌明園小）

金井 秀男（札幌東小）

森川 昭夫（札幌附属小）

伊藤 恵（札幌東園小）

佐藤吉五郎（札幌南小）

吉田 広住（札幌美香保中）

齋木 呆一（札幌伏見中）

森 健（札幌日章中）

土岐 禎次（札幌北高）

日野 常子（苫小牧市立幼）

小岩 俊（苫小牧大成小）

片桐 勉（苫小牧啓北中）

校	分科会	司会者	提言者
幼稚園	砂金 隆（札幌手稲中央幼）	石附 省子（札幌第一幼）	芝木 捷子（札幌なかのしま幼）
一年A	荒木 アイ（児童画研究所）	松浦 くに（苫小牧市立幼）	内潟 悦平（札幌大通小）
			光尚（苫小牧若草小）

りということになりました。

大学は名誉教授に推してくれましたし卒業生は、作品、論文集の刊行を企て、くれましたし、呉市のリーダー方が大規模なパーティを開いてくれたり、有難い限りですが、二ヵ月に十回近くも会があるといさ、か疲労もかきみました。あと数日で旅立たねばなりません、健康を少し案じて居ります。

美術教育界への私の願いを要約すれば初等、中等教育で「美術心」を存分つちかってやらないと、人格形成には勿論のこと、今や華かなデザイン創造力など、望むべくもないということです。

児童生徒の作品のよしあしだけに腐心せず、美術教師が今少し教育全体また、その外周の諸学にも視野をひろげ、何のために普通教育の中に美術があるのかという原点にかえてのご研鑽をのぞみたいのであります。

最後に教師は聖職、自己研修につとめよと激励するかたわら、何としても今一歩待遇改善を計ってもらわないと、人材を失うということを私はさげびたいのであります。

千葉大・名誉教授

小		学	
六年 A	B	五年 A	B
伊藤 英世 (札幌附属小)	伊東 将夫 (札幌平岸小)	斎藤 一雄 (札幌新川小)	笹原 亮 (札幌東橋小)
金子 伊藤 惠 (札幌東園小)	森川 昭夫 (札幌附属小)	小岩 秀男 (札幌東小)	側瀬宇太郎 (札幌明園小)
金子 正 (苫小牧西小)		佐藤 俊 (苫小牧大成小)	
		四年 A	B
		越田 一喜 (函館金堀小)	高橋 栄吉 (札幌藻岩小)
		佐々木理温 (札幌元町小)	松島 輝男 (札幌幌西小)
		佐藤 幹夫 (苫小牧清水小)	
		三年 A	B
		山本慶一郎 (札幌豊園小)	長谷川 伝 (札幌本郷小)
		佐藤 圭 (東札幌小)	成田 一男 (札幌豊平小)
		白井 禎二 (苫小牧緑小)	
		二年 A	B
		橋本 富 (札幌山鼻小)	和田 芳郎 (札幌月寒小)
		種市誠次郎 (札幌発寒小)	遠藤 久男 (札幌美香保小)
		船着 昭弘 (苫小牧東小)	

### 苫小牧大会について

石附省子

第十八回苫小牧大会は、造形環境に力点を置く東小学校を会場に八百余名の参加者で、オリエンテーションをかねたパネルディスカッションで幕をあげ「指導の構築」を研究の中心として、熱のこもった研究が開かれました。幼稚園部会も、二つの授業二つの発表があつて、幼児の造形は「材料との新鮮なたわむれをとおして、無意識の活動を意識的な方向へ発展させる」指導に論点が集まり「遊びから造形へ」の道すじや「折り紙による造形」の見直し木工「技術の指導」など、子どもの発達にあつた教材の組み立て、授業の経験をだしあつて意義深く話しあわれました。

この二日間は観光などの楽しみを除いた、厳しい研究でしたが、この時程、もっと幼稚園教諭の組織だった研究の集りを欲しいと思つたことはありませんでした。そして、限られた人の発言でなく多くの人が発言しあい、日常の学習や研究が交流できる機会が、もっとあるとよいのではないかと思うのです。

〈札幌第一幼〉

#### 四 特設公開学習

小一	幼稚園	学年
デザイン	絵画	領域
どうぶつ	汽車ののって	題
の親子	うごくのりもの	材
佐藤 嘉子 (苫小牧東小)	日野 常子 (苫小牧市立幼稚園) 藤波 明子 (いずみ幼稚園)	授業者

	中学校			
高校	三年	二年	一年	B
中村 矢一 (札幌月寒高)	三谷 哲司 (札幌教大附属中)	太田 達雄 (札幌手稲中)	齋藤 洪人 (札幌幌東中)	小山田 武 (札幌柏木小)
土岐 禎次 (札幌北高)	森 健 (札幌日章中) 片桐 勉 (苫小牧啓北中)	齋木 杲一 (札幌伏見中) 江川 佳徳 (苫小牧和光中) 坊坂 博 (苫小牧弥生中)	吉田 広仕 (札幌美香保中) 原田 省吾 (苫小牧東中)	佐藤吉五郎 (札幌幌南小)

#### 共通意識にたつて

片桐 勉

指導の構築、教材群とは現場実践の中でどうとらえて行くのか……それも回を重ねる全体研修でみんながチョークで手を真白にし誰かが図式すればそれに書き加えるなど口角あわを飛ばす風景が随所に展開されやがて共通理解が個々のものとなったと思うし更に連盟の研究部との交流も大きな力となった。大会後の反省会は熱気をおび日頃あまり語らないK君は慎慮をフツケ俺の授業の表面しか見ないで勝手な事いつてやがった……U君は俺は最高ホメラレタ……又俺はすっかり上ったじやなど大変なものである。私も上りつぱなしで教材群をどう組み今日の授業に至ったかを明確に説明出来ず参加の先生方には誠にお恥しいしだいで一生忘れ得ぬ思い出となるであらう。これらの失敗成功が私共の今後の実践研究のより大きなステップとなるものと深く信じている。最近では仲間が集り盃の往復がはげしくなると、もう一回大会をもつてくるべなどと大きな事をいう奴が出てくる仕末である。

苫小牧啓北中

小一	版画	紙はんが 足のたくさんある虫	内湯 光尚 (苦小牧若草小) 中村真知子 (苦小牧大成小)
小二	デザイン 描画	虫のえんそく お話のえ	船着 昭弘 (苦小牧東小) 金子 京子 (苦小牧東小)
小三	描画	お話のえ おもしろい魚	清野 恒夫 (苦小牧緑小) 岡崎 光輝 (苦小牧大成小)
小四	デザイン 描画	身につけるかざり 港	和田 弘 (苦小牧東小) 千葉 哲 (苦小牧西小)
小五	ちようそ 描画	牛の頭 工場とそのまわり	小岩 俊 (苦小牧大成小) 長沢 晃 (苦小牧西小)
小六	デザイン	楽しいちようちん	鈴木 誠治 (苦小牧東小)
中一	デザイン 描画	樹木のポスター 想像による世界	福井 宏 (苦小牧東中) 坂東 軍治 (苦小牧光洋中)
中二	ちようそ デザイン	頭部直づけ 前庭のレイアウト	川畑 盛邦 (苦小牧和光中) 沼田 卓 (苦小牧弥生中)
中三	版画	港のようす (共同制作)	三上 保 (苦小牧啓北中)

## 築城のこと

船着 昭弘

第十八回苦小牧大会に参加した方なら、会場校々庭にあったお城をご存じであろう。

老朽化したブロック造りの石炭小屋が解体宣言を受けた時、図工教師が黙ってみのがすはずがない。遠藤未満、池本良三の両氏もこ多分にもれずこれに目をつけたのである。

「Mコンクリート」と勝手に名づけた某喫茶店での数回にわたる打ち合わせ?の結果、お城にすることに決定。それからというもの、絵筆をもつ手に大ハンマー、スコップと奮戦かくてあのとんがり帽子のかわいいお城となり、大会にはなをそえたのである。

完成祝いに城内で蒙古料理研究会をとの企画もあったが、いつのまにか赤ちようちんのもとで終わっていた。

タンポポの山と名づけた築山のあるこの城下で、城主である子どもたちが喜々と絵をかき、遊ぶ姿をみるにつけ、図工教師の創造力と行動力の大切さを思い知らされたのである。

苦小牧東小

## 五 運営にあたって

苦小牧大会の前年に追分小より会場校に転勤し、大会事務局の重任をおおせつかり、その八月に訪欧美術教育調査団として遠藤末満先生と共にヨーロッパを廻って来るというあわただしさでした。その時の調査団の団長が森桂一先生でしたが、たまたまウィーンのレストランで会食をしたとき僕がそのバンドに飛び入りをして二時間余り彼らと共に演奏したところ、森先生がとても感激されて、それ以後何かと格別のお世話を下さいました。その中で僕たちの大会のお話をし先生に講師として来ていただければと話しましたところ先生は北海道に知己も多く、また何度も来道され、とても北海道を気に入っているのでぜひ行きましようかと快く引き受けて下さいました。それがバチカン宮殿の前の石段に腰かけての話でした。

大会の体制づくりも出来ていないうちに、しかも異国の空の下で講師が決ったことなど森先生のすばらしい講演と共に忘れられない思い出の一つとなっています。

苦小牧東小・池本良三

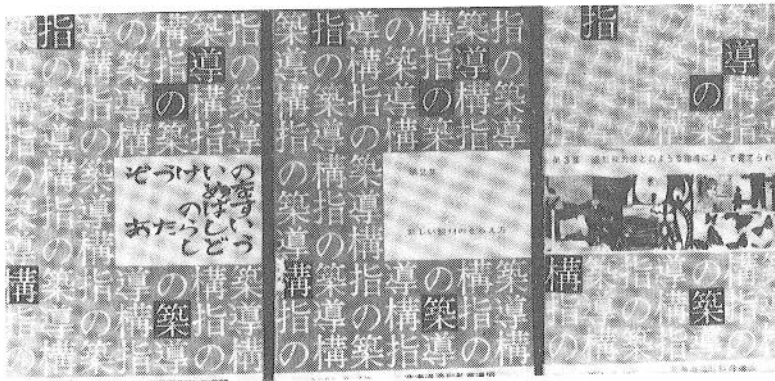
## 指導の構築に関する研究物

- 第1集 100頁〈第17回函館大会〉
- 第2集 100頁〈第18回苦小牧大会〉
- 第3集 200頁〈第19回札幌大会〉

表だけでわからないところを、実践の裏づけに立って、実践例、写真、指導案などをつけて、各自の発表の形で出したもの。

しかし、具体的になったことによって、こんどは全体がみえないという内部批判があった。

まことに歴史はくりかえすものようである。



## 造形連盟と私

藤川 叢 三

全道造形教育大会には、以前戸坂太郎先生や寺井信一先生がいらした頃よく一諸に連れ行って下さいまして、現場の先生方が一生懸命研究し、悩み、討論している様子を見させて頂きました。

子供の頃からの自分の歩んで来た世界でしか考えられなかった私にとっては、時代が変わったと云うことがしみみ考えさせられ、少し離れて自分を見詰めなければならぬという心構えを得たことは事実でした。それだけに現場の先生方の苦しみや御苦労が伝わって来るのです。

昭和四十年稚内大会で何か話をして欲しいとの依頼を受けました。その時二年間のイタリアでの彫刻の勉強の中で、自分の作りたいと思う物を作る喜びを得た所で、私の心は脹



らんでおりましたし、若い臆面のなさも手伝って承諾し、とりとめないイタリアでの話を致しました。大会で話をしたというさういふこともりも、全道造形教育大会が私に掛ける替えない重大なものを残してくれたことに何時も感謝しています。それは、全道造形教育大会が全国と一諸になって、中島スポーツセンターで行われた時、講師として来札した

今泉篤男先生のお話を初めて聞くことが出来たことでした。その示唆に富むお話に感動しました。

戸坂先生に紹介していただき、以来今日まで、お見守り下され、お導きいただきました。それは私にとりまして本当に貴重な充実した年月でした。

今も作る喜びに心が脹らんで行く時、ふと先生への感謝が心を充たしてゆきます。そうして思うのです。「重大な年代を導き育ててゆかれる先生方、どうぞ元気で頑張ってください。」と。

〈顧問・道札幌教大〉

## 高知大会

橋本 富

時、あたかも明治百年、「龍馬がゆく」の土佐アームに併せて開かれた、第二十一回全道造形教育高知大会は、参会者三千人という、この大会はじめて以来の盛会であった。

女の人のアナウンスで、歌と音楽をとりまぜて進行する演出のうまさ、かつての創美の大会のような親しみと、感動をあたえた。

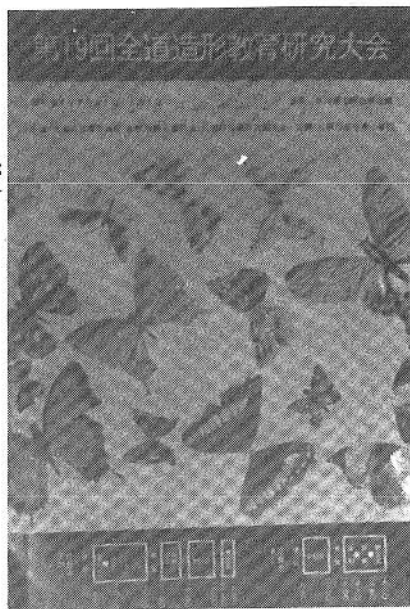
特に、初日の郷土芸能の多彩であったこと、人が親切で宿がよかつたこと、料理のうまかつたことなど、今でも、そのま、目に浮んでくる。「ゆたかな感情と、たくましく表現力を育てよう」という主題で討議されたが、全国一色にパタン化した児童の作品をながめながら、一体自主的で個性豊かな人間活動のできる日は、いつのことかと考えさせられることが多かった。

大変な人と、うだるような暑さの中で、くりひろげられた、造形の祭は、ともかく、美事な演出であった。もう一度、ゆっくり行ってみたい土地である。

〈札幌南小〉



第19回 札幌市  
会場校 札幌市中央小学校  
昭和44年7月31日  
8月1日



## 主 題 造形能力はどのような指導によって育てられるか

— オリエンテーションから —

高 橋 栄 吉 〈札幌藻岩小〉

指導の構築は難解であるとの声が、三年來聞かれたので、本大会は構築の節としたいと考えて、一般によくわかるテーマを設定しました。子供に力をつけさせるための構築の結びをするために、各自がどのような意見をもっているか。まず、きこうではないか。

種 市 誠次郎 〈札幌発寒小〉

連盟は、ここ数年來、子どもの幸せにつながる指導の為に題材の組み立てを考えてきました。しかも、それは誰でもできるものであることをめざして、造形能力の体系表、能力表を編成し、教材を吟味し内容を研究してきました。指導の構築は、このような歴史の上になっっていることを自覚してほしい。

辻 悦 平 〈札幌澄川小〉

本大会の研究主題は、指導の構築に関する一応のまとめと、更に今後発展する研究の

足がかりという意味をもって、私たちの数年実施してきた研究の中核そのものを明確に打ち出し究明しようとしたものです。

金 井 秀 男 〈札幌中央小〉

ひとつの授業には、多くのねらいが、からみあって存在するのですが、それを大きな主軸になる目標によってくみだして、前後の流れを強靱にするときこそ、授業は本物になると考えます。この考えにたち、この考えをはつきりと目に見えるように提示することが指導の構築の一步であり、更に、授業の一場面での教授のあり方のみを考えるのではなく、教授の志向性を見ていく研究態度が、指導の構築の考えでは必要となります。でなければ、教授ということも、自分に返して役立て得ないからです。指導の構築は、たんなる指導技術ではなく、指導そのものへの哲学性を求められているといわねばなりません。

荒 木 愛 子 〈札幌児童画研究所〉

最も重要なことは、子どもの精神解放を基盤とした教師の明確な意図のある指導でありました。その為には幼児の精神解放の場面をはつきり捉え、その上に指導の構築をすべきです。

遠 藤 久 男 〈札幌美香保小〉

低学年の段階をふまえながら、描画では主題条件（話）の設定と空想や創造的学習の關係、デザインではデザインとの関連。工作では技法についてどの程度要求できるのか試みていきたい。

森 川 昭 夫 〈札幌付属小〉

三年は最もヤンチャな時代であるが、また体を通して何かを確かめようとしている時期でもある。四人の公開授業を通して、子どもの目がより確かに、創意くふうがより豊かに広げられていく姿をこらんだきたい。

札幌大会  
中央小学校



佐藤 圭（札幌東札幌小）  
子どもが主体的に表現できるのは、教師と子どもの一対一の中からは育たないで、子ども達のかかわりあいの中から生まれるものではないでしょうか。

佐藤 吉五郎（札幌南小）  
年指導計画のための条件

①領域主題のかたよりを正す。

②題材のとり組み方の新しい方向づけ（見方考え方）

③材料用具の豊かな体験

④技法の多様性を経験させるためのもの、  
この上で指導がくみだてられなくてはならない。

吉田 広 仕（札幌美香保小）

指導の大事な過程として、子どもが題材を自分のものとして捉え、具体的な表現活動と結びつける段階、即ち発想過程がある。教材の選択は市のカリキュラムと新指導要領のねらいを基にしている。

中村 矢一（札幌月寒高）  
一 高校教育の多様化に伴う、創造的人間の

育成

二 創作活動の伸展（実践と理論）

三 系統性に伴う高校美術工芸科の指導構築

小山田 武（根室標津中）

造形教育の研究の姿勢を確立し、研究を密度の高いものにするため、仲間づくりの運動を各地区毎に地区の実態にそって具体的に展開しよう。

滝村 虎雄（渡島長万部中）

造形能力を造形的な創造表現力と抑えるとき、考えるところと、育てるところとをどう融合すべきか？

また、創造へのイマジネーションを大切に  
どう形象化するか。  
生きて働く、造形教育を育てたい。

今野 正治（旭川明星中）

旭川市の研究の今後の課題は、札幌大会の成果にたち、連盟の組織の強化とかかわりを持ちながら、指導の構築の内容を吟味し、批判し、高めていく時にこそ、地方での大会の在り方が一層はつきりする。



## 造形大会の '60年代を閉じる

金井秀男

不思議なことなのか、それとも有難たいことなのか、非常に複雑な心境が、この十年間大会があると、持ちつづけるのは、どうしたということだろう。

というのも、この十年間、私は、直接、関

接と大会に関係していることである。ある人はまるで大会屋だなんて、あつ口をつくものもあるし、ご苦労さんとねぎらってくれる人もいる。とにかく、私が求むると求めざるにかかわらず、大会が私におおいかぶさるのだから困るというものだ。まるで呼び屋である。

元来、私は、人のいいところがあつて、他の人が困っているのを見ると、すぐに「いいよ、やってやるから」といつてしまうものですから。身のほども知らずに大役をひきうけてしまう結果となる。

札幌の大会もそうだ。新しい学校で、しかも、その二日前には、同じ学校で全道大会がひらかれたばかりのところ、一息もつく間もなく大会をひらいたのだ。

あの日は、本当にあつた夏の日だった。大会の中味は、ここ三年間大会を支配したことば、指導の構築、のひとつのピリドをうつため、連盟としては本部常任委員と札幌市教育研究協議会小学校工部の委員の方々に協力を願って全力投球をした大会であった。

私の考えに即して、私の授業、私のこれまでの研究の発表を強引にも二日間、個人的魅力で押通した会だった。まったく、型破りと

いえば型破り、開会式の演出から閉会式まで、筋がないようできて、きちんとした様になっているといった不思議な大会だった。

アイスコーヒーをのみながら、考えついたことは、それは、まったく伊東事務局長と私だけの秘密の呪文「指導の構築」。この法力は大きな波紋を造形界に投げつけたことはたしかであった。暑い夏の日になるといつも、私はあの大会と一語に「指導の構築」といった永遠の課題に向って私を問うのである。

(札幌・幌西小)

## 第19回札幌大会を思う

斎藤 洪 人

札幌の中学校部会が、全道大会でこんなにも組織的に理論研究、実践研究を進めたことはなかったと思う。美術科の週時間数の削減以来、教科性の確立、教科の構造化を旗印にして、調和のとれた人間形成へとせまってきた私どもにとって、研究の現状を全道の先生がたに公開して批判を得る機会が突如到来したことは、有難いことではあったが、反面これは大へん過重な負担を負うことでもあった。

この二、三年に各学校で実践された膨大な資料の整理を約一ヶ月の間に終えて、一つの体形をつくり上げなければならぬからであった。坂田、森、三谷、齋木、吉田、新谷といった面々が連日、もりそばを活動源にしてこの整理にあたっていた。発表資料の検討に新鋭のクイックコピー機も登場して香西技師の活躍のあったのもこの頃である。

しかし、こうしてまとめられた発表資料はいま貴重な仮説として札幌の各学校の実践に大いに役立っている。直接大会に関係した部員三十九名、ほんとうにごくろうさまでした。

(札幌・幌東中)



## 熱意とチームワーク

森 健

私たちは札幌教研という共同研究の場の中で実践研究をすゝめてきたので、札幌大会ではこれまでの研究内容をまとめ年度の中間発表という形で紹介し、今後の研究の方向をたしかなものにしていこうと考え、大会の準備をすゝめた。

札幌市の美術の先生方が全員による共同研究の組織を通して、短い日程のうちに多岐にわたる内容を研究し整理してゆこうとするのであるから苦勞もまた大へんのものであった。発表が、単に個人のアイデアや実践によるものとならないようにという事であるから、それぞれの委員会や研究分担グループは連日にわたって会合が持たれた。特に「仮説の検討」「指導案の検討、予備授業、再構成」や指導の背景となる「作品資料」「展示パネル」づくりなど、今考えてみても、見事というほかなない熱心さとチームワークであった。当日のすばらしい授業や発表もそのかげに制のたまものであった。

(札幌・中島中)

## 三六五歩のマーチとともに

山田 紀

百日百歩 千日千歩

まゝになる日も ならぬ日も

人生は ワンツウ パンチ

明日の明日は また明日

あなたは いつも

新しい希望を 抱いている (星野哲郎詩)

この歌にもあるように、才十九回大会は、明日の造形教育に希望を託した大会であったと思う。その熱気は、二日間、放送室にこもりきりっの私にも十分感じられた。

最終日、会場に日ぐれの街のほこりの匂いのする頃、恒例のパーターが催され、なごやかな雰囲気の中に話がはずんだ。宴も終わりに近づき、伊東事務局長の発案になる「三六五歩のマーチ」が流れた。参会者全員が手をつなぎ、ひとつの輪となり、才十九回大会の成功を祝すとともに、才二十回大会への一歩をふみだしたのである。

(札幌・南小)

公開授業者学習一覧

学年・領域	題 材	授 業 者〈校 名〉
幼稚園・絵 画 幼稚園・製 作	私と子どもの対話 王様になったら	芝木 捷子〈中の島幼〉 佐藤 綾子〈手稲幼〉
小 1・絵 画 小 1・工 作	ふしぎな木 かみのいえ	高畑 睦子〈真駒内曙小〉 伊藤 恵〈羊丘小〉
小 2・絵 画 小 2・デザイン	おうまにのって 水ぞくかん	遠藤 久男〈美香保小〉 長津 喜代〈創成小〉
小 3・絵 画 小 3・デザイン 小 3・彫 塑 小 3・工 作	ともだちをかこう ぼくとわたしのつく ったお話 なにかしている動物 坂をカチカチおりする 動物	側瀬 宇太郎〈平岸小〉 嶋山 恵子〈幌西小〉 成田 一夫〈豊平小〉 森川 昭夫〈附属小〉
小 4・絵 画 小 4・版 画 小 4・絵 画	ちいさなおうち 学校のこと 高さをあらわそう	金井 秀男〈中央小〉 松島 輝男〈幌西小〉 佐藤 圭〈東札幌小〉
小 5・デザイン 小 5・彫 塑	夢の家族写真 友 だ ち	佐々木理温〈藻岩小〉 伊藤 英世〈附属小〉
小 6・工 作 小 6・絵 画	小さいベッドの家 楽器をもつ友だち	佐藤吉五郎〈幌南小〉 坂口 清一〈平岸小〉
中 1・絵・外 中 1・絵・構 中 1・彫・写	花の表現 物語の表現 (単色木版) 顔のある壺 (テラコッタ)	奥野 郁男〈向陵中〉 武田 郁代〈信濃中〉 多田 紘一〈北栄中〉
中 2・彫・構 中 2・デザイン 〈立体〉	新しい塊の表現 (石膏じかづけ) 入れもののデザイン	石岡 博昭〈啓明中〉 加藤五十和〈札幌中〉
中 3・デザイン 〈平面〉	童話の表現 (アニメーション)	菅原 稜三〈平岸中〉
高・選択 〈4校・1室〉	平 面 構 成 版 画 立 体 構 成 基 礎 構 成	中村 矢一〈月寒高〉 高橋 棋六〈開成高〉 寺井 孜〈南 高〉 土岐 禎次〈北 高〉

## 百花らん漫

辻 悦平

造形連盟には、よい意味のさむらいが多い。研究もユニークで、もくもくとした実践もさることながら、夜の活躍も又すばらしい。

よく飲み、歌い、おどり、そして語る。

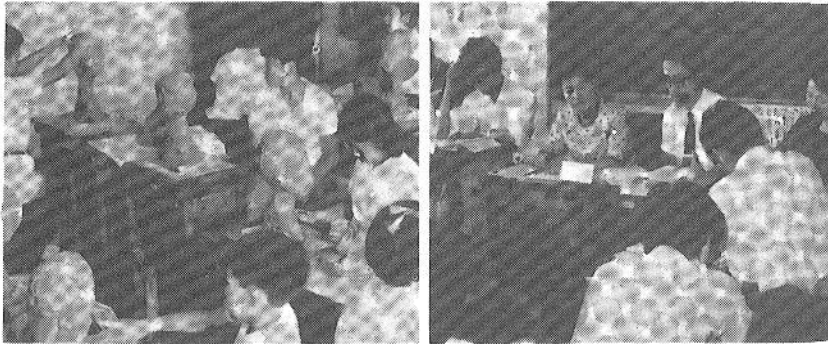
その構造図は、さながら百花らん漫の様相がある。

こうして、ぶつかり合い、語り合うところにそれぞれの個性を充分に発揮した、はだかのふれ合いがあり、互にそれらを参考とした協力的指導体系が生まれる。

多くのバスを何の苦もなく動員し、又研究紀要完成のため印刷所にとまりこみ、何知らぬ顔をしている連盟幹部の心にくさ……………

二十年誌の原稿として第十九回大会のエピソードを依頼されたが、私としては一人一人の名をあげてそのことを述べるよりも、すばらしいこれらのことについて一言ふれたかったのである。

(札幌・澄川小)



## 全国高等学校代表者

### 会議に出席して

土岐 禎次

毎年一回開かれる全国の都道府県高等学校代表者会議が四十三年十一月六・七の二日間京都で開催されました。高校指導要領改訂案発表を目前に全国から百数十名の参加でこの会議始まって以来の熱の入ったものでした。

才一日は洛北の景勝地、宝池のほとりに建てられた国立京都国際会議場。会長挨拶、全中連からのメッセージ等々をもって開幕、本部事務局からのぼう大な提案事項を中心に精力的に協議が続けられました。才二日は会場を精華大学に移動、文部省教育課程教科調査員の倉田三郎氏より指導要領改訂についてのなまなましい現況報告があった。その後種々協議のうえ重要事項をすべて議決し、たそがれの洛北をあとにしました。

重要議決内容は、一・教育課程運動の進めかた。(カンパ・陳情) 二・改訂にあたっての意見集積。三・一校一美術工芸教諭運動。四・ブロック組織の充実。五・施設・設備の充実等でした。

(札幌・北高)

分 科 会 一 覧

小 3		小 2 年	小 1 年	幼 稚 園	種 別
B	A				司 会 者
笠原 金一(夕張・楓小) 鷲尾 徹(札幌・東札幌小)	荒木 健一(小樽・花園小) 長野 昭一(札幌・北園小) 一戸 信雄(赤平・赤間小) 笹原 亮(札幌・東札幌小)	鈴木 利彦(函館・弥生小) 種市誠次郎(札幌・発寒小) 秋田 武蔵(札幌・発寒西小)	後藤 庸也(札幌・円山小)	野崎 信雄(登別登別小) 荒木 愛子(札幌・児童研)	小山田 武(根室・標津中) 芝木 マサ(札幌・中ノ島幼)
成田 一男(札幌・豊平小) 橋場 昌三(留萌・留萌小)	側瀬宇太郎(札幌・平岸小) 藤井 正(石狩・当別小) 大沢真理子(根室・標津小)	遠藤 久男(札幌・美香保小) 手代木 淳(函館・付属小) 船着 昭弘(苫小牧・東小) 原 良三(名寄・名寄小)	高畑 睦子(札幌・真駒内曙小) 伊藤 恵(札幌・羊丘小)	芝木 捷子(札幌・中ノ島幼)	発 表 者
町田 博正(札幌・曙小) 蟋子 信也(札幌・中ノ島小)	白井 罔毅(札幌・大通小) 三浦 哲(札幌・南小) 坂本 昌三(札幌・和光小)	伊勢谷弘志(札幌・苗穂小) 中山きく代(札幌・南小) 花田 正雄(札幌・藤の沢小)	菅原 豊子(札幌・曙小) 村谷 利一(札幌・豊園小) 山崎 清(札幌・上白石小)	伊藤 澄子(札幌・中央幼) 金内 信子(札幌・中ノ島幼) 梶原 慈子(札幌・中ノ島幼)	記 録 者



小 6 年		小 5 年		小 4 年			
B	A	B	A	C	B	A	C
岩間 昇 旭川・永山東小 井内 利道 札幌・創成小	上野 義之 白高・平取小 岡田 義巳 札幌・月寒東小	神田 耕治 下川・一の橋小 藤原 明 赤平・赤平小	久我 宏 稚内・中央小 片岡 和悟 札幌・北小	高橋 元春 帯広・稲田小 辻 悦平 札幌・登川小	菅原 隆治 北見・佐呂間幌若小 佐々木 忠 羽幌・旭ヶ丘小	池本 良三 舎小牧・東小 西 弘治 釧路・城山小	清野 満敏 渡島・大中山小 諏訪 英雄 室蘭・知利別小
坂口 清一 札幌・平岸小	佐藤吉五郎 札幌・幌南小	伊藤 英世 札幌・付属小 宮川 国夫 夕張・達幌小	佐々木理温 札幌・藻岩小 成瀬 登 帯広・柏小	佐藤 圭 札幌・東札幌小	松島 輝男 札幌・幌西小	金井 秀男 札幌・中央小	森川 昭夫 札幌・付属小 三枝 祐喜 釧路・寿小
花田 晃陳 札幌・澄川小 若狭 忠平 札幌・発寒小	高橋 一美 札幌・白楊小 阿部 保夫 札幌・発寒小	国分 照子 札幌・東札小 豊口 永 札幌・北郷小	日高 晴美 札幌・東札幌小 清水 健 札幌・鉄北小	出間 すず 札幌・豊園小 山本金次郎 札幌・発寒西小	小川 晃平 札幌・豊平小 北倉 武 札幌・北園小	堀 忠夫 札幌・羊丘小 池田 修 札幌・八軒小	枋内 信子 札幌・山の手小 吉田 俊夫 札幌・発寒小

高 校	中		学	
	デ ザ イ ン	彫 塑	絵 画	
田村 宏〈岩見沢・岩見沢女子高〉 笠原 康正〈留萌・留萌高〉 渡辺 宏〈小樽・工業高〉 木下 勘二〈夕張・南高〉	齋木 杲一〈札幌・伏見中〉 尾川 和彦〈後志・俱知安中〉 横田 勇吉〈紋別・汐見中〉	中谷 有逸〈岩見沢・光陵中〉 田村 幸夫〈深川・一己中〉 佐久間昭夫〈夕張・継立中〉 酒井 盛行〈石狩・浜益中〉 新谷 純輔〈札幌・発寒中〉	齋藤 洪人〈札幌・幌東中〉 高野 政志〈函館・船見中〉 加地 保良〈十勝・本別中〉 大谷 勝美〈上川・美瑛置桦牛中〉	
中村 矢一〈札幌・月寒高〉 高橋 棋六〈札幌・開成高〉 寺井 孜〈札幌・南高〉 土岐 禎次〈札幌・北高〉	坂田 武夫〈札幌・八条中〉 宮川 美樹〈岩見沢・東光中〉 松岡 義和〈網走・小清水中〉 阿部 将〈釧路・緑陵中〉	小室 吏介勝・上士幌中 三谷 哲司〈札幌・付属中〉 萩原 常良〈旭川・常盤中〉	小松 吉隆〈名寄・東中〉 佐久間恭子〈室蘭・成徳中〉 森 健〈札幌・中島中〉 鈴木 吾郎〈石狩・恵庭中〉	
笠原 康正〈留萌・留萌高〉 渡辺 宏〈小樽・工業高〉	香取 正人〈札幌・平岸中〉 坪野 秀子〈札幌・北陽中〉	齋藤 征夫〈札幌・中島中〉 田中三美枝〈札幌・石山中〉	角力山 旭〈札幌・日章中〉 高村 悦子〈札幌・真駒内中〉	

■フレッシュマン部会

司会

泉

秀雄

旭川・朝日小

中川大三

札幌・羊丘小

木村晴一

北見・東陵中

長谷川伝

札幌・本郷小

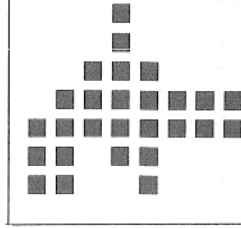
加藤 彬

渡島・榎法華小

越田一喜

函館・金堀小

## 地区近況



### ■ 桧 山 地 区 ■

津村 彰 広

北海道は地域的にみて、実に広いことをいつも感じさせられる。桧山から札幌に出るのに片道一日を要する。これは桧山ばかりではないのであるが、そんな中にあつて造形教育連盟という組織が年々に充実して来ようように感じて心強い。このことは毎年開催されている全道大会に出席した先生方の一致した感じ方です。私達はそんなことから桧山の研究の組織を一層発展させるために連盟に加入いたしました。

私達はいま、子供たちに小中学校の造形教

育を通して純粋な目でみ、感じ、考える心を育てたいと念願して、年度の計画をもっています。連盟では各地区の実状を充分把握していることと思いますが、組織強化の面から積極的に研究進展のための具体化を図ってほしいものです。

と、同時に設立二十年にして連盟のはっきりとした性格をうち出して一層内容を充実することを希うものです。

〈北松山中学校〉

### ■ 室 蘭 地 区 ■

石 崎 義 政

一室蘭市内の学校を訪問して図工の展示物を見て、これは困ったものだと思われるような学校はまず無い。地方都市としては指導者の層が厚くたのもしいことだと思っている。

最近特にデザインのような作品が目につく。中学のレタリングや小学校低学年の作品がおそらくいろいろい。

描画についても全市的に大きな流れの変化は感じられる。若い世代の抬頭のあらわれであらう。

\*

\*

全市一本の「室蘭市教育研究会」図工部の

今年度のリーダーは部長武田貢（北辰中）副部长石丸雅晟（東園小）高城敬二（東中）で、その活躍が期待される。研究テーマは「表現力をのばすための授業過程の実践研究」で観察表現のとらえ方を問題としており、昨年は『人物』、今年は『風景』について研究することになっている。研究会の会場も絵鞆小学校と決意しており、小中一本となつて研究が進められる等である。

なお全市の造形展も十一月を予定しており描画、デザインの高密度の作品の展示を期待している。

〈室蘭市教委教育次長〉

### ■ 石 狩 地 区 ■

三 上 晤

三十七年秋、お前（連盟）が生まれた、それは肌寒い教室の一隅で、

それから、とても長かったよな。つかみどころ（定着性）のない会員（小学校）。くる年もくる年も赤字、いく度こんな馬鹿なこと、なにも俺がやらなくても……

だがお前が本当にあた、かく向えられてい

か？

一人一人は弱いんだ、だから組織が団結が必要なんだ。それには美術馬鹿が必要なんだ。利口者は沢山いる、馬鹿になれ、俺は自分にそう言いよかせ、お前とともに歩みよつづけてきたよな。

今、二本の脚(小・中)でしつかり、確實にあるき出したお前。

俺の役目は終わった。たくましく育てよ！

\*

\*

石狩の連盟はガッチリ、スクラムを組んで行事も定着化し、研究も二ヶ年単位で見直しを立て地道であるが着々とその成果を上げています。

連盟の次への飛躍を考えたときに、自分の役は終わった。身を引く時期だと判断し、現役を引かしてもらいました。しかし長い間苦業をとともにしたものでいさ、か感傷気味のところになんでも書けと言われ、連盟と個人が混同した文になりました。乞ご寛恕

〈厚田厚田小〉

佐賀井 勇

製紙会社からはき出す異様なにおいと、太平洋と日本海を往復する季節風の強風の中で、

造形教育を愛する仲間二十数名が、手を取り励げましあつて次のようなことを毎年行なっています。

◎親子の写生会 野外展

もう七年目年々親の参加者も多くなり、去年は児童六百余、親百余の盛大なものでした。市民全員が絵を染しむ運動と親の児童画に対する認識を深めるのに役立っています。

作品は野外展を行い、一般に公開します。

◎造形教室の開催

毎週日曜日(最終日曜日をのぞく)会員の指導による児童の造形教室開催してから八年目になります。これは市の公民館と共催ですが、学校のカリに拘束されることもないのでそれぞれ会員の持ちよつた新しいアイデアを生かし実験してみます。さまざまな題材や技法が飛び出しお互いに学ぶところが多いです。

◎児童生徒の作品展

市民文化祭の作品展(市と共催)は十二年目になります。一昨年までは公募していましたが昨年より各学校割当制(出品枚数)に各年から厳選された五百点程の作品を展示します。この中で絵の見方や子供の実態を話合います。その他母の日、父の日の作品展もします。今年五月十日から二十日まで公民館会場にして三百点展示しました。

◎実技講習会の開催

デッサン会を開いてもう六年目です。腕があがつてきたと自画白賛、その他要望により各種の実技講習会を開催します。

私達は財力がないので行事は市教委石狩造形連盟と共催研究は、石狩教育研究会、江別教育研究会と表裏一体の形でうごいている現況です。

〈江別美原小〉

## ■ 札幌地区 ■

高校のこと

中村 矢一

第十一回滝川大会に於て伊藤正先生(当時札幌東高校)の熱心な研究成果を礎にしてから九年目、当時を想うに、丁度高校教育課程改訂の折で、単位の問題、カリキュラム編成上の問題に参加者が集り熱心に討論した事です。それが現在の教科のあり方になっているのが現実なのです。

それから幾多の現場での問題点をとりあげ中でも幼小中高と云う系統性の問題と想います。まだ完全に熟していないが教師自らの手

で美術工芸教育と云う問題に立向った事に意義がみいだされます。美術工芸教育者としての自覚のもとに、多数の参加者、会員が誕生しました。四八年度からの改訂に対する色々な問題も現場を通して生れ、それぞれの意見が集約出来る現状になり、この高校部が全国高校美術工芸研究会と結びつき、高美研<sup>46</sup>四までの機関紙の発行にまで成長しました。現場で研究成果が学生全道展、及び高校道展の催に現実に結びつき、更に三年前から、地区高文連が全道組織を持ち、全道くまなく若人の祭典として第一回室蘭、第二回帯広、第三回岩見沢と云う場所を会場に、展覧会が催れ第四回函館に於ても着々と計画が進んでいる様に聞いています。この様になった事も日頃の現場教師、及び会員の皆様御努力と信じています。これらが北海道文化向上の礎にもつながるものと思えます。残される問題として、情報化時代の人間性、多様化にもなう人間性、科学時代に於ける創造及人間性、更に美術工芸教科の学習編成上の位置づけ、その他色々ありますが失なわれゆく人間の情愛の中に明るい希望と目標を一人々の高校生に与えるべく美術工芸教育を通じ現場教師の学習の場になるように期待したいと考えます。

〈札幌月寒高校〉

## ■ 後 志 地 区 ■

記念誌によせて

鈴 木 喜 義

北海道の先生方に親しまれ、それを育て、底辺を駆け頂点を高めている連盟の二十周年記念、心からお喜びを申しあげ、今後一層のご発展をお祈りします。

後志においても造形連盟の活動が先輩諸公のおかげで難しい歴史を持っておりましたが、後志教育研究会の発足となつて、研究会の図工美術教育専門部となつて実践研究を進めてから満四年、それなりに成果をあげてはいたのではあるが、連盟との連絡は充分とは云えなかつたようです。

それに気づく何人かが主唱し、図美部は図美部として進めながら、別つに組織を持ちより広い研究を進めようと、連盟の後志支部をつくることにつとめ、準備し終り近く結成総会を開くことになりました。

また、良い連けいのもので、研究の推進ができることを楽しみにしております。

この頃思うことから

研究会で、エキスパートが熱気をおびた討論をしている時、若い方が真剣な顔で話を中断させての発言、「私は今朝三時から雪道に苦勞してでてきたのです。今の話を聞いていて何んのかかさっぱりわからない。私は明日すぐ役立つことを教しえてもらいたくて来たのです。……」。今から三年前の鞭で打たれたような、水をかけられたような印象が今も忘れられないであります。

研究が進めば進むほど格差のするのは当然であろうが、一般化されたと思われることにも抵抗を感じる人のいることも事実であろうと思われる。

この穴をどううめるか、具体的な実践例を多くやさしいことは話し合うことも必要ではなからうか。

研究会そのものを特殊なものとしては底辺がひろがらない。指導的地位の人の討議は別つな席で徹底的に時間を惜しみなくしてはどうか。

〈仁木・仁木小〉

## ■ 小樽 地 区 ■

### 小樽の歲月

樋口 忠次郎

今田敬一博士(大地社全員)の北海道美術史出版記念会で、図らずも連盟の野村元委員長十八番、白面相は楽しく、回顧のたいまつが赤あかと燃えた。且つ同席の和田、隣席の伊東両校長とも酒杯を交わした時、私の大地社会友前後四十年の画歴をしらないらしい両氏は、連盟での側面を熟知しての事だし、昨冬は野村氏と友情あつた其後の或るお話で、大へん感動していたからこの夜の印象は実になつかしかった。十年にも筆をとった身として、また二十年史に乞われる事は光栄の至りであり、感激も深く、益々連盟の多祥を祈つてやまない。私は勇退後五年、其後、兩三度小樽の図工美術部の助言者として迎えられ、又退職記念会を井田俊末、新覚吉郎、村三郎、辻謹三らが主唱して紹かれ、野村氏も来会された、勿体ないと思つている。子どもの目前の写生会も全市図工学童展も創設以来続いているし、十年

前是も新覚副部長に任せられた教員展も山岸画廊をスタートして続いている。本当によく継いで頂いた事と感討に堪えない。余市大会ではマンモス部会を中山啓校長と司会し、閉会の辞は君にと小樽側の副の私が出た。野村委員長は立派だった。在職中二十年史の期間にカリキラム二冊を出し(中山・北村・荒木、辻・川本・樋口)、誠実と研究肌の中山氏が地区委員支部長、そして副委員長に、新鋭の実力者荒木健一氏が衣鉢をついでいる。ただ若松六弥氏の長逝が哀しい。  
《地方美術協会々員》

## ■ 岩見沢 地 区 ■

### 想い出の人びと

但 野 栄 一

創立以来二十年の才月を数え、戦後直ちに連盟発足に御苦労された方々に、深く感謝申し上げます。

創立総会に伊東将夫先生(当時三笠)と共に参加して以来、岩見沢を中心に南空知の美術教育のため連盟会員として御苦労された方々をあげてみたい。渡辺恵(東高校)、谷岡巖

中村幸元、渡辺直吉、氏家利夫(現小樽)、但野栄一(以上岩見沢)、伊東将夫(現札幌)、大和屋巖(現東京)、竹内正(当時栗山)の諸先生と、転入された、小沼正三、三上悟(現千歳)先生を想い出される。その後、岩見沢学大に、藤野高常、砂田友治両先生を札幌よりお迎えし、小、中、高、大一本の研究体制が生れ、和氣あいあいの中に、美術教育について談じられた。

特に藤野先生は東光中学校の講師をおやりになったり、直接研究授業に参加していただき、直接御指導をうけられることが出来たこと、又先生の御人がらに接する機会の出来たことは想い出の一つである。

現在の中心的活动家の一人、中倉有逸(現光陵中)先生は、版画教育の權威であり、全道的に活躍している。加えて、田村宏(女子高)、野崎嘉男(駒高)、塚本貞男(深中)、宮川美樹、石崎哲男(東光中)、広田忠邦、城岡佑子(美園小)、内田暢一(南小)、坂東弘純(北本町小)、岩井正明(岩小)等の若年群がその推進役をつとめている。

毎年の研修は地味な方だが教育課程、実技研修、子ども写生会等独自の歩みをしているが、教育実践とあわせて市文化連盟の中心の

役割を果たすなど、地域文化にも多大の巧績を評価出来よう。

(岩見沢・北本町小)

## ■ 網 走 地 区 ■

菅 原 隆 治

二十年前、連盟結成の打ち合わせは、海のものとも山のものともつかず、一体、どんな形になるのか全くわからなかったが、出席者の意気は軒昂だった。

第十回の網走大会で、北見勢は反旗をひるがえした形になってしまい、その後、連盟に顔を出す機会を自ら失った。十八年を経過してから、再び、地区委員として出席してみても、その充実ぶりに一驚した。すぐれた実践家や活動家が雲の如く集って来て、その威風に圧倒されたくらいである。

この二十年間の歩みは、人と組織に安定を加えたが、何と云っても、研究の充実ぶりが、戦後の日本の造形教育の大きな推進力となったことである。連盟のように、高い次元の実践と課題を、誰にでも、内懐を開放して公開してくれる研究団体は数少ないと思う。

生々発展する組織というものは、調和と真実に満ちているものである。今の連盟からはハタタリや嘘が感じられない。どの人に接しても、細やかな親愛の情が行届いていて、実に温い。それぞれが実践の闘志でありながら、威張るところが少しもなく、みんな謙虚である。だから人間としても鍛え抜かれた集りと云えよう。

今年成人の連盟が、更にすぐれた研究団体になるために、今後の地方充実に、一役も二役も買ってもらいたいことを切望する。

(佐呂間・幌岩小中)

## ■ 根 室 地 区 ■

川 野 上 彰

全道にひろがる美の追求、仲間力を結集したその成果。第二十回大会の喜び、ほんとうにうれしく思います。先日本棚の整理をしていましたら、ガリ刷りの第一回総会のプリントをみつけたいへんなつかしく思いました。

僻地根室へもかつては、野村・新妻両委員長近くは道東造形セミナーで和田委員長をお迎えしてご指導いただきました。広範囲で

しかも僻地の多い根室管内のこと、当初根室市を中心にわずかな仲間でサークルをつくり連盟に加盟し、はげましあつてきたわけですがだんだん道路の状態がよくなつて管内の美の交流が活発になってきました。各地教委とも造形教育に理解が深く、最近では標津・根室で移動道展が開催されて直接力作に接する機会ももたれ、道展入選者も年毎に数を増していることは喜ばしいことです。国立公園秘境知床から北方領土のノサップ岬まで、自然に恵まれたきびしい風景は仲間の心をゆさぶり制作意欲をもりあげています。

連盟本部の役員の方にもずいぶんご苦勞をおかけして、中央での研究を管内になげかけていただきました。小山田先生をお迎えして志を同じくする者がますます努力しあつて地味ながら造形の道をひらいて、子どもたちの心に迫る教育を貫ぬきたいものと思つています。連盟から講師を招いて研究会を開催することも年中行事の一つとなつてきましたが、いつの日にかぜひ根室で全道大会を開催して会員のみなさんご指導を得たいものと思つております。

感動源や指導の構築、連盟が生みだした造形新語も今や全国的に日常語となつています。

更に新分野を開拓して北海道の造形教育の名を高めるべく第二十回大会を迎えて心を新たにしたいものです。

(根室・羅臼植別小中)

## ■ 十 勝 地 区 ■

加 地 保 良

### と か ち の 造 形 に 思 っ

広大な十勝の地域の中で色々な困難にあい乍ら私たちの造形サークルも十勝の創造開拓を目指し健在に進展の一步をたどり先輩諸氏の労苦と努力とを無駄にすることなくすでに二十年の歴史を迎えるに至りました。これも一重に十勝教育界の先輩各位のご指導とご助力あってこそと感謝の気持ちでいっぱいです。近年は、道連盟の方も全道各地域の教育実践を地についたものにするため、又全道造形教育の高まりと豊かな創造性を育成する為の、子供の可能性を追求するため、いろいろご指導の手を指しのべてくれていることは、中央から離れている私達にとっては、言語に表わ

せぬ大きな力強さを感じるわけです。これからも子供のもつ可能性をのばす教育を大事にし、図工美術教師が歩んでいくためには地味ではあるが少しでも時代の流れにまけず更に深く研鑽をつみ自分の能力や技能を高めた一人一人の子供に幸せをつかませる教育者になりたいものだ。一人一人の子供に明るい灯をともしような教育が創造教育と大きくつながっていくことであると考へ、一時間一時間の授業に熱意を傾けていかなければならない美術教育の果す役割は非常に重要な教育であると考へサークルこそつてその研鑽につとめていきたい。昭和四十六年度全道大会が十勝大会として帯広市図工・美術部会の方々と十勝のサークルとが協議し開催することが決定した。以前の帯広大会からの歴史的流れもあるが、二層充実したものになりたいと考へている。十勝の造形サークルは初代富田鉄雄氏、安達大元氏村上悟氏を顧問として昨年につづいて六月九月十月二月と四回の教師実技研修会

(研修センター)七月学習祭十月授業研究会二月十勝の子供の作品を語る会と研修事業を計画している。又広報活動では十勝の造形発行又十勝造形サークル十年史を編集することを計画している。本年旭川大会では十勝は、で

きるだけ多く参加して勉強させてもらい明年の十勝大会にそなえたい考へである。各地の造形思考が高まることにより全道的な高まりがあるわけだから、何ことも行動的に積極的に事業その他の行事にとり組んでいきたい。

(十勝・本別中)

## ■ 帯 広 地 区 ■

高 橋 元 春

### 次 期 大 会 を 迎 え る に 当 っ て

本年度の旭川大会について、次年度の全道造形大会を帯広でとの話が、突然に持ちあがり、第一候補地として指名された事に対して有難く感じているのかどうか……………

図工美術部員九十余名が、四月と五月の二回の部会を費して、大会を引受けるかどうかの論議をかわした。結果的には、次年度の第二十一回大会を実施する事に決定をみたが、しかし、あまりにも色々問題点が多かったようである。



第一に第九次の帯広大会の反省の上に立つて、開催年度に部員が激減した等の、内部的問題と、大会運営の、多額の経費をまかなう資金確保に、一方ならぬ苦勞したこと。その他お祭りのな面も見受けられた等、きびしい反省が集中した。

研究内容にしてみても、組織的には連盟と各地区が形式的には連っているが、内容的には、各地区の実情もあり一致していないし、さて研究発表だ、研究授業だといつても容易なものではない。

毎年七月末には北海道のどこかで全道大会が開催され、何気なく一人一人が参加しているが、開催地区は二年ごとに大変な苦勞をしているということである。

限られた紙面の中で、小言ばかり並べて恐縮ですが、決定をみた以上はと、早々に準備委員会の組織も終わり仕事を進めています。

更に力強いのは、帯広と十勝が共に手を取り合って共催することができ、前回の第九次にもまして成果があがるものと期待しています。

今後共に各地区のご協力をお願いします。

(帯広・稲田小)

## 帯 広 遠 況

平 塚 義 雄

去る者、日々にくとしかか？ まだまだ、創立以来の各地大会のエピソードは山積して何から先に言つてよいのかネ……和田委員長とは毎回数々の傑作と思ひ出を残して来ましたが、帯広も第九回大会以来鳴りを沈めて居りましたが第二十四回旭川大会を期して第二十一回大会を再び帯広の地にとサークル員八十名に近い人員で準備おさおさおこたりない現状です。〈実際は一年のばすことになる〉

過日野村先生、伊東先生のお二人に帯広ではからずもお会い出来て、雑談の中で高きところから低地に流れる水のたとえの如く、話がまとまった様な気がしてならない。

打てばひびく、何か一脈通ずるものが、過去二十年の年輪の中に育まれて来たのではないかと思われてなりません。

帯広十勝も最近美術人口の激増めざましく、幼稚園から老人大学に至るまで絵画に対する熱意の程が日常の各種美術展を通してうかがわれると思います。

創立二十年記念誌発行に当り、今を去る二十年前、木枯と小雪まじりの寒さの中で札幌附属小屋体の創立総会に思を走せ、一しお、感、新らたにするものであります。

激動七〇年、創立二〇周年に当り今更乍ら温故知新の重大な事を痛感するものであります。うぬぼれず、若さを知り、他を容れることを忘れなければ、必ずや物事は成功に結びつくものだと思ひます。帯広・帯広中学校

## 釧 路 地 区

西 弘 治

釧路市教育界には今二つの大きな研究路線があり、その一つは学校教育研究会でありこれは教科研究を主とした会であり問題別グループも学校行事等にしばられているが、一方今一つの流れを形成するのは、組合が母体となっている自主教育研究会である。

この二つの団体の発生した原因は多様なものであるが、ここにこれを評述する必要もないので省略する。ただし是非書かねばならない事は市内の美術教育も亦この研究路線の対立現象から目をそらしては語る事が出来ないという事である。

連盟の研究方針を方針として当市支部としても研究を推進したいと願うものであるが、例えば移行措置を要する指導要項及び教育課程の研究という事になれば会員のなかには二つの異った団体に属するという事情から、妥協して話し合うという事も出来ず、実際には連盟支部としての機能も十分に発揮出来ないというのが現実である。しかし乍ら右の様な事情は別として、考え方の相違は相違としてそれはそれなりに時間をかければ、同じ教育にある者、やがては統一できるものと信じ、相互の立場を尊重しつつ子供の造形活動を活発にしなければならぬという目的と念願から次の事を協力してやっている。主催者としても団体名は一切出さず運営委員会として実施をしている。

◎釧路市児童展十月絵画展二月版画展、絵画展は三百点、版画点は五百点を集め市内の有名デパートの展示で実施している。

尚右の事情で研究活動は学教研加盟の会員が中心になってやっている。五月三十日第一回集会を持ち次の事を決定した。

- ①研究の統一のため実際の研究交流を図る。そのために地道な呼びかけをする。
- ②会員の親和を図るため秋に写生会をする。

以上オーバーしましたが近況にかえます。報告になっていませんが誌上掲載は別として支部の問題点を考え下さいご諒察下さい。幸甚です。

〈釧路・城山小〉

## ■ 上川地区 ■

大谷 勝美

上川教育研究会中央地区をバックボーンとして一市四町の図工・美術サークルが、それぞれの研究主題を現場実践のなかで確かめようと着々とその成果をあげている。

富良野市は扇山小の牧野先生を中心として継続的に関連のある年度研究主題をもって実績をあげ、東山小の守屋先生、西達布中の小杉先生もまたベテラン振りを発揮して各領域・各題材間の内容の系統性について独自の研究を進めている。

上富良野町・中富良野町は地域性からみても、サークルの交流が盛んで、上富中の佐々木先生、上富小の鈴木先生など幾多の勝れた研究の足跡を残し、中富小の彫塑実践は第十七回大会で全道的に発表されている。

南富良野町では幾寅小の鮫島先生、落合中の渋谷先生の描画・版画の指導のすばらしさを

をあげることができる。

「図工科において、児童の主体性・創造性を育てるための指導はどうあるべきか。(紙工作教材を中心として)」をテーマとして、学校ぐるみで研究実践されている美瑛町明德小図工グループの研修は、武隈校長先生を核として、やがて立派な示唆を上川の教育界に与えることだろう。

最後に、本二十回旭川大会の準備運営委員事務局長として、多くの業績を残された今野正治先生が、この四月に中富良野町宇文小の校長として栄転され、地域の図工・美術教育の推進者として活躍しておられることを特筆しなければならぬ。

(上川・置杵牛中学校)

## ■ 旭川地区 ■

大会を目前にして

吉田 一雄

旭川の美術サークルは、連盟機関でのサークルといったものでなく、旭川市教育研究会図工美術部会が活動しているわけだが、毎年

学校職員の移動などで名簿、会員数は定っていないし、また専門の美術教師ばかりでもない。今年も四月末に部員名をとりまとめた結果、一七名の人数で、この研究団体もなかなかの大所帯である。年度はじめに年間の研究課題や、各事業内容等が検討され、また各役員も決められて活動するが、今年も、全道造形教育大会の開催地であることと、連盟発足二十周年という大きな節であることから、当面研究の焦点をこの大会に向けて、部員全員が全力を結集してがんばっている。

旭川市の教研も十八の部組織になっていて役員もここ数年前から、すっかり若返って教頭などの参加は一、二を数えるぐらいになった。このたびの旭川大会での役員も、研究部長や、事業部長、其の他の部長くらすは、三十才前後の年代で、最もはりきっている方ばかりで構成されている。したがって研究の姿勢なり、大会の構想にしてもさんしん的である。この若さが、ほんものの研究会のあり方を深くほりさげる力強い原動力になっている。「失敗してもいい。失敗なくして新しいものは生れないし、次期大会にもそれが生きることがない」と研究部全員がこのことを胸に、連日連夜大会をめざして努力を続けている。

## 開かれた窓

岩間 昇

私は子どもの頃から、どちらかといえば数学や理科の学習が、図画・工作より得手のよりに評価されてきた。しかし絵は文字通りに「下手の横好き」で、よく父親に「またボンチ絵をかいて！」と叱られて、かくれるようにして落書きのような想像を描き耽っていた。こんな私に小学校五・六年生と美への窓を開いてくれたのが、泉秀雄先生であった。

しかもなお天分の乏しい私には、一向に芸術的な絵は描けず大人になっていった——そして今も。

ところが、この何をやってもすこぶつきちよだった私、この私自身にどうして絵を描かせ・物を作らせたか——の自分教育のくふうの道程が、その後の小学校教師としての図工科の指導の技術(?)や熱源となって役にたってきたようである。

並の感性と並の技能を持っている教師であるなら誰方が図工科を担当したとしても、多少のくふうと努力で、どの子にも、絵を描き

ものを作る喜びと確さを、身につけさせていく教育……。

これはある意味で、旭川ここの数十年の美術図工教育の悲願であった、ともいえる。のでなからうか。それが具体的には

『美術図工教育の科学化』 『指導の目標や素材経験・技術の有機的な積上げ(構築)』 或は題材や生活へ迫る『認識の深まりの段階的な指導の試み』等々となって表わされてきたのである。(これらの営みを十分に果さないでバトンを次の世代の方々に譲ってしまったが……)

さて、私が新米教師であった頃、当時の生徒の中にW嬢やK君がいた。今や彼らは本旭川大会の実質上の推進力となって活躍しておられる。これを見る時、またしみじみと泉先生の歩みの長く大きかったことを認めずにはおれないのである。

〈旭川・永山東少〉

## 留 萌 地 区

生まれ出る苦しみ

橋 場 昌 三

現在まで留萌管内と連盟の關係は、留萌市と管内八個町村の二つのブロックとして加盟してきているが、実際は留萌市の図工研究会と羽幌町の図工研究会が、団体加盟をしていただけであり、他町村との関連は無いといつてもいいような状態である。

これは、市町村の研究会がそれぞれ互いに交流しあおうという空気が今までに無かつたということにつきると思われる。しかし個々の活動状況は決して淋しいものではなく、夫々精一杯やってきているのである。

昭和四十五年春にいたり、留萌市の有志により、管内的な図工美術教育を語りあう事業として全留萌・子どもの作品を語る会をやるうではないか。主義主張、立場を越えた純粋な気持ちで実現させようではないか。ということとで、まず実行委員会を結成させるためのアップピールを管内全小中学校に送ったところ、予想外に反響が多く、北から南まで二十校三

十八名の委員会が発会し、第一回の作品を語る会を留萌市で、本年十月中旬開催する運びとなった。幸い市教委の強力な予算の裏づけをいたゞいて意を強くしている次第である。

こうした試みが留萌の図工教育の連帯意識を強め自覚されたとき、はじめて本当に実のある組織が生まれ出るものと期待をもっている。地域的条件の恵まない留萌地方に、すばらしい美術の花が咲く日を夢みて生れ出る苦しみを味わい耐え、励んでいる姿を紹介する。

〈留萌・留萌小〉

### 花の咲く日を期待

志 村 猛

連盟発足二十周年と聞き、発足当初より地区委員とし、又本部役員のはしくれとして、いささか関係をもつて来た私にとって、感慨深いものがある。

その私も来春三月には教職を去る身であり最終の年に連盟二十周年にめぐり得た倅せを身に泌みて感じている。

私は前に連盟機関誌に、「造形教育の僻地るもい」という一文をのせた事がある。

その中で日本海沿岸に細長く位置し、やせ

細った土地と荒い風雪の中に、造形的創造の芽がどうしたら芽吹き、育ち、花を咲かせることが出来るだろうかといった意味のことを書いた。

「るもい」の子どもたちにも、それぞれよい芽を吹く素質がある。たゞこの芽を見つげ出し、はぐくみ育ててくれる教師不足と、恵まれない土地条件を嘆いたことを記憶している。

あれから数年、指導者不足は解決されてはいない、がその中であつて、数少ない左記の人達が、それぞれ各地で頑張つてくれている。

橋場、谷口、二本柳(留小)上田(増中)燕(濱南)出村(留中)菊地(幌中)中野、日下(鬼小)長谷川(藤小)佐々木(旭丘)緒方(羽小)佐々川(天小)齊藤(達小)

また留萌、羽幌を中心として、「絵を語る会」「実技講習会」「写生会」「教育展」「全町児童画展」を開いたりもしている。

いま留萌では、もつと巾広く図工教師の仲間をふやし、実践的研究推進のために南、中、北、の三ブロック別組織づくりと強化をはかろうとしている。更に連盟傘下としての地方的組織固めに力を注ぎたいと念願している。

近く私は教職を去る。私の要望と期待が、若い意欲的な先生方に受けつがれ、留萌地方に新鮮な造形の花が咲く日を期待したい。

〈小平・本郷小中〉

## ■ 稚内地区 ■

### 稚内の仲間

種田 満

稚内の図工美術部会の仲間は、三十八名である。四月二十二日に市教研の部会が開かれ、猛者揃いのなかから、部長に藤井正治氏（稚中）副部長に加藤広志氏（東小）安原 正氏（曲瀬小）を選出し、更に市内各校より運営委員を夫々一名ずつ選び今年度のスタートをきった。

ここ数年來、部会の構成メンバーには変わりなく、その運営は誠にスムーズである。研究主題の設定に当たっても、この三年間の研究成果を糧として、分析し、更に小学校教育課程の改訂期を認識し、基本的な姿勢、構えを「図工、美術を通してどんな子どもをめざすか。」とどんな題材をどう与えるか。」という点で確認された。

研究テーマの具体的な進め方については、テーマである「観察による表現」を出来るだけ広く考え各分野に亘り、各校の研究体制の中でそれらを選択し、研究を進めていくことにしている。部会は年六回開催され、授業研

### 検事・弁護士・裁判官

#### — 児童画コンクール滝川大会から

道内各地の児童生徒の絵をもちより、よりよき児童画についての、自由な討論を試みることにあります。

#### ○その要領は

道内を2つに分け、それぞれ検事団と弁護士団をおき、その審判を、会員から任意に選んだ裁判官によって構成します。

- ・検事、弁護士団の構成人員は、それぞれ5名とします。
- ・検事は、児童生徒の画に対して、あらゆる角度から、てきびしい批評をくだし、児童画の造形性、心理性、指導態度へきりこんでいきます。
- ・弁護士団は、それをうけて、児童の立場、指導の立場から、弁護にあたります。
- ・裁判官は、両者の討議をきき、自己判断を通して（賛否を旗で）意志表示を行い絵の入選、落選を決定するわけです。

○但し、討論の持ち時間は、検事、弁護士とも一回一分間で相互に、二回にわたってなされます。ですから、弁論の終了は電鈴で行い、発言が中途であってもやめなくてはならない、ルールとなっています。

○又、一般会員は、裁判官の判定に異議を申し立てることもできますし、それをうけた裁判官は、自己の見解をあきらかにしなくてはなりません。尚、検事、弁護士に対しても一般会員は自由に発言できるわけです。このような討論形式の中で、児童の見方、考え方を、みんなのものにしていくというものです。

究、実技研修、写生等、各校もちまわり会場として行っている。部会の終了時刻も殆んどなごやかに延長される傾向で王冠でのどをうるおすこともしばしばである。

九月部会は秀峰利尻富士、はまなす、砂丘に囲まれた抜海会場で写生会となるが、石か

りなべの舌鼓を楽しみにしている。

更に今野隆二校長の御努力のおかげで作品展も今年で第四回を迎え、計画万端整い力強く前進している。尚、東志指導主事との交流も各人各校さかんに行われている。（稚内・東小）

北海道造形教育連盟  
 役員，常任委員，地区委員一覽

(45. 7. 現在)

	委員長	和 田 芳 郎 (札幌・豊平小)		常任委員	香 西 富士夫 (札幌・北辰中)
	副委員長	古 川 良 吉 (函館・新川小)		金 井 秀 男 (札幌・幌西小)	
		小 山 田 武 (標津・標津中)		荒 木 ア イ (札幌・北二十西十五)	
	會計監査	早 弓 弘 行 (美唄・常盤小)		側 瀨 宇太郎 (札幌・平岸小)	
		高 野 克 郎 (旭川・北星中)		芝 木 捷 子 (札幌・中の島幼)	
		滝 村 虎 雄 (山越・長方部小)		辻 悦 平 (札幌・澄川小)	
		木 村 晴 一 (北見・東陵中)		種 市 誠次郎 (札幌・癸寒小)	
	事務局長	伊 東 将 夫 (札幌・平岸小)		佐 藤 圭 (札幌・東札幌小)	
	常任委員	砂 金 隆 (札幌・手稲中央幼)		松 島 輝 男 (札幌・白楊小)	
		齊 藤 一 雄 (札幌・旭小)		佐 藤 吉五郎 (札幌・幌南小)	
		佐 藤 哲 夫 (札幌・東白石中)		坂 口 清 一 (札幌・平岸小)	
		太 田 達 雄 (札幌・手稲中)		伊 藤 英 世 (札幌・付属小)	
		高 橋 栄 吉 (札幌・藻岩小)		谷 勲 (札幌・北九条小)	
		中 川 大 三 (札幌・羊丘小)		長 津 喜 代 (札幌・創成小)	
		橋 本 富 (札幌・南小)		船 着 昭 弘 (札幌・豊水小)	
		長 谷 川 伝 (札幌・本郷小)		齊 藤 洪 人 (札幌・幌東中)	
		吉 田 広 仕 (札幌・美音保中)		三 谷 哲 司 (札幌・付属中)	
		中 村 矢 一 (札幌・月寒高)		新 谷 純 輔 (札幌・癸寒中)	
		伊 藤 恵 (札幌・羊丘小)		森 健 (札幌・日章中)	
		森 川 昭 夫 (札幌・本町小)		奥 野 郁 男 (札幌・北栄中)	
		土 岐 禎 次 (札幌・北高)		島 界 二 (札幌・新琴似中)	
		遠 藤 久 男 (札幌・美音保小)		坂 田 武 夫 (札幌・八条中)	
		山 田 紀 (札幌・南小)		寺 井 孜 (札幌・南高)	
		成 田 一 男 (札幌・白石小)		高 橋 祺 六 (札幌・開成高)	
		齊 木 杲 一 (札幌・伏見中)		富 極 貢 平 (札幌・啓成高)	

顧問

藤野高常 〓札幌  
 桜井忠 〓〓〓〓  
 繁野三郎 〓〓〓〓  
 野村英夫 〓〓〓〓  
 新妻清 〓〓〓〓  
 赤石武士 〓〓〓〓  
 宮林繁雄 〓函館  
 上条雄也 〓旭川  
 寺井信一 〓札幌  
 藤川基 〓〓〓〓  
 畠山三代喜 〓〓〓〓  
 朝倉力雄 〓旭川  
 加藤杉 〓渡島  
 泉秀雄 〓旭川

地区委員 〓道南方面

渡島支庁 清野 満敏 〓七飯大中山小  
 樽山支庁 津村 彰広 〓乙部・栄浜小  
 函館市 大塚 広 〓今金・今金中  
 函館市 鈴木 利彦 〓函館・弥生小  
 高野 政志 〓函館・船見中  
 担振支庁 野崎 信雄 〓登別・登別小  
 野崎 信雄 〓登別・登別小  
 室蘭市 諏訪 英雄 〓室蘭知利別小  
 英雄 〓室蘭知利別小  
 苫小牧市 池本 良三 〓苫小牧・東小  
 〓苫小牧・東小  
 片桐 勉 〓苫小牧啓北中  
 〓苫小牧啓北中  
 日高支庁 大脇 喜夫 〓内別・豊郷小  
 〓内別・豊郷小  
 地区委員 〓道西方面  
 石狩支庁 三上 晤 〓千歳・蘭越小  
 〓千歳・蘭越小  
 札幌市 種市誠次郎 〓札幌・発寒小  
 〓札幌・発寒小  
 齊藤 洪人 〓札幌・幌東中  
 〓札幌・幌東中  
 後志支庁 鈴木 喜義 〓仁木・仁木小  
 〓仁木・仁木小  
 尾川 和彦 〓倶知安倶知安中  
 〓倶知安倶知安中  
 小樽市 荒木 健一 〓小樽・花園小  
 〓小樽・花園小  
 北空知 田村 幸夫 〓一己・一己中  
 〓一己・一己中  
 藤原 明 〓赤平・赤平小  
 〓赤平・赤平小  
 川村 恒夫 〓江部乙北辰中  
 〓江部乙北辰中  
 南空知 佐久間昭夫 〓栗山・継立中  
 〓栗山・継立中  
 夕張市 高橋 彦七 〓夕張・遠幌小  
 〓夕張・遠幌小  
 美唄市 早弓 弘行 〓美唄・常盤小  
 〓美唄・常盤小

岩見沢市 中谷 有逸 〓岩見沢光陵中

但野 栄一 〓岩見沢北本町小

地区委員 〓道東方面

網走支庁 菅原 隆治 〓佐呂間岩幌小  
 〓佐呂間岩幌小  
 網走市 中村 知久 〓網走・西小  
 〓網走・西小  
 紋別市 横田 勇吉 〓紋別・汐見中  
 〓紋別・汐見中  
 根室支庁 川野上 彰 〓根室昆布森小  
 〓根室昆布森小  
 小山田 武 〓標津・標津中  
 〓標津・標津中  
 十勝支庁 加地 保良 〓本別・本別中  
 〓本別・本別中  
 帯広市 高橋 元春 〓帯広・稲田小  
 〓帯広・稲田小  
 園部 信二 〓帯広・第六中  
 〓帯広・第六中  
 釧路市 西 弘治 〓釧路・城山小  
 〓釧路・城山小  
 地区委員 〓道北方面  
 上川北 神田 耕治 〓下川一の橋小  
 〓下川一の橋小  
 上川中 宮崎 弘 〓当麻・当麻中  
 〓当麻・当麻中  
 上川南 大谷 勝美 〓美瑛置杆牛中  
 〓美瑛置杆牛中  
 旭川市 岩間 昇 〓旭川永山東小  
 〓旭川永山東小  
 萩原 常良 〓旭川・常盤中  
 〓旭川・常盤中  
 留萌支庁 佐々木 忠 〓羽幌・旭丘小  
 〓羽幌・旭丘小  
 留萌市 橋場 昌三 〓留萌・留萌小  
 〓留萌・留萌小  
 稚内市 久我 宏 〓稚内・中央小  
 〓稚内・中央小  
 〓以上

# 北海道造形教育連盟規約

## 一、名称と目的

本連盟は、北海道造形教育連盟といい、北海道造形教育の振興をはかるをもって目的とする。

## 二、事業

本連盟は、目的を達成するためつぎの事業を行う。

- 1 研究会・講演会・展示会等の開催及び後援
- 2 造形教育に関する教科書・教材・教具等の研究
- 3 機関誌「北海道造形教育」の刊行
- 4 他の造形教育団体との連絡提携
- 5 その他造形教育振興上必要な事項

## 三、会員

正会員 本道幼・小・中・高・その他これに準ずる学校の教職員  
賛助会員 本連盟の目的に賛同するもの

## 四、組織

サークル 本道各地にサークルを置き、会員は原則としてこれに所属する

## 五、構成及任務

### 1 役員

委員長 一名 本連盟を代表する  
副委員長 若干名 委員長を補佐する  
会計監査 二名 会計の監査をする

### 2 委員

地区委員 地区二名 地区サークルを代表する  
常任委員 若干名 本連盟の運営に当る  
顧問 連盟の重要な問題につき意見を述べ

### 六、選任

- 1 委員長、副委員長、会計監査は委員総会で選出する
- 2 地区委員は地区サークルで選出する
- 3 常任委員は委員長の委嘱による
- 4 顧問は委員総会において委嘱する

### 七、任期

役員及び委員の任期は一カ年とする。但し重任を妨げない

### 八、会議

- 1 総会 必要に応じ開催し、連盟の事業につき協議する

### 2 委員総会 役員、委員をもって構成し毎年開催する。役員を選出、予算、決算及び年度計画等につき審議する

3 常任委員会 役員及び常任委員をもって構成し、連盟の事業を執行する

### 九、会計

本連盟の会計は会費・事業収入及び寄附金により執行する  
会費 正会員は一人年額百円を納入するものとする  
サークルは年額一千円を本部に納入するものとする

### 一〇、事務局

- 1 事務局は事務局局長在勤の学校におく
- 2 事務局に次の五部をおく  
総務 庶務 会計 研究 編集
- 3 事務局長は常任委員中より委員長が委嘱する

### 一一、年度

本連盟の事業並びに会計年度は四月に始まり翌年三月に終る

### 一二、規約の改廃

本規約の改廃は委員総会の議決による



## あとがき

七月五日。日曜。快晴。天気予報通り気温はぐんぐん上昇。アスファルトがついにゴムの様に柔くなり出す。

開校三年目の羊丘小学校で最後の原稿整理をする前、伊藤恵(教頭)さんに校舎を案内してもらい三階の屋上に出て四囲を展望する。遙か南に恵庭、空沼の山々がくつきりと空を限り、西の藻岩を前面に押し出して更に北の彼方手稲連峰につながる。その間眺望の続く限り緑の丘陵地帯。全く開豁な眺めはすばらしく、丘を渡りくる緑の風は爽やかである。連盟も誕生以来二十年。全道各地の熱心な研究者やサークルが集い合い、年々つみ上げつみ重ねた二十年の業績は、雄大佳良なここでの眺望の様にすばらしく偉大である。

初回の札幌での全道大会を皮切りに、第九回の全道大会の開催、そして年毎に行なってきた主題毎の研究の積み上げと各地大会の実践の累積とは、全道教育上げばかりでなく全国的視野から眺めても特筆される程のものと自負される。

その間、委員長も野村、新妻、赤石、和田

氏と交替を見、各地の先頭を切った当時の指導者も、より新しき者へとそのバトンをタッチしていった。

本部の常任委員として発足当初より活躍した堂野重治、高橋良助、長井孝一の三氏は夫々消ゆることのない功績を残されて物故され、鈴木嘉吉、藤野隆、土門孝の諸氏も幾多の功績を残されて第一線をしりぞかれた。かえりみれば、二十年の星霜は誠に長い年月であり、連盟を大きく変貌しつつ偉大な巨歩を印し続けた。

これからの連盟は、更に新しき者、より鋭き研究者、そしてより熱情を美術教育に捧げる人達によって、一層希望に輝く新時代へ逞しく歩み出すことであろう。

今回の二十周年記念誌は先の十周年記念誌と共に、連盟の二大記念塔でもある。

連盟の永遠の発展と輝やかしい将来の隆昌を祈りつつ、私達は十周年以降二十周年に至る十年間に活躍された人々の労苦や功績を明らかにし、連盟の歴史を浮き彫りにしようとした。

それで企画にあたっては、二十年概括史でその大略をとらえ、ついで各年毎の大会の様子を、当時の講師や役員等の談話やエピソード

などを入れつつ再現し、更に各地区の現況や顧問の方々の随想等をお知らせしようとした。身勝手な原稿依頼に対し、岡村教育長殿はじめ沢山の方々より原稿をいただけたことは誠にありがたい事である。

今、漸く編集の仕事を終えようとして、くみかわす琥珀な酒は芳醇で美味である。

昭・45・7・5

編集委員

太田 達雄(手稲中)  
長谷川 伝(本郷小)  
成田 一男(白石小)  
中村 矢一(月寒高)  
伊藤 忠(羊丘小)  
金井 秀男(幌西小)  
齊木 梶一(伏見中)  
香西富士夫(北辰中)

追記・顧問の吉田五左工門先生、井田俊末先生には、病気のため、原稿がかけませんが、皆さんにくれぐれもよろしくとのことでした。

